

審査意見への対応を記載した書類(8月)

(目次) 社会学部 社会学科

【大学等の設置の趣旨・必要性】

- 1 <3つのコースの意義等が不明確> (是正事項) … 1
本学科が設置される関西圏に多くの社会学部を有する大学が既に存在する中、本学部の特徴として「現代社会学コース」、「メディア社会学コース」、「社会心理学コース」の3つのコースを設ける計画であることが示されているが、その趣旨や教育上の位置付けが不明確である。本学におけるコースの考え方を教育上の特色を含めて説明するとともに、それぞれのコースを設ける意義や教育上及び学則上の位置付けなどを改めて明確に説明すること。また、各コースが本学部内において、どのような連携のもとで運営されるのかについても、併せて説明すること。
- 2 <3つのポリシーの適正性が不明確> (是正事項) … 16
審査意見1の対応も踏まえ、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。
 - (1)ディプロマ・ポリシーに掲げられている各コースの知識及び能力について、例えば『「現代社会学」に関する知識、能力』とだけ記載されるのみで、具体的に身に付けるべき知識及び能力が不明確である。3つのコースで身に付けるべき知識及び能力をそれぞれ明らかにした上で、養成する人材像やカリキュラム・ポリシーとの関連性も含めて、その適正性を明確に説明すること。
 - (2)「思考力・主体性・表現力」に関するディプロマ・ポリシーが、タイトルと内容で整合していないため、適切に改めること。
 - (3)カリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学習成果をどのように評価するかを定める基本的な方針になっているとは認められないことから、適切に改めること。また、カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係について、カリキュラム・ツリーを示した上で明確に説明すること。
 - (4)アドミッション・ポリシーのうち「関心・意欲・態度」に係る部分が、志望するコースごとに書き分けられているが、入試においてどのように測るかが不明であり、また、コースの振り分けについては、1年次後期に、「3コース均等を基準とし、希望調査、担任による面談、指導を経て、本人の志望意思、1年次の成績を参考に決定」することとなっており、アドミッション・ポリシーとの関係が明らかなでない。このため、コース志望者ごとに設けたアドミッション・ポリシーの趣旨や入学者選抜、コース選択との関係を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

- 3 <入学者選抜における区分と選抜方法が不整合>
一般選抜後期の「2教科選択型」について、選抜方法が「国語・数学（1科目選択）」となっており、区分名称と不整合が生じていることから、適切に改めること。 (是正事項) … 30

【教育課程等】

- 4 <教育課程の適正性が不明確>
教育課程について、以下の観点及び各科目区分における必修・選択に係る考え方も含めて、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、3つのコース設定の意義に照らして、教育課程の適正性について、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。なお、教育課程を見直した場合には、その内容に応じた適切な教員組織を編制すること。 (是正事項) … 31

(1)教育課程の構成を見ると、地歴分野の手厚さに比べて、例えば、ジェンダーや観光現象等の現代的な諸現象を取り扱う科目が配置されておらず、また、メディア社会学分野等に関連する科目に放送メディアを主たる対象とした科目が配置されていないなど、教育課程に偏りがあるように見受けられるため、その適正性が不明確であることから、明確に説明すること。

(2)特に「社会心理学コース」について、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力等を修得するための体系的な教育課程が編成されているか疑義がある。このため、審査意見1及び2の対応を踏まえ、「社会心理学コース」の教育課程及び教員組織の適正性について明確に説明すること。

- 5 <実験科目における単位数と授業計画の整合性が不明確>
学則第27条第3号に「実験、実習、体育実技については、45時間をもって1単位とする」旨記載があるが、例えば「心理学実験Ⅰ」や「心理学実験Ⅱ」について、単位数及び授業計画と不整合が生じているように見受けられる。当該科目が同条第4号の「教育上必要があるときは、(中略)実験、実習、体育実技については30時間の実験・実習・体育実技をもって1単位とする」の適用を受けるか否かも含めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。 (是正事項) … 80
- 6 <学生の学修効果や負担等に配慮された教育課程が不明確>
履修モデルを見ると、2年次前期の取得単位数が非常に多いため、学生の学修効果や負担等も踏まえた、体系的な教育課程が編成されているか不明確であることから、明確に説明すること。 (是正事項) … 89
- 7 <GPA制度の内容が不明確>
GPA制度による成績評価を実施する旨説明されているが、各評価における評価点(GP)が明示されていないなど、制度の具体的な内容が不明確であることから、明確に説明すること。 (是正事項) … 96

【教員組織等】

- 8 <教員組織の適正性が不明確>
教育課程に対応した適切な教員組織が編制されているか疑義があるため、審査意見1及び2、4の対応も踏まえ、明確に説明すること。
(是正事項) … 100
- 9 <授業科目ごとの教員配置が不明確>
「教育課程の概要」の専任教員等の配置、「シラバス」における担当教員名、「教員名簿」で齟齬(そご)があるため、適切に改めること。
(是正事項) … 118
- 10 <若手教員の積極的な採用>
教員組織について、20～30歳代の専任教員がおらず、また保有する学位の修士及び学士の割合が高いことから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画やより高度な学位の取得など、教員組織の将来構想についてより具体的に説明すること。
(改善事項) … 119

【名称、その他】

- 11 <図書等の更なる充実>
図書等の整備について、開設時に社会心理学分野の図書等を整備する計画となっているが、心理学における他分野の図書等についても一層の充実を図ることが望ましい。
(改善事項) … 124

< 3つのコースの意義等が不明確 >

1. 本学科が設置される関西圏に多くの社会学部を有する大学が既に存在する中、本学科の特色として「現代社会学コース」、「メディア社会学コース」、「社会心理学コース」の3つのコースを設ける計画であることが示されているが、その趣旨や教育上の位置付けが不明確である。本学におけるコースの考え方を教育上の特色を含めて説明するとともに、それぞれのコースを設ける意義や教育上及び学則上の位置付けなどを改めて明確に説明すること。また、各コースが本学部内において、どのような連携のもとで運営されるのかについても、併せて説明すること。

(対応)

ご指摘いただきました点について、以下の通り説明するとともに、「設置の趣旨」及び「学則」を修正します。

1. 3コース開設の趣旨及び意義について

現代社会は、刻々と進化を続ける科学技術、グローバル化、少子高齢化など、変動要因に満ちており、そこに暮らす私たちは、さまざまな社会問題を抱え暮らしている。

これら諸問題の解決には、社会学に関する知識や、実証的な調査能力、行為等のミクロレベルから、社会全体を対象とするマクロレベルに至る知識、視野を有し、より良い社会を構想して、解決策を提言できる能力をもった人材が必要である。

そこで本学では、この社会的要請に応えるべく、社会で起こっている事象や社会構造、社会と人間との関係等について考察する学問である社会学を学ぶ社会学部社会学科を設置することとした。

伝統的な社会学は、文化（社会制度や社会意識）、社会（社会的相互行為）、心理（社会的パーソナリティ）を極とする3極構造の三角形によって社会のシステムを捉えてきた。しかし、変化の激しい現代社会では、文化を頂点に、内面化と制度化のメカニズムを考察するこの旧来型の構造から、社会を構成する根本にあたる「ひと」を3極構造の要（頂点）に置き、社会の制度や社会意識（文化）、「ひと」の社会的相互行為、社会的パーソナリティの3者関係を考察する視点が求められている。

そこで、本社会学部社会学科では、この1つ目の極の「社会の制度や社会意識」にあたる学びを中心とするコースとして、社会学の主要理論をベースに「現代社会」を見つめ、専門の学びを深める「現代社会学コース」を、また、2つ目の極の『「ひと」の社会的相互行為』にあたる学びを中心とするコースとして、高度化、高速化が進む「メディア」の役割と課題に関する考察の学

びを深める「メディア社会学コース」を、そして、3つ目の極の「社会的パーソナリティ」にあたる学びを中心とするコースとして、「社会」を構成する「人間」の思考、感情、行為や課題についての考察の学びを深める「社会心理学コース」の3コースを設置することとした。

コース選択は2年次とし、全学生が共通して「社会学」に関する基礎知識を身につけた後、所属コースの専門分野の学びを中心に、3コースの基礎的概念や、他コースの専門科目の履修を通じ、幅広い知識、視野を養成する教育課程を展開し、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材の養成を図る。

2. 3コースの特色について

○ 教育課程の特色

本社会学部社会学科では、全学生が共通して、「社会学」の基盤にあたる知識、社会調査に関する基礎的な知識を身につけたうえで、2年次からコースを選択し、所属コースの専門分野の学びを中心に、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」に関する基礎的概念や、他コースの専門科目や関連分野の授業科目の履修を通じ、幅広い知識、視野を養成する教育課程を編成している。

また、「共通基礎科目」に配する1、2年次の「キャリアデザイン科目」において、1年次は、「現代社会学」の学びに対する意識や、コース選択に向けての興味関心の啓発を目的に、2年次は、将来進路への展望、キャリア意識の形成を図ることを目的に、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各分野に関連する業種等、社会の第一線で活躍されている方を講師に招き、特別講義をいただく取り組みをそれぞれ年間7回実施する。

特別講義実施にあたっては、事前授業において、特別講義の目的理解の取り組みを展開し、講義実施後、学生にレポートを課したうえで、事後授業で総括を行うことにより、教育効果の高い講義展開を図る。

○ 教員組織の特色

本社会学部社会学科では、主に「現代社会学コース」の授業科目を担当する教員に、主要科目である地域社会、家族社会、産業社会、環境社会、教育社会、国際社会、社会問題、社会文化等を専門分野とする大学での教育経験豊かな教員を配置する。また、主に「メディア社会学コース」の授業科目を担当する教員に、主要科目であるマス・コミュニケーション、ジャーナリズム、新聞、活字メディア、放送・映像、広告・PR、情報メディア等に関連する経歴を有する教員を配置する。そして、主に「社会心理学コース」の授業科目を担当する教員に、主要領域である「個人」「対人」「集団」「社会文化」や関連する心理学領域を専門分野とする大学での教育経験豊かな専

任教員を配置する。

また、前述の3コース開設の趣旨、意義、教育課程の特色、幅広い視野をもった人材を養成する本社会学部の目的をふまえ、これら教員の中に、「メディア社会学」分野の経歴を有し、「現代社会学」の環境、国際、社会問題を専門とする専任教員や、「メディア社会学」「社会心理学」にまたがる領域を専門とする専任教員を配している点が教員組織の特色である。

○ 教育上の特色

<現代社会学コース>

「現代社会学コース」所属学生は、前述の特色を有する教育課程により、1年次に、「社会学」の基盤にあたる知識、社会調査に関する基礎的な知識を身につけた後、2年次に、必修科目の「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」を修得することにより、3コースの専門分野に関する概論知識を身につけたうえで、「現代社会学分野」の専門科目を中心に、「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」の授業科目を含めた専門の学びを展開する。

この専門を超えた学びの展開において、たとえば、「メディア社会学分野」科目の「メディア文化論」の履修を通じ、専門分野の文化に関する知識、視野をメディア分野へと展開発展させることができる。また、「社会心理学分野」科目の「経済心理学」の履修を通じ、専門分野の産業に関する学びの背景にある「人間」の心理に関する知識を身につけることができる等、専門分野の「現代社会学」を超えた幅広い知識、視野を養成するとともに、専門分野の学びの深化、展開を図ることができる点が教育上の特色である。

また、本学では、立地自治体である吹田市と地域連携協定を結んでおり、身につけた「現代社会学」に関する知識、能力を活かし、課外活動、サークル活動等において、地域社会との連携の取り組みを積極的に展開することができることが「現代社会学コース」の特色である。

<メディア社会学コース>

「メディア社会学コース」所属学生は、前述の特色を有する教育課程により、1年次に、「社会学」の基盤にあたる知識、社会調査に関する基礎的な知識を身につけた後、2年次に、必修科目の「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」を修得することにより、3コースの専門分野に関する概論知識を身につけたうえで、「メディア社会学分野」の専門科目を中心に、「現代社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」の授業科目を含めた専門の学びを展開する。

この専門を超えた学びにおいて、たとえば、「現代社会学分野」科目の「社会問題論」の履修を通じ、専門分野のメディアの役割や課題に関する知識を、社会問題として捉える視野を身につけることができる。また、「社会心理学分野」科目の「対人関係論」の履修を通じ、専門分野の情報伝達における「人間」の心理について学ぶことができる等、専門分野の「メディア社会学」を超

えた幅広い知識、視野を養成するとともに、専門分野の学びの深化、展開を図ることができる点が教育上の特色である。

また、演習授業、卒業研究、課外活動等において、身につけた知識、能力を活かし、学生が活発にメディア制作活動を展開できるよう、社会学部棟1Fに、撮影機器、マルチミキサー、編集用PC等を配した「メディア制作室」を設けている点が、「メディア社会学コース」の教育展開上の特色である。

＜社会心理学コース＞

「社会心理学コース」所属学生は、前述の特色を有する教育課程により、1年次に、「社会学」の基盤にあたる知識、社会調査に関する基礎的な知識を身につけた後、2年次に、必修科目の「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」を修得することにより、3コースの専門分野に関する概論知識を身につけたうえで、「社会心理学分野」の専門科目を中心に、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「関連科目」の授業科目を含めた専門の学びを展開する。

この専門を超えた学びにおいて、たとえば、「現代社会学分野」科目の「地域社会学」の履修を通じ、専門分野の「集団」「社会文化」に関する知識を、地域社会へと展開させることができる。また、「メディア社会学分野」科目の「インターネットコミュニケーション論」の履修を通じ、高度情報化社会における課題をふまえ、専門分野の「対人」に関する学びを深めることができる等、専門分野の「社会心理学」を超えた幅広い知識、視野を養成するとともに、専門分野の学びの深化、展開を図ることができる点が教育上の特色である。

また、前述の吹田市との地域連携協定による地域社会との連携活動において、身につけた「社会心理学」に関する知識、能力を活かした取り組みを展開することにより、学びの意義の再認識や、社会に貢献する意欲の啓発を図ることができる点が「社会心理学コース」の教育上の特色である。

3. 学則における3コースの位置づけの明確化について

別紙の通り、学則第2章「学部、学科等及び修業年限」、第6条「学部」及び第7条「入学定員」の条文を改定し、「現代社会学コース」「メディア社会学コース」「社会心理学コース」の位置づけを明確に記載する。

4. コースの連携体制について

前述の通り、本社会学部社会学科では、全学生が共通して、「社会学」の基盤にあたる知識、能

力を身につけた後、2年次から3コースに分かれ、それぞれの専門分野を中心とした学びを展開し、さらに、3分野の基礎的概念や、各コースの専門科目を横断的に学ぶことができる柔軟な教育課程を編成しており、学生のコースを超えた連携意識の基盤は、「共通基礎科目」区分に配する「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「基盤科目」区分に配する「社会学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代と社会」「社会とメディア」「社会と心理」「社会と歴史」「社会と文化」「社会と環境」等の科目、また、複数のコース専門教員が担当する「社会調査入門」科目、「専門科目」区分に配する「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」等の全学共通必修科目や、他コースの専門分野科目の履修を通じて形成する。

また、「基礎・専門演習科目」区分の1年次配当必修科目「基礎演習」において、全学生を対象にグループ編成による資料収集、意見交換の取り組みを展開するとともに、2、3年次配当必修科目「専門演習Ⅰ・Ⅱ」において、授業導入段階の学びのオリエンテーションを全学生対象に実施、コース単位のグループ編成による研究活動を展開した後、全学生を対象とする総括段階の学びにおいて、所属コースを超えて他コースのグループによる調査研究成果報告を聞き、また、意見交換の取り組みを展開することにより、コースを超えた学生の連携、交流の促進を図る。

また、教員の連携は、新設の社会学部棟の3F教員フロアに社会学部全教員の研究室（プライベートラボ）を配するとともに、教員相互の教育研究情報の共有、交換が円滑に図られるよう、共有教育研究空間（オープンラボ）に全教員のデスクを配するとともに、ミーティングデスクや、隣接する空間に会議室を設け、学部全体の教授会や、各種委員会会議、また、各コースの専門科目を担当する教員単位による打ち合わせ、コースを超えた教員の交流、情報交換等、さまざまな規模の会議、打ち合わせを展開できるよう環境整備を図る。

また、教員、学生が、さまざまな分野、領域の研究活動にふれることにより、専門分野や所属コースの枠を超えた連携、交流、情報交換が展開されるよう、教員フロアに隣接する形で、4年次の卒業研究において使用する演習室を配置する。

新	旧
(3) 社会学部社会学科設置の趣旨 現代社会は、刻々と進化を続ける科学技術、グローバル化、少子高齢化など、変動要因に満ちており、そこに暮らす私たちは、さまざまな社会問題を抱え暮らしている。 これら諸問題の解決には、社会学に関する知識や、実証的な調査能力、行為等のミクロレベルから、社会全体を対象とするマクロレベルに至る知識、視野を有し、より良い社会を構想して、解決策を提言できる能力をもった人材が必要である。 そこで本学では、この社会的要請に応えるべく、社会で起こっている事象や社会構造、社会と人間との関係等について考察する学問である社会学を学ぶ社会学部社会学科を設置することとした。 伝統的な社会学は、文化（社会制度や社会意識）、社会（社会的相互行為）、心理（社会的パーソナリティ）を極とする3極構造の三角形によって社会のシステムを捉えてきた。しかし、変化の激しい現代社会では、文化を頂点に、内面化と制度化のメカニズムを考察するこの旧来型の構造から、社会を構成する根本にあたる「ひと」を3極構造の要（頂点）に置き、社会の制度や社会意識（文化）、「ひと」の社会的相互行為、社会的パーソナリティの3者関係を考察する視点が求められている。 そこで、本社会学部社会学科では、日本学術会議 社会学委員会 社会学分野の参照基準検討分科会が、「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野」（平成26年9月30日）【資料3】において「社会学の学びを通じて獲得すべき基本的な知識と理解」で「社会を構成する諸領域についての基本的な知識と理解」として掲げている事項を念頭に、前述の3極構造の1つ目の極の「社会の制度や社会意識」にあたる学びを中心とするコースとして、社会学の主要理論をベースに「現代社会学」を見つめ、専門の学びを深める「現代社会学コース」を、また、2つ目の極の『「ひと」の社会的相互行為』にあたる学びを中心とするコースとして、高度化、高速化が進む「メディア」の役割と課題に関する考察の学びを深める「メディア社会学コース」を、そして、3つ目の極の「社会的パーソナリティ」にあたる学びを中心とするコースとして、「社会」を構成する「人間」の思考、感情、行為や課題についての考察の学びを深める「社会心理学コース」の3コースを設置することとした。 コース選択は2年次とし、全学生が共通して「社会学」に関する基礎知識を身につけた後、所	(3) 社会学部社会学科設置の趣旨 本社会学部は、社会学に関する基礎知識、能力を基礎に、社会が抱える課題の解決に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材の養成を図ることを目的に、社会学部のもとに社会学科を置き、1年次に、全学生が共通して社会学の基礎理論や社会調査に関する知識、能力を身につけた後、2年次にコースを選択し、所属コース分野を中心とした専門の学びを展開する体制をとることとする。 設置コースは、日本学術会議 社会学委員会 社会学分野の参照基準検討分科会が、「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野」（平成26年9月30日）【資料3】において「社会学の学びを通じて獲得すべき基本的な知識と理解」で「社会を構成する諸領域についての基本的な知識と理解」として掲げている事項を念頭に、以下の3コースとする。 <現代社会学コース> 現代社会は、科学技術やグローバル化の急速な進展による人、物、文化の移動規模の拡大、産業のトランスナショナル化や、少子高齢化、核家族化など、さまざまな変動要因に満ち溢れており、私たちは、常にこれまで経験したことのない課題と向き合いながら暮らしている。 この激動の現代社会を見つめ、課題解決に意欲的に取り組み、より良い社会の創造に貢献しようとする人材を育てることを目標に、前述の「社会学を学ぶ学生が身につけるべき基本的な知識と理解」【資料3】に掲げられている「都市・農村などの地域社会・コミュニティについての基本的な知識と理解」「労働・消費などの活動と企業・産業などについての基本的な知識と理解」「家族などの親密な関係性についての基本的な知識と理解」などを含む「現代社会学」の専門分野を中心に社会学を学ぶ「現代社会学コース」を設ける。 <メディア社会学コース> 科学技術の進展により、人と人をつなぐメディアは、年々高度化、高速化、規模拡大を続けており、これまで情報の受け手であった私たちが情報発信主体にもなり得る時代である。 とどまることなく進化を続けるメディアコミュニケーションのメカニズムを理解し、情報飽和の現代社会が抱える課題解決に意欲的に取り組み、便利さと安心が共存する社会の実現

属コースの専門分野の学びを中心に、3コースの基礎的概念や、他コースの専門科目の履修を通じ、幅広い知識、視野を養成する教育課程を展開し、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材の養成を図る。

<現代社会学コース>

現代社会は、科学技術やグローバル化の急速な進展による人、物、文化の移動規模の拡大、産業のトランスナショナル化や、少子高齢化、核家族化など、さまざまな変動要因に満ち溢れており、私たちは、常にこれまで経験したことのない課題と向き合いながら暮らしている。

この激動の現代社会を見つめ、課題解決に意欲的に取り組み、より良い社会の創造に貢献しようとする人材を育てることを目標に、前述の「社会学を学ぶ学生が身につけるべき基本的な知識と理解」【資料3】に掲げられている「都市・農村などの地域社会・コミュニティについての基本的な知識と理解」「労働・消費などの活動と企業・産業などについての基本的な知識と理解」「家族などの親密な関係性についての基本的な知識と理解」などを含む「現代社会学」の専門分野を中心に社会学を学ぶ「現代社会学コース」を設ける。

<メディア社会学コース>

科学技術の進展により、人と人をつなぐメディアは、年々高度化、高速化、規模拡大を続けており、これまで情報の受け手であった私たちが情報発信主体にもなり得る時代である。

とどまることなく進化を続けるメディアコミュニケーションのメカニズムを理解し、情報飽和の現代社会が抱える課題解決に意欲的に取り組み、便利さと安心が共存する社会の実現に貢献しようとする人材を育てることを目標に、前述の「社会学を学ぶ学生が身につけるべき基本的な知識と理解」【資料3】に掲げられている「メディア・情報・コミュニケーションについての基本的な知識と理解」を含む「メディア社会学」の専門分野を中心に社会学を学ぶ「メディア社会学コース」を設ける。

<社会心理学コース>

「社会心理学は、社会学者エドワード・A・ロス、心理学者ウィリアム・マクドゥーガルのそれぞれが同時期に提唱したことに始まる」（日本大百科全集）【資料4】、「社会心理学は、心理学と社会諸科学の境界科学という性格が強い」（世界大百科事典）【資料5】、「現代の社会心理学は、心理学の枠組みからの分析が主流となっている

に貢献しようとする人材を育てることを目標に、前述の「社会学を学ぶ学生が身につけるべき基本的な知識と理解」【資料3】に掲げられている「メディア・情報・コミュニケーションについての基本的な知識と理解」を含む「メディア社会学」の専門分野を中心に社会学を学ぶ「メディア社会学コース」を設ける。

<社会心理学コース>

「社会心理学は、社会学者エドワード・A・ロス、心理学者ウィリアム・マクドゥーガルのそれぞれが同時期に提唱したことに始まる」（日本大百科全集）【資料4】、「社会心理学は、心理学と社会諸科学の境界科学という性格が強い」（世界大百科事典）【資料5】、「現代の社会心理学は、心理学の枠組みからの分析が主流となっているが、以前は社会学との距離がより接近していた。社会的なアプローチは、社会構造や制度・組織が個人の行為や集団に及ぼす影響が検討される点で「心理学的」社会心理学と立場を異にするが、自己あるいはアイデンティティなどミクロな問題に関しては現在でも二つのアプローチが重なることもあり、より良い関係への模索が続いている。全体的に見れば、研究方法と研究対象の多様性を保ちつつ、個人と社会、そして文化とのかかわりを科学的に追究し社会問題の解決につなげようと試みるのが現在の社会心理学の基本的姿勢となっている」（最新 心理学事典）【資料6】とあるように、社会心理学は、社会学と心理学の双方を土壌とする学問である。

また、「日本では、政治意識、階級・階層意識、青年意識、あるいは家族観や結婚観、さらに政治文化や大衆文化のような対象に関する研究などが、社会意識論のなかで行われてきている。

この社会意識論は、社会心理学、とくに社会的社会心理学の重要な部門である。（中略）このような社会意識論を社会心理学の重要な部門として位置づけていくことが、今後の社会心理学の一つの課題でもある。」（日本大百科全集）

【資料4】とあるように、「社会」と「人間」のあり方が刻々と変化する激動の現代社会は、「社会」を形成する「人間」の思考、感情、行為、態度がどのように生み出され、変化し、また、どのような課題を抱えているのかについて考える社会的な視点からの社会心理学を求めている。

本学部社会学科では、こうした社会心理学の学びを通じ、社会問題の解決に取り組み、明るく温かい社会づくりに貢献しようとする人材を育てることを目標に、前述の「社会学を学ぶ学生が身につけるべき基本的な知識と理解」

が、以前は社会学との距離がより接近していた。社会的なアプローチは、社会構造や制度・組織が個人の行為や集団に及ぼす影響が検討される点で「心理学的」社会心理学と立場を異にするが、自己あるいはアイデンティティなどミクロな問題に関しては現在でも二つのアプローチが重なることもあり、より良い関係への模索が続いている。全体的に見れば、研究方法と研究対象の多様性を保ちつつ、個人と社会、そして文化とのかかわりを科学的に追究し社会問題の解決につなげようと試みるのが現在の社会心理学の基本的姿勢となっている(最新 心理学事典)【資料6】とあるように、社会心理学は、社会学と心理学の双方を土壌とする学問である。

また、「日本では、政治意識、階級・階層意識、青年意識、あるいは家族観や結婚観、さらに政治文化や大衆文化のような対象に関する研究などが、社会意識論のなかで行われてきている。

この社会意識論は、社会心理学、とくに社会的社会心理学の重要な部門である。(中略)このような社会意識論を社会心理学の重要な部門として位置づけていくことが、今後の社会心理学の一つの課題でもある。」(日本大百科全集)【資料4】とあるように、「社会」と「人間」のあり方が刻々と変化する激動の現代社会は、「社会」を形成する「人間」の思考、感情、行為、態度がどのように生み出され、変化し、また、どのような課題を抱えているのかについて考える社会的な視点からの社会心理学を求めている。

本学部社会学科では、こうした社会心理学の学びを通じ、社会問題の解決に取り組み、明るく温かい社会づくりに貢献しようとする人材を育てることを目標に、前述の「社会学を学ぶ学生が身につけるべき基本的な知識と理解」【資料3】に掲げられている「相互行為と自我や意味の形成についての基本的な知識と理解」を含む「社会心理学」の専門分野を中心に社会学を学ぶ「社会心理学コース」を設ける。

【資料3】「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野」日本学術会議 社会学委員会 社会学分野の参照基準検討分科会

【資料4】「社会心理学」日本百科全集

【資料5】「社会心理学」世界大百科事典

【資料6】「社会心理学」最新 心理学事典

(4) 3コースの特色

○ 教育課程の特色

本社会学部社会学科では、全学生が共通して、「社会学」の基盤にあたる知識、社会調査に関す

【資料3】に掲げられている「相互行為と自我や意味の形成についての基本的な知識と理解」を含む「社会心理学」の専門分野を中心に社会学を学ぶ「社会心理学コース」を設ける。

【資料3】「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野」日本学術会議 社会学委員会 社会学分野の参照基準検討分科会

【資料4】「社会心理学」日本百科全集

【資料5】「社会心理学」世界大百科事典

【資料6】「社会心理学」最新 心理学事典

る基礎的な知識を身につけたうえで、2年次からコースを選択し、所属コースの専門分野の学びを中心に、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」に関する基礎的概念や、他コースの専門科目や関連分野の授業科目の履修を通じ、幅広い知識、視野を養成する教育課程を編成している。

また、「共通基礎科目」に配する1、2年次の「キャリアデザイン科目」において、1年次は、「現代社会学」の学びに対する意識や、コース選択に向けての興味関心の啓発を目的に、2年次は、将来進路への展望、キャリア意識の形成を図ることを目的に、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各分野に関連する業種等、社会の第一線で活躍されている方を講師に招き、特別講義をいただく取り組みをそれぞれ年間7回実施する。

特別講義実施にあたっては、事前授業において、特別講義の目的理解の取り組みを展開し、講義実施後、学生にレポートを課したうえで、事後授業で総括を行うことにより、教育効果の高い講義展開を図る。

○ 教員組織の特色

本社会学部社会学科では、主に「現代社会学コース」の授業科目を担当する教員に、主要科目である地域社会、家族社会、産業社会、環境社会、教育社会、国際社会、社会問題、社会文化等を専門分野とする大学での教育経験豊かな教員を配置する。また、主に「メディア社会学コース」の授業科目を担当する教員に、主要科目であるマス・コミュニケーション、ジャーナリズム、新聞、活字メディア、放送・映像、広告・PR、情報メディア等に関連する経歴を有する教員を配置する。そして、主に「社会心理学コース」の授業科目を担当する教員に、主要領域である「個人」「対人」「集団」「社会文化」や関連する心理学領域を専門分野とする大学での教育経験豊かな専任教員を配置する。

また、前述の3コース開設の趣旨、意義、教育課程の特色、幅広い視野をもった人材を養成する本社会学部の目的をふまえ、これら教員の中に、「メディア社会学」分野の経歴を有し、「現代社会学」の環境、国際、社会問題を専門とする専任教員や、「メディア社会学」「社会心理学」にまたがる領域を専門とする専任教員を配している点が教員組織の特色である。

○ 教育上の特色

<現代社会学コース>

「現代社会学コース」所属学生は、前述の特色を有する教育課程により、1年次に、「社会学」

の基盤にあたる知識、社会調査に関する基礎的な知識を身につけた後、2年次に、必修科目の「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」を修得することにより、3コースの専門分野に関する概論知識を身につけたうえで、「現代社会学分野」の専門科目を中心に、「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」の授業科目を含めた専門の学びを展開する。

この専門を超えた学びの展開において、たとえば、「メディア社会学分野」科目の「メディア文化論」の履修を通じ、専門分野の文化に関する知識、視野をメディア分野へと展開発展させることができる。また、「社会心理学分野」科目の「経済心理学」の履修を通じ、専門分野の産業に関する学びの背景にある「人間」の心理に関する知識を身につけることができる等、専門分野の「現代社会学」を超えた幅広い知識、視野を養成するとともに、専門分野の学びの深化、展開を図ることができる点が教育上の特色である。

また、本学では、立地自治体である吹田市と地域連携協定を結んでおり、身につけた「現代社会学」に関する知識、能力を活かし、課外活動、サークル活動等において、地域社会との連携の取り組みを積極的に展開することができることが「現代社会学コース」の特色である。

<メディア社会学コース>

「メディア社会学コース」所属学生は、前述の特色を有する教育課程により、1年次に、「社会学」の基盤にあたる知識、社会調査に関する基礎的な知識を身につけた後、2年次に、必修科目の「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」を修得することにより、3コースの専門分野に関する概論知識を身につけたうえで、「メディア社会学分野」の専門科目を中心に、「現代社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」の授業科目を含めた専門の学びを展開する。

この専門を超えた学びにおいて、たとえば、「現代社会学分野」科目の「社会問題論」の履修を通じ、専門分野のメディアの役割や課題に関する知識を、社会問題として捉える視野を身につけることができる。また、「社会心理学分野」科目の「対人関係論」の履修を通じ、専門分野の情報伝達における「人間」の心理について学ぶことができる等、専門分野の「メディア社会学」を超えた幅広い知識、視野を養成するとともに、専門分野の学びの深化、展開を図ることができる点が教育上の特色である。

また、演習授業、卒業研究、課外活動等において、身につけた知識、能力を活かし、学生が活発にメディア制作活動を展開できるよう、社会学部棟1Fに、撮影機器、マルチミキサー、編集用PC等を配した「メディア制作室」を設けている点が、「メディア社会学コース」の教育展開上の

特色である。

<社会心理学コース>

「社会心理学コース」所属学生は、前述の特色を有する教育課程により、1年次に、「社会学」の基盤にあたる知識、社会調査に関する基礎的な知識を身につけた後、2年次に、必修科目の「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」を修得することにより、3コースの専門分野に関する概論知識を身につけたうえで、「社会心理学分野」の専門科目を中心に、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「関連科目」の授業科目を含めた専門の学びを展開する。

この専門を超えた学びにおいて、たとえば、「現代社会学分野」科目の「地域社会学」の履修を通じ、専門分野の「集団」「社会文化」に関する知識を、地域社会へと展開させることができる。また、「メディア社会学分野」科目の「インターネットコミュニケーション論」の履修を通じ、高度情報化社会における課題をふまえ、専門分野の「対人」に関する学びを深めることができる等、専門分野の「社会心理学」を超えた幅広い知識、視野を養成するとともに、専門分野の学びの深化、展開を図ることができる点が教育上の特色である。

また、前述の吹田市との地域連携協定による地域社会との連携活動において、身につけた「社会心理学」に関する知識、能力を活かした取り組みを展開することにより、学びの意義の再認識や、社会に貢献する意欲の啓発を図ることができる点が「社会心理学コース」の教育上の特色である。

(5) コースの連携体制について

前述の通り、本社会学部社会学科では、全学生が共通して、「社会学」の基盤にあたる知識、能力を身につけた後、2年次から3コースに分かれ、それぞれの専門分野を中心とした学びを展開し、さらに、3分野の基礎的概念や、各コースの専門科目を横断的に学ぶことができる柔軟な教育課程を編成しており、学生のコースを超えた連携意識の基盤は、後述の「教育課程の編成の特色」に記載の「共通基礎科目」区分に配する「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「基礎科目」区分に配する「社会学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代と社会」「社会とメディア」「社会と心理」「社会と歴史」「社会と文化」「社会と環境」等の科目、また、複数のコース専門教員が担当する「社会調査入門」科目、「専門科目」区分に配する「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」等の全学共通必修科目や、他コースの専門分野科目の履修を通じて形成する。

また、「基礎・専門演習科目」区分の1年次配

当必修科目「基礎演習」において、全学生を対象にグループ編成による資料収集、意見交換の取り組みを展開するとともに、2、3年次配当必修科目「専門演習Ⅰ・Ⅱ」において、授業導入段階の学びのオリエンテーションを全学生対象に実施、コース単位のグループ編成による研究活動を展開した後、全学生を対象とする総括段階の学びにおいて、所属コースを超えて他コースのグループによる調査研究成果報告を聞き、また、意見交換の取り組みを展開することにより、コースを超えた学生の連携、交流の促進を図る。

また、教員の連携は、後述の「校舎等施設の整備計画」に記載の社会学部棟の3F教員フロアに社会学部全教員の研究室（プライベートラボ）を配するとともに、教員相互の教育研究情報の共有、交換が円滑に図られるよう、共有教育研究空間（オープンラボ）に全教員のデスクを配するとともに、ミーティングデスクや、隣接する空間に会議室を設け、学部全体の教授会や、各種委員会会議、また、各コースの専門科目を担当する教員単位による打ち合わせ、コースを超えた教員の交流、情報交換等、さまざまな規模の会議、打ち合わせを展開できるよう環境整備を図る。

また、教員、学生が、さまざまな分野、領域の研究活動にふれることにより、専門分野や所属コースの枠を超えた連携、交流、情報交換が展開されるよう、教員フロアに隣接する形で、4年次の卒業研究において使用する演習室を配置する。

新	旧
第2章 学部、学科等及び修業年限 (学部) 第6条 本学に、次の学部を置き、学部ごとに次のとおり教育研究上の目的を定める。 ・教育学部 教育学科のもとに、初等幼児教育専攻、国語教育専攻、数学教育専攻、英語教育専攻の4つの専攻を置き、初等幼児教育専攻は初等幼児教育を柱に、国語教育、数学教育、英語教育の各専攻は、それぞれの教科教育を柱に関連する領域に関する専門的知識を身につけることによって、教育保育分野に貢献する人材を育成する。 ・保健医療学部 看護学、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、十分な知識と技能を有し、保健医療の実践を担うことができる応用能力及び豊かな人間性を備えた看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の人材を育成する。 ・政治経済学部 政治行政学科のもとに政治コース、行政コース、経済経営学科のもとに経済・経済分析コース、国際経済コース、経営戦略コース、起業・事業承継コース、金融・会計コースを設け、政治、経済の各分野を広く俯瞰し、各分野における豊かな専門的知識・理論に裏打ちされた実学的・実践的視点をもった人材を育成する（3年次コース選択制）。 ・理工学部 理工学科のもとに数理科学専攻、情報科学専攻、機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻を設け、幅広い視野、専門	第2章 学部、学科等及び修業年限 (学部) 第6条 本学に、次の学部を置き、学部ごとに次のとおり教育研究上の目的を定める。 ・教育学部 教育学科のもとに、初等幼児教育専攻、国語教育専攻、数学教育専攻、英語教育専攻の4つの専攻を置き、初等幼児教育専攻は初等幼児教育を柱に、国語教育、数学教育、英語教育の各専攻は、それぞれの教科教育を柱に関連する領域に関する専門的知識を身につけることによって、教育保育分野に貢献する人材を育成する。 ・保健医療学部 看護学、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、十分な知識と技能を有し、保健医療の実践を担うことができる応用能力及び豊かな人間性を備えた看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の人材を育成する。 ・政治経済学部 政治行政学科のもとに政治コース、行政コース、経済経営学科のもとに経済・経済分析コース、国際経済コース、経営戦略コース、起業・事業承継コース、金融・会計コースを設け、政治、経済の各分野を広く俯瞰し、各分野における豊かな専門的知識・理論に裏打ちされた実学的・実践的視点をもった人材を育成する。 ・理工学部 理工学科のもとに数理科学専攻、情報科学専攻、機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻を設け、幅広い視野、専門的知識、また、強い探究心、使命感を有

的知識、また、強い探究心、使命感を有し、持続可能な社会の実現に向けて、創造性、独創性、発想力を発揮してイノベーションを創出することができる科学技術者、研究者を育成する。

・社会学部

社会学科のもとに現代社会学コース、メディア社会学コース、社会心理学コースを設け、社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する（2年次コース選択制）。

（入学定員）

第7条 本学の学部、学科及び課程別の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員
教育学部	教育学科	初等幼児教育専攻	190名 (3年次編入初等幼児教育専攻5名)	770名
		国語教育専攻		
		数学教育専攻		
		英語教育専攻		
保健医療学部	看護学科		100名	400名
	総合リハビリテーション学科	理学療法学専攻	40名	160名
		作業療法学専攻	40名	160名
		言語聴覚学専攻	40名	160名
政治経済学部	政治行政学科	政治コース	40名	160名
		行政コース		

し、持続可能な社会の実現に向けて、創造性、独創性、発想力を発揮してイノベーションを創出することができる科学技術者、研究者を育成する。

・社会学部

社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する。

2 本学の修業年限は、4年とする。ただし、在学年限は、8年を超えることはできない。

（入学定員）

第7条 本学の学部、学科及び課程別の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	学科	専攻	入学定員	収容定員
教育学部	教育学科	初等幼児教育専攻	190名 (3年次編入初等幼児教育専攻5名)	770名
		国語教育専攻		
		数学教育専攻		
		英語教育専攻		
保健医療学部	看護学科		100名	400名
	総合リハビリテーション学科	理学療法学専攻	40名	160名
		作業療法学専攻	40名	160名
		言語聴覚学専攻	40名	160名
政治経済学部	政治行政学科		40名	160名
	経済経営学科		80名	320名

経済経営学科	経済・経済分析コース	80名	320名	理工学部	理工学科	数理学専攻	230名	920名	
	国際経済コース					情報科学専攻			
	経営戦略コース					機械工学専攻			
	起業・事業承継コース					電気電子工学専攻			
	金融・会計コース					建築学専攻			
理工学部	理工学科	数理学専攻	230名	920名	社会学部	社会学科		200名	800名
		情報科学専攻							
		機械工学専攻							
		電気電子工学専攻							
		建築学専攻							
社会学部	社会学科	現代社会学コース	200名	800名					
		メディア社会学コース							
		社会心理学コース							

< 3つのポリシーの適正性が不明確 >

2. 審査意見1の対応も踏まえ、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。
- (1) ディプロマ・ポリシーに掲げられている各コースの知識及び能力について、例えば『「現代社会学」に関する知識、能力』とだけ記載されるのみで、具体的に身に付けるべき知識及び能力が不明確である。3つのコースで身に付けるべき知識及び能力をそれぞれ明らかにした上で、養成する人材像やカリキュラム・ポリシーとの関連性も含めて、その適正性を明確に説明すること。
 - (2) 「思考力・主体性・表現力」に関するディプロマ・ポリシーが、タイトルと内容で整合していないため、適切に改めること。
 - (3) カリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学習成果をどのように評価するかを定める基本的な方針になっているとは認められないことから、適切に改めること。また、カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係について、カリキュラム・ツリーを示した上で明確に説明すること。
 - (4) アドミッション・ポリシーのうち「関心・意欲・態度」に係る部分が、志望するコースごとに書き分けられているが、入試においてどのように測るかが不明であり、また、コースの振り分けについては、1年次後期に、「3コース均等を基準とし、希望調査、担任による面談、指導を経て、本人の志望意思、1年次の成績を参考に決定」することとなっており、アドミッション・ポリシーとの関係が明らかでない。このため、コース志望者ごとに設けたアドミッション・ポリシーの趣旨や入学者選抜、コース選択との関係を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ご指摘いただきましたディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーについて、養成する人材像、3ポリシーの関連性について十分に検証し、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを修正します。

■ ディプロマ・ポリシー

1. ディプロマ・ポリシーの知識及び能力の具体的記載について

ディプロマ・ポリシーの知識及び能力の記載についてのご指摘（１）をふまえ、養成する人材像、カリキュラム・ポリシーとの関連性を念頭に、ディプロマ・ポリシーの項目を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的な態度」の３項目に修正し、３コースで身に付けるべき知識及び能力を具体的に記載します。

2. ディプロマ・ポリシーの「思考力・主体性・表現力」の内容不整合について

ディプロマ・ポリシーの「思考力・主体性・表現力」の記載についてのご指摘（２）をふまえ、前述の通り、ディプロマ・ポリシーの項目を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的な態度」に修正し、以下の通り、「思考力・判断力・表現力」が適切な記載となるよう修正します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

<社会学科>

（知識・技能）

- ① 社会学および関連分野に関する概念、理論、基礎的知識を有している。
- ② 社会現象を解明するための社会調査に関する基礎的知識を有している。

（思考力・判断力・表現力）

- ① 社会的な視点、思考力を身につけ、論理的、実証的に思考、判断できる。
- ② 情報を収集、考察し、自らの考えを発信することができる。

（主体的な態度）

- ① 社会学に深い関心を持ち、意欲的に学ぼうとする姿勢を有する。
- ② 他者と協力して、より良い社会の創造に貢献することができる。

<現代社会学コース>

(知識・技能)

- ① 家族、産業、環境、地域、文化等の現代社会学に関する概念、理論、および関連分野に関する基礎的知識を有している。
- ② 社会現象を解明するための社会調査に関する基礎的知識を有している。

(思考力・判断力・表現力)

- ① 社会学的な視点、思考力を身につけ、論理的、実証的に思考、判断できる。
- ② 情報を収集、考察し、自らの考えを発信することができる。

(主体的な態度)

- ① 現代社会の諸現象に深い関心を持ち、意欲的に学ぼうとする姿勢を有する。
- ② 他者と協力して、より良い社会の創造に貢献することができる。

<メディア社会学コース>

(知識・技能)

- ① メディアの社会的機能や現代的課題、また、関連分野に関する基礎的知識を有している。
- ② 社会現象を解明するための社会調査に関する基礎的知識を有している。

(思考力・判断力・表現力)

- ① 社会学的な視点、思考力を身につけ、論理的、実証的に思考、判断できる。
- ② 情報を収集、考察し、自らの考えを発信することができる。

(主体的な態度)

- ① 社会におけるメディアの役割、課題、可能性に深い関心を持ち、意欲的に学ぼうとする姿勢を有する。
- ② 他者と協力して、より良い社会の創造に貢献することができる。

<社会心理学コース>

(知識・技能)

- ① 個人、対人、集団、社会等の社会心理学に関する概念、理論、および関連分野に関する基礎的知識を有している。
- ② 社会現象を解明するための社会調査に関する基礎的知識を有している。

(思考力・判断力・表現力)

- ① 社会的な視点、思考力を身につけ、論理的、実証的に思考、判断できる。
- ② 情報を収集、考察し、自らの考えを発信することができる。

(主体的な態度)

- ① 社会現象と人間の行動に深い関心をもち、意欲的に学ぼうとする姿勢を有する。
- ② 他者と協力して、より良い社会の創造に貢献することができる。

■ カリキュラム・ポリシー

1. カリキュラム・ポリシーの修正、及び教育課程との対応関係について

カリキュラム・ポリシーの記載についてのご指摘（3）をふまえ、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学習成果をどのように評価するかの基本方針を記載した内容に抜本的に修正するとともに、カリキュラムツリーを作成し、カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係を説明します。

○ カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係

カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修モデル、各授業の目標、内容、方法及び評価方法等を記載したシラバスを提示し、教育課程の体系を明示するとともに、学位授与方針に掲げる教育目標の達成に向け、講義、演習、実験及び実習等の授業を組み合わせ、以下の各科目区分からなる教育課程を編成し、段階的、系統的な教育を展開する。

共通基礎科目

「共通基礎科目」に、「社会学」に関する専門的な学びを展開する基礎となる視野、教養を養成する「視野形成科目」、外国語によるコミュニケーション能力を養成する「外国語科目」、心身の健康の増進を図る科目として「保健体育科目」、アカデミックスキル、キャリア意識を養成する科目として「キャリアデザイン科目」の各区分を設ける。

専門教育科目

「専門教育科目」に「基盤科目」「専門科目」「基礎・専門演習科目」「卒業研究」の区分を設ける。

<基盤科目>

「基盤科目」には、「社会学」に関する基礎的な知識、及び現代社会学、メディア社会学、社会心理学の専門の学び、及び「社会学」を学ぼうえで基盤となる知識、視野の導入、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぼうえで基盤となる知識を養成する科目を配する。

<専門科目>

「専門科目」に、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」の区分を設け、「現代社会学分野」区分には、「現代社会学」に関する知識、能力を養成する科目を配し、「メディア社会学分野」区分には、「メディア社会学」に関する知識、能力を養成する科目を配し、「社会心理学分野」区分には、「社会心理学」に関する知識、能力を養成する科目を配する。

また、「関連科目」区分には、3コースの専門の学びに関連隣接する知識、能力を養成する科目を配する。

<基礎・専門演習科目>

「基礎・専門演習科目」区分には、調査研究、議論、発表の取り組みを通じ、課題解決の方法や社会に貢献する意欲を養成する科目を配し、主体的な学びを促進するため、演習科目の教育活動においてアクティブ・ラーニングを採り入れた教育を展開する。

<卒業研究>

「卒業研究」区分には、研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来

進路に対する意識を養成する科目として「卒業研究」を配する。

自由選択科目

「自由選択科目」区分には、免許・資格取得に必要な選択科目を配する。

教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本社会学部社会学科は、学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、以下の教育内容、教育方法、学修成果の評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

① 教育内容

○ 共通基礎科目

「社会学」に関する専門的な学びを展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力や、心身の健康の増進、アカデミックスキル、キャリア意識の養成を図ることを目的とする授業科目を設定する。

○ 専門教育科目

基盤科目

「社会学」に関する基礎的な知識、及び現代社会学、メディア社会学、社会心理学の専門の学び、及び「社会学」を学ぼうえで基盤となる知識、視野の導入、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぼうえで基盤となる知識を養成することを目的とする授業科目を設定する。

専門科目

「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各コースの専門分野に関する知識、能力や、関連隣接する知識、能力を養成することを目的とする授業科目を設定する。

基礎・専門演習科目

社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や社会に貢献する意欲を養成する「基礎演習」「専門演習」の授業科目を設定する。

卒業研究

研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識を養成する「卒業研究」の授業科目を設定する。

○ 自由選択科目

免許・資格取得に必要な選択科目を設定する。

② 教育方法

○ 教育課程の体系、授業の目標、内容、方法及び評価方法等の明確化

教育課程の体系を可視化して明示するため、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修モデル、各授業の目標、内容、方法及び評価方法等を記載したシラバスを提示する。

○ 多様な授業形態

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる教育目標の達成に向け、講義、演習、実験及び実習等の授業を組み合わせ、段階的、系統的な教育を展開する。

○ 主体的、能動的学修

主体的な学びを促進するため、演習科目の教育活動においてアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を展開する。

③ 学修成果の評価

○ 成績評価は、各科目のシラバスに記載されている学修目標の達成度について、試験、課題、レポート、研究発表等を用いて評価する。

- 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた能力の形成は、GPA分析による学生の成績の客観的、相対的把握を図るとともに、授業評価アンケートの実施、分析により評価検証を行う。

■ アドミッション・ポリシー

1. アドミッション・ポリシー、入学者選抜、コース選択をふまえた修正について

ご指摘いただきましたアドミッション・ポリシーの「関心・意欲・態度」がコースごとに書き分けられている点について、入試はコースごとに実施せず、学科として実施し、2年次にコース選択することから、アドミッション・ポリシーを学科単位とするとともに、大和大学および社会学部の教育理念、教育内容を理解し、学びに対する意欲を有していること、2年次からのコース選択を念頭に、現代社会の諸現象、メディアの役割や課題、社会現象と人間行動に関心を有していること、また、「社会学」を学ぶうえで必要な基礎的な学力を身につけていることを記載した以下のアドミッション・ポリシーに修正します。

学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学部社会学科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の方針（カリキュラム・ポリシー）に掲げる教育を実践し、「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材」の養成を図るため、以下の資質を有する人材の入学を期待する。

- ① 大和大学および社会学部の教育理念、教育内容を理解し、学びに対する意欲を有する。
- ② 現代社会の諸現象、メディアの役割や課題、社会現象と人間行動に関心を有する。
- ③ 高等学校における基本的な教科内容を理解し、大学で学んでいくうえで必要な基礎的な学力を身につけている。

新	旧
(6) 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) 本学部では、卒業要件を満たし、「社会学科」として掲げる養成する人材像である「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する」及びコース毎に掲げる養成する人材像に適うとともに、以下の学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げる資質・能力を有すると認められる者に学士 (社会学) の学位を授与する。 <社会学科> (知識・技能) ① 社会学および関連分野に関する概念、理論、基礎的知識を有している。 ② 社会現象を解明するための社会調査に関する基礎的知識を有している。 (思考力・判断力・表現力) ① 社会学的な視点、思考力を身につけ、論理的、実証的に思考、判断できる。 ② 情報を収集、考察し、自らの考えを発信することができる。 (主体的な態度) ① 社会学に深い関心をもち、意欲的に学ぼうとする姿勢を有する。 ② 他者と協力して、より良い社会の創造に貢献することができる。 <現代社会学コース> (知識・技能) ① 家族、産業、環境、地域、文化等の現代社会学に関する概念、理論、および関連分野に関する基礎的知識を有している。 ② 社会現象を解明するための社会調査に関する基礎的知識を有している。 (思考力・判断力・表現力) ① 社会学的な視点、思考力を身につけ、論理的、実証的に思考、判断できる。 ② 情報を収集、考察し、自らの考えを発信	(5) 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) 本学部では、卒業要件を満たし、「社会学科」として掲げる養成する人材像である「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する」及びコース毎に掲げる養成する人材像に適うとともに、以下の学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げる資質・能力を有すると認められる者に学士 (社会学) の学位を授与する。 <社会学科> (知識・技能) ① 社会学の概念や、基盤となる理論、知識を身につけている。 ② 社会現象の解明に必要な社会調査に関する基礎的な知識を身につけている。 ③ 社会学の専門的知識、能力を身につけている。 (思考力・主体性・表現力) ① 多様な価値観や考え方に柔軟に対応するとともに、他者の意見に傾聴し、自らの考えを表現することができる。 ② 社会学に関する知識を基礎に、社会現象を的確に把握し、課題解決に取り組み、より良い社会を創造しようとする意欲を有している。 <現代社会学コース> (知識・技能) 「現代社会学」を中心とした社会学の専門的知識、能力を身につけている。 (思考力・主体性・表現力) 「現代社会学」を中心とした社会学に関する知識を基礎に課題解決に取り組み、より良い社会の創造に貢献しようとする意欲を有している。 <メディア社会学コース> (知識・技能) 「メディア社会学」を中心とした社会学の専門的知識、能力を身につけている。

することができる。 (主体的な態度) ① 現代社会の諸現象に深い関心をもち、意欲的に学ぼうとする姿勢を有する。 ② 他者と協力して、より良い社会の創造に貢献することができる。 <メディア社会学コース> (知識・技能) ① メディアの社会的機能や現代的課題、また、関連分野に関する基礎的知識を有している。 ② 社会現象を解明するための社会調査に関する基礎的知識を有している。 (思考力・判断力・表現力) ① 社会的な視点、思考力を身につけ、論理的、実証的に思考、判断できる。 ② 情報を収集、考察し、自らの考えを発信することができる。 (主体的な態度) ① 社会におけるメディアの役割、課題、可能性に深い関心をもち、意欲的に学ぼうとする姿勢を有する。 ② 他者と協力して、より良い社会の創造に貢献することができる。 <社会心理学コース> (知識・技能) ① 個人、対人、集団、社会等の社会心理学に関する概念、理論、および関連分野に関する基礎的知識を有している。 ② 社会現象を解明するための社会調査に関する基礎的知識を有している。 (思考力・判断力・表現力) ① 社会的な視点、思考力を身につけ、論理的、実証的に思考、判断できる。 ② 情報を収集、考察し、自らの考えを発信することができる。 (主体的な態度)	(思考力・主体性・表現力) 「メディア社会学」を中心とした社会学に関する知識を基礎に課題解決に取り組み、便利さと安全が共存する社会の実現に貢献しようとする意欲を有している。 <社会心理学コース> (知識・技能) 「社会心理学」を中心とした社会学の専門的知識、能力を身につけている。 (思考力・主体性・表現力) 「社会心理学」を中心とした社会学に関する知識を基礎に課題解決に取り組み、他者を尊重する温かく明るい社会づくりに貢献しようとする意欲を有している。
---	--

① 社会現象と人間の行動に深い関心を持ち、意欲的に学ぼうとする姿勢を有する。 ② 他者と協力して、より良い社会の創造に貢献することができる。	
--	--

新	旧
(1) 教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー) 本学部では、「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する」を「社会学科」の養成する人材像に定めるとともに、コース毎に養成する人材像、学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を掲げており、これら養成する人材像、学位授与の方針に密接に関連する教育課程を編成すべく、以下の教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー) を定める。 ① 教育内容 ○ 共通基礎科目 「社会学」に関する専門的な学びを展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力や、心身の健康の増進、アカデミックスキル、キャリア意識の養成を図ることを目的とする授業科目を設定する。 ○ 専門教育科目 基礎科目 「社会学」に関する基礎的な知識、及び現代社会学、メディア社会学、社会心理学の専門の学び、及び「社会学」を学ぶうえで基礎となる知識、視野の導入、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぶうえで基礎となる知識を養成することを目的とする授業科目を設定する。 専門科目 「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各コースの専門分野に関する知識、能力や、関連隣接する知識、能力を養成することを目的とする授業科目を設定する。 基礎・専門演習科目 社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や社会に貢献する意欲を養成する「基礎演習」「専門演習」の授業科目を設定する。	(1) 教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー) 本学部では、「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する」を「社会学科」の養成する人材像に定めるとともに、コース毎に養成する人材像、学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を掲げており、これら養成する人材像、学位授与の方針に密接に関連する教育課程を編成すべく、以下の教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー) を定める。 <社会学科> ① 社会学科の全学生が共通して、社会学に関する基礎的な知識、社会調査に関する基礎的な知識、社会学の基盤となる知識を身につけることができる教育課程編成とする。 ② 社会学科の全学生が共通して、本学科に設置する「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」分野の概論知識を身につけることができる教育課程編成とする。 ③ 所属コースの専門を中心に、他コースの専門科目や関連分野の授業科目の履修を通じて、幅広い知識、視野を養成する教育課程編成とする。 ④ 演習科目を段階的に開設することにより、専門的知識、能力を活かし、他者とともに課題解決に取り組む姿勢、社会貢献への意欲を養成する教育課程編成とする。 <現代社会学コース> ① コース所属の全学生が共通して「現代社会学」に関する概論知識を身につけることができる教育課程編成とする。 ② 「現代社会学」の専門の学びを中心に、他コースの専門科目や関連分野の授業科目の履修を通じて、幅広い知識、視野を養成する教育課程編成とする。 <メディア社会学コース> ① コース所属の全学生が共通して「メディア社会学」に関する概論知識を身につけることができる教育課程編成とする。

卒業研究 研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識を養成する「卒業研究」の授業科目を設定する。 ○ 自由選択科目 免許・資格取得に必要な選択科目を設定する。 ② 教育方法 ○ 教育課程の体系、授業の目標、内容、方法及び評価方法等の明確化 教育課程の体系を可視化して明示するため、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修モデル、各授業の目標、内容、方法及び評価方法等を記載したシラバスを提示する。 ○ 多様な授業形態 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる教育目標の達成に向け、講義、演習、実験及び実習等の授業を組み合わせ、段階的、系統的な教育を展開する。 ○ 主体的、能動的学修 主体的な学びを促進するため、演習科目の教育活動においてアクティブ・ラーニングを採り入れた教育を展開する。 ③ 学修成果の評価 ○ 成績評価は、各科目のシラバスに記載されている学修目標の達成度について、試験、課題、レポート、研究発表等を用いて評価する。 ○ 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた能力の形成は、GPA分析による学生の成績の客観的、相対的把握を図るとともに、授業評価アンケートの実施、分析により評価検証を行う。	② 「メディア社会学」の専門の学びを中心に、他コースの専門科目や関連分野の授業科目の履修を通じて、幅広い知識、視野を養成する教育課程編成とする。 ＜社会心理学コース＞ ① コース所属の全学生が共通して「社会心理学」に関する概論知識を身につけることができる教育課程編成とする。 ② 「社会心理学」の専門の学びを中心に、他コースの専門科目や関連分野の授業科目の履修を通じて、幅広い知識、視野を養成する教育課程編成とする。
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (37ページ)

新	旧
(1) 学生受入れの方針(アドミッション・ポリシー) 本学部社会学科では、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の方針(カリキュラム・ポリシー)に掲げる教育を実践し、「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材」の養成を図るため、以下の資質を有する人材の入学を期待する。 ① 大和大学および社会学部の教育理念、教育内容を理解し、学びに対する意欲を有する。 ② 現代社会の諸現象、メディアの役割や課題、社会現象と人間行動に関心を有する。 ③ 高等学校における基本的な教科内容を理解し、大学で学んでいくうえで必要な基礎的な学力を身につけている。	(1) 学生受入れの方針(アドミッション・ポリシー) 本学部社会学科では、「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する」を養成する人材像に定めるとともに、コース毎に、養成する人材像を掲げており、その教育目標の達成に向けて、2年次から分属するコースも視野に、以下の資質を有する人材の入学を期待する。 <社会学科> (知識・技能) 高等学校における基本的な教科を幅広く理解し、大学で学んでいくうえで必要な基礎的な学力を身につけている人。 (思考力・判断力・表現力) 多様な角度からものごとをとらえる視野と、自らの考えを的確に相手に伝える表現力を有する人。 (関心・意欲・態度) 「社会学」の学びに関心を有し、他者と協調して課題を解決し、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献しようとする意欲を有する人。 <現代社会学コース志望者> 「現代社会学」の学びに関心を有し、より良い社会の創造に貢献しようとする意欲を有する人。 <メディア社会学コース志望者> 「メディア社会学」の学びに関心を有し、便利さと安心が共存する社会の実現に貢献しようとする意欲を有する人。 <社会心理学コース> 「社会心理学」の学びに関心を有し、他者を尊重する明るく温かい社会づくりに貢献しようとする意欲を有する人。

<入学者選抜における区分と選抜方法が不整合>

3. 一般選抜後期の「2教科選択型」について、選抜方法が「国語・数学（1科目選択）」となっており、区分名称と不整合が生じていることから、適切に改めること。

(対応)

ご指摘いただいた点について、「設置の趣旨」の入学者選抜の概要に記載の誤りがあったため、以下の通り修正します。

<旧> 国語・数学（1科目選択）

<新> 英語（必須）、国語・数学（1科目選択）

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類（38ページ）

新	旧
選抜方法 一般選抜 後期 2教科選抜型 英語（必須）、国語・数学（1教科選択）	選抜方法 一般選抜 後期 2教科選抜型 国語・数学（1教科選択）

＜教育課程の適正性が不明確＞

4. 教育課程について、以下の観点及び各科目区分における必修・選択に係る考え方も含めて、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、3つのコース設定の意義に照らして、教育課程の適正性について、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。なお、教育課程を見直した場合には、その内容に応じた適切な教員組織を編制すること。

(1) 教育課程の構成を見ると、地歴分野の手厚さに比べて、例えば、ジェンダーや観光現象等の現代的な諸現象を取り扱う科目が配置されておらず、また、メディア社会学分野等に関連する科目に放送メディアを主たる対象とした科目が配置されていないなど、教育課程に偏りがあるように見受けられるため、その適正性が不明確であることから、明確に説明すること。

(2) 特に「社会心理学コース」について、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力等を修得するための体系的な教育課程が編成されているか疑義がある。このため、審査意見1及び2の対応を踏まえ、「社会心理学コース」の教育課程及び教員組織の適正性について明確に説明すること。

(対応)

ご指摘いただきました教育課程の適正性について、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、3つのコース設定の意義を念頭に教育課程全体の徹底検証を図るとともに、教育課程及び教員組織を以下の通り修正します。

1. 教育課程の各区分科目、履修基準、必修科目設定、教員配置について

■ 共通基礎科目

「共通基礎科目」には、「社会学」に関する専門的な学びを展開するうえで、全学生に共通して身につけて欲しい基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力、アカデミックスキル、キャリア意識の養成に関する科目を配し、特に、全学生に身に付けて欲しい知識にあたる以下の授業科目を必修とし、合計20単位以上の修得を卒業要件とするとともに、外国語科目、キャリアデザイン科目、及び3コースの専門科目に関連する視野形成科目に専任教員を配置する。

<必修科目>

視野形成科目	→ 「哲学入門」「倫理学入門」「法律学入門」 「コンピュータ入門」「統計学入門」
外国語科目	→ 「英語Ⅰ・Ⅱ」
キャリアデザイン科目	→ 「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

■ 専門教育科目

基盤科目

「専門教育科目」区分の「基盤科目」には、「社会学」に関する基礎的な知識、及び現代社会学、メディア社会学、社会心理学の専門の学びの導入、及び「社会学」を学ぼうえで基盤となる知識、視野の学びの導入、調査・分析の知識方法や技術、また、「社会学」を学ぼうえで基盤となる知識の養成に関する科目を配し、特に、全学生に身に付けて欲しい「社会学」の入門科目、各コースの専門の学び、及び「社会学」の学びの基盤となる科目への導入科目、調査・分析の知識方法や技術の入門科目、「社会学」の学びの基盤となる学びの概論科目を必修とし、合計38単位以上の修得を卒業要件とするとともに、授業担当教員に、主に3コースの専門分野科目を担当する専任教員、及び、共通基礎科目・基盤科目を担当する専任教員を配置する。

<必修科目>

社会学の学びの入門科目	→ 「社会学入門Ⅰ」「社会学入門Ⅱ」
専門の学びの導入科目	→ 「現代と社会」「社会とメディア」「社会と心理」
「社会学」の基盤の学びの導入科目	→ 「社会と歴史」「社会と文化」「社会と環境」
調査・分析の知識方法や技術の入門科目	→ 「社会調査入門」
「社会学」の基盤の学びの概論科目	→ 「人文地理学概論」「自然地理学概論」 「地誌学概論」「日本史概論」「外国史概論」 「政治学概論」「経済学概論」

現代社会学分野・メディア社会学分野・社会心理学分野

3コースの専門分野からなる「専門科目」には、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各コースの専門分野に関する知識、能力を養成する科目を配し、全学生に身に付けて欲しい以下の「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の3分野の概論科目を必修

とし、所属コースの専門分野科目から20単位以上修得するとともに、他コース分野及び関連科目を含めて38単位以上修得することを卒業要件とし、授業担当教員に、主に3コースの専門分野科目を担当する専任教員を配置する。

<必修科目>

現代社会学分野	→ 「現代社会学概論」
メディア社会学分野	→ 「メディア社会学概論」
社会心理学分野	→ 「社会心理学概論」

関連科目

「関連科目」には、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の専門分野に関連隣接する知識、能力を養成する科目を配し、養成する人材像に掲げる「社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組む人材」の養成を目的に、全学生に共通して身に付けて欲しい「グローバルゼーション」をテーマとする科目を必修に、また、自身の学びとの関連性を念頭に「地域社会」「少子化」をテーマとする科目からいずれか1科目を選択必修とするとともに、合計10単位以上の修得を卒業要件とし、授業担当教員に、主に3コースの専門分野科目を担当する専任教員、及び、共通基礎科目・基盤科目を担当する専任教員を配置する。

「グローバルゼーション論」	→ 必修
「日本の地域文化」「社会と子ども」	→ いずれか1科目選択必修

基礎・専門演習科目／卒業研究

「基礎・専門演習科目」は、社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や、社会に貢献する意欲を養成すること、「卒業研究」は、各学生が研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識の養成を図ることを目的としており、「基礎・専門演習科目」に配する必修科目6単位、「卒業研究」の必修科目4単位の修得を卒業要件とし、授業担当教員に、主に3コースの専門分野科目を担当する専任教員、及び、共通基礎科目・基盤科目を担当する専任教員を配置する。

2. 教育課程の適正性の検証をふまえた教育課程の修正及び教員の追加配置について

(1) 「現代社会学分野」「メディア社会学分野」の授業科目の追加開設及び教員の追加配置

「現代社会学分野」「メディア社会学分野」の授業科目について、開設科目全体の適正性、現代的な諸現象を取り扱う科目、放送メディアを主たる対象とした科目の配置について検証し、以下の授業科目を追加開設するとともに、兼任教員2名、及び専任教員1名を新たに追加配置する。

○ 現代社会学分野

「ジェンダー論」	(2・3年後期)	追加配置	兼任教員
「観光学概論」	(2・3年後期)	追加配置	兼任教員

○ メディア社会学分野

「放送メディア論」	(2・3年後期)	追加配置	専任教員
-----------	----------	------	------

(2) 「社会心理学コース」の教育課程の抜本的修正及び専任教員の追加配置

「社会心理学コース」について、コースの趣旨、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力修得、体系的な教育課程の編成を念頭に、教育課程を抜本的に修正するとともに、新たに専任教員2名を追加配置する。

○ 社会心理学分野

授業科目の編成を、個人・対人・集団・社会文化分野の授業科目に再編し、以下の通り、新たな授業科目の開設、科目区分の変更を図るとともに、専任教員2名を新たに追加配置する。

<概論>	「社会心理学概論」	(2年前期)	追加配置	専任教員
<個人>	「社会と個人」	<新設> (2・3年後期)	追加配置	専任教員
	「動機づけの心理」	(2・3年前期)	追加配置	専任教員
	「認知心理学」	(2・3年前期)		
	「知覚心理学」	(2・3年前期)		
	「生理心理学」	(2・3年前期)		

<対人>	「対人関係論」	(2・3年後期)	追加配置	専任教員
	「コミュニケーション論」	(2・3年前期)		
	「犯罪心理学」	(2・3年後期)		
<集団>	「社会と集団」	<新設> (2・3年後期)	追加配置	専任教員
	「意思決定の心理学」	<新設> (2・3年後期)	追加配置	専任教員
	「行動科学」	(2・3年後期)		
	「経済心理学」	(2・3年後期)	追加配置	専任教員
<社会文化>	「人間と文化」	(2・3年前期)		
	「人間と音楽」	(2・3年後期)		
	「宗教と社会」	(2・3年前期)		

※「関連科目」から「社会心理学分野」に区分変更

「動機づけの心理」	(2・3年前期)
「宗教と社会」	(2・3年前期)

※「社会心理学分野」から「関連科目」に区分変更

「人間と暮らし」	(2・3年後期)
「コミュニティ心理」	(2・3年前期)

(3) 教育課程の検証をふまえたその他の修正事項

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、3つのコース設定の意義に照らし、教育課程の適正性、体系性を徹底検証し、前述の(1)(2)の他、以下の点について教育課程の修正を図る。

① 授業科目の追加開設及び教員の追加配置

(理由) 「社会学」の基盤となる知識、視野の養成を目的とする授業科目の導入科目を追加開設し、全学生必修とすることにより、「社会学」の基盤となる知識、視野の学びの意義の理解を図るとともに、教育課程の体系性の強化を図る。

<専門教育科目 基盤科目>

「社会と歴史」	(1年後期)	専任教員配置
「社会と文化」	(1年後期)	専任教員配置
「社会と環境」	(1年後期)	専任教員配置

② 必修科目・必修選択科目の設定

(理由) 養成する人材像に照らし、関連科目のうち、全学生に共通して身に付けて欲しい「グローバルゼーション」をテーマとする科目を必修に、また、自身の学びとの関連性を念頭に「地域社会」「少子化」をテーマとする科目からいずれか1科目を選択必修とすることにより、社会問題に対する意識、知識養成の充実を図る。

<専門教育科目 関連科目>

「グローバルゼーション論」	(1・2・3年後期)	必修
「日本の地域文化」	(2・3年前期)	選択必修 ※
「社会と子ども」	(2・3年前期)	選択必修 ※
※ いずれか1科目選択必修		

③ 配当年次の修正

(理由) 配当年次、履修機会の拡充を図ることにより、学生の負担軽減を図るとともに、教育課程の体系性の改善を図るため。

<共通基礎科目 視野形成科目>

「哲学入門」	1年後期	→	1・2年後期
「倫理学入門」	1年前期	→	1・2年前期
「日本人論」	1年後期	→	1・2年後期
「伝統と文化」	1年前期	→	1・2年前期
「ことばと文学」	1年前期	→	1・2年前期
「法律学入門」	1年後期	→	1・2年後期
「日本国憲法」	1年前期	→	1・2年前期
「人間関係論」	1年後期	→	1・2年後期
「数学入門」	1年前期	→	1・2年前期

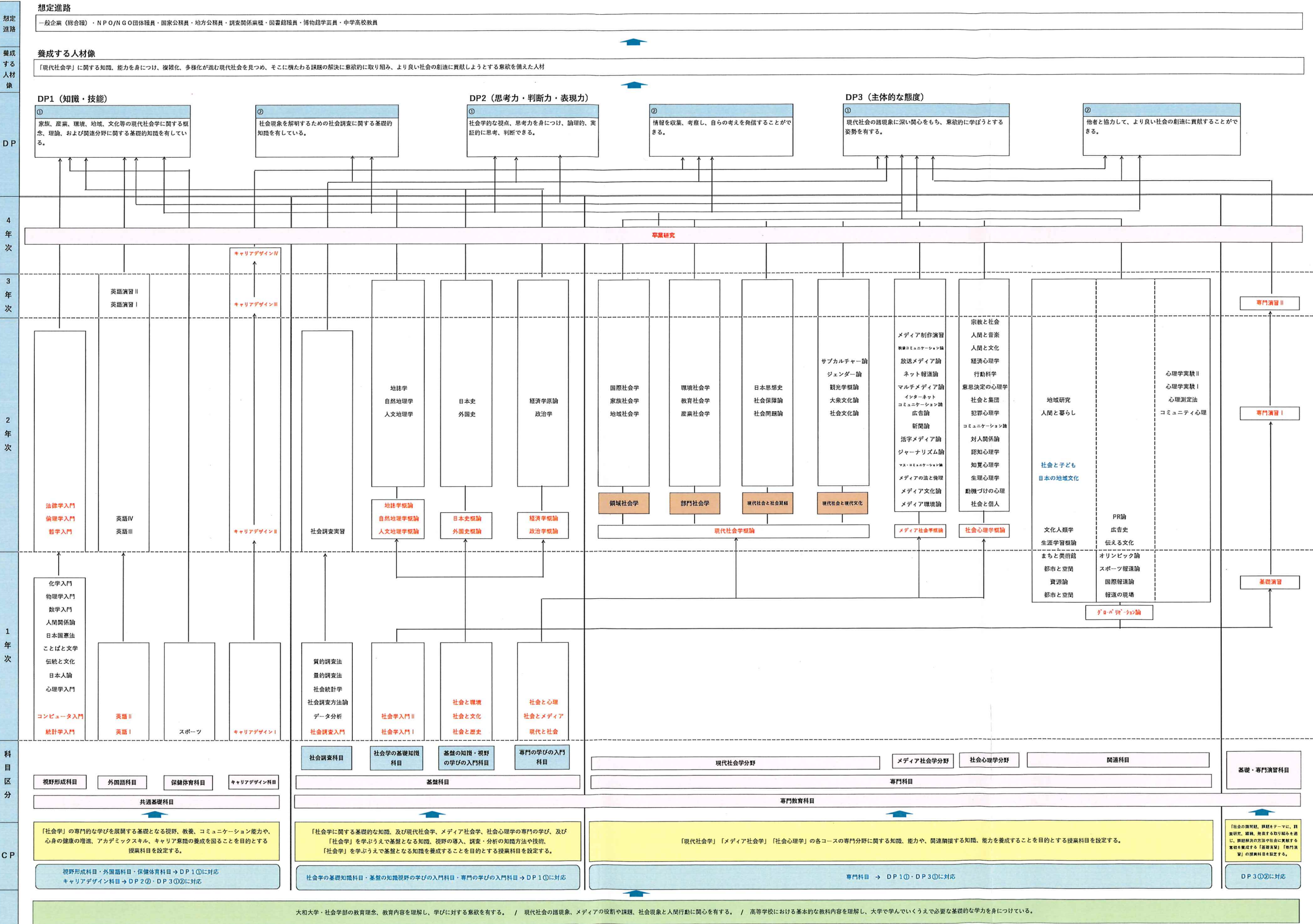
「物理学入門」	1 年後期	→	1・2 年後期
「化学入門」	1 年前期	→	1・2 年前期
「コンピュータ入門」	1 年前期	→	1・2 年前期

<専門教育科目 社会心理学分野>

「経済心理学」	2・3 年前期	→	2・3 年後期
---------	---------	---	---------

社会学部社会学科（現代社会学コース）カリキュラムツリー

赤字 → 必修科目
青字 → 必修選択科目（1科目選択）

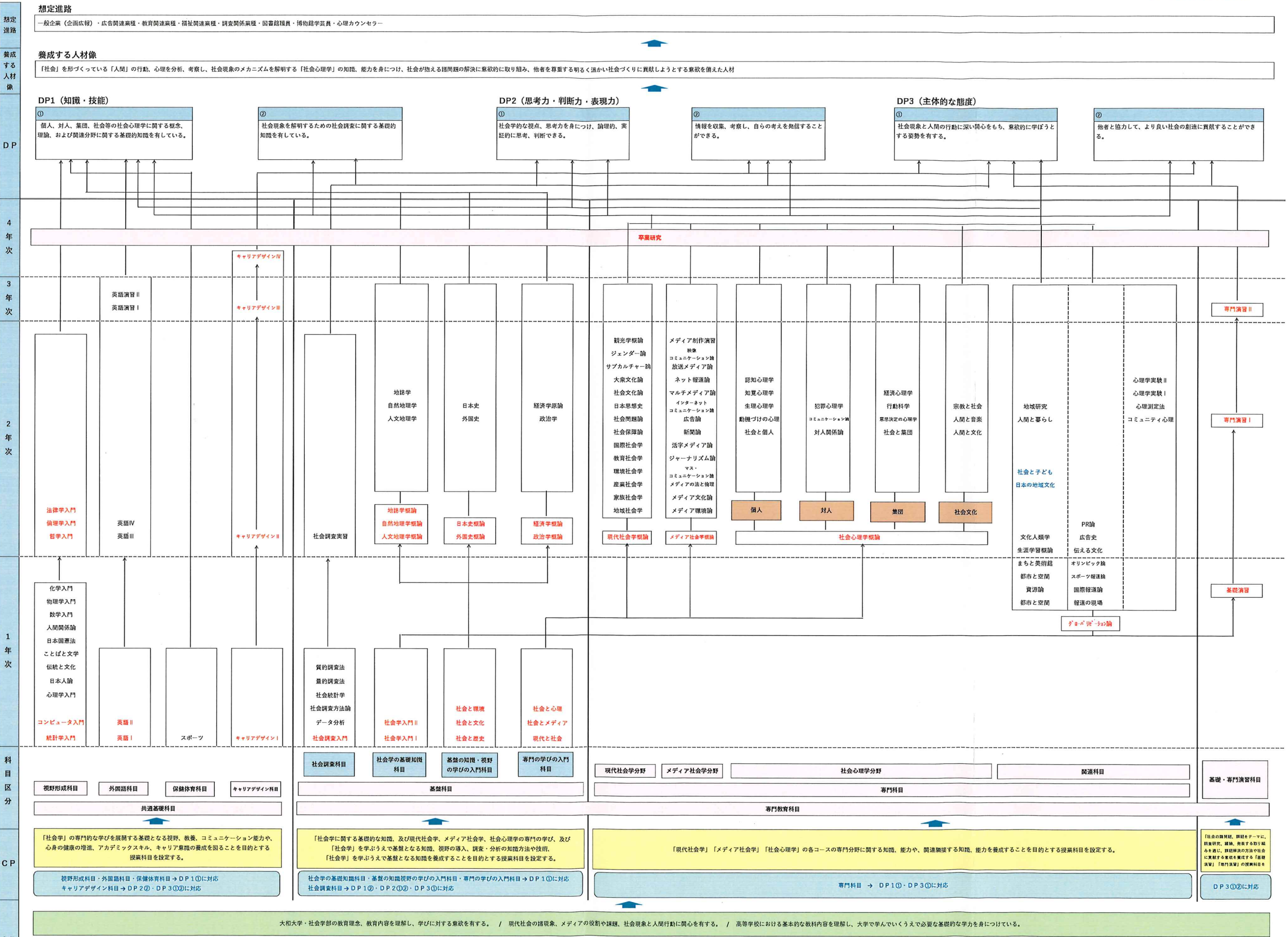


考字 → 必修科目
考字 → 必修選択科目（1科目選択）



社会学部社会学科（社会心理学コース）カリキュラムツリー

赤字 → 必修科目
青字 → 必修選択科目（1科目選択）



(新旧対照表) 教育課程等の概要

新

補正後

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(社会学部社会学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
共通基礎科目	視野形成科目	哲学入門	1・2後	2			○								並1		
		倫理学入門	1・2前	2			○								並1		
		心理学入門	1後		2		○			1	1				並1		
		日本人論	1・2後		2		○			1							
		伝統と文化	1・2前		2		○			1							
		ことばと文学	1・2前		2		○			1							
		法律学入門	1・2後	2			○								並1		
		日本国憲法	1・2前		2		○										
		人間関係論	1・2後		2		○			1					並1		
		数学入門	1・2前		2		○								並1		
		物理学入門	1・2後		2		○								並1		
		化学入門	1・2前		2		○								並1		
		コンピュータ入門	1・2前	2				○							並2		
		統計学入門	1後	2		2		○		1					並2		
	外国語科目	英語Ⅰ	1前	1				○			1						
		英語Ⅱ	1後	1				○			1						
		英語Ⅲ	2前		1			○			1						
	保健体育科目	英語Ⅳ	2後		1			○			1						
		英語演習Ⅰ	3前		1			○			1						
英語演習Ⅱ		3後		1			○			1							
キャリアデザイン科目	スポーツ	1通		2				○						並1			
	キャリアデザインⅠ	1通	2				○		4	4							
	キャリアデザインⅡ	2通	2				○		1	4							
	キャリアデザインⅢ	3通	2				○		2	3							
	キャリアデザインⅣ	4通	2				○		2	3							
専門教育科目	小計25(科目)		—	20	24	0		—		8	6	0	0	0	並10		
	基礎科目	社会学入門Ⅰ	1前	2				○		2						オムニバス オムニバス	
		社会学入門Ⅱ	1後	2				○		2							
		現代と社会	1前	2				○		1	1						
		社会とメディア	1前	2				○		3							
		社会と心理	1前	2				○		1	1						
		社会と歴史	1後	2				○		1							
		社会と文化	1後	2				○		1							
		社会と環境	1後	2				○		1							
		社会調査入門	1前	2				○		3							
		データ分析	1前		2			○		1							
		社会調査方法論	1前		2			○		2							
		社会統計学	1後		2			○			1						
		量的調査法	1後		1				○	1							
		質的調査法	1後		1					1	1						
		社会調査実習	2通		2				○	2							
		人文地理学概論	2前	2				○		1							
		自然地理学概論	2前	2				○		1							
		地誌学概論	2前	2				○		1							
		日本史概論	2前	2				○		1							
		外国史概論	2前	2				○		1							
		政治学概論	2前	2				○								並1	
		経済学概論	2前	2				○		1							
		人文地理学	2・3後		2			○		1							
		自然地理学	2・3後		2			○		1							
		地誌学	2・3後		2			○		1							
		日本史	2・3後		2			○		1							
		外国史	2・3前		2			○		1							
		政治学	2・3前		2			○								並1	
		経済学原論	2・3後		2			○		1							
	現代社会学分野	現代社会学概論	2前	2				○		1	1					並1 並1 並1 並1 並1 並1 並1 並1 並1 並1 並1 並1 並1 並1 並1	
		地域社会学	2・3前		2			○			1						
		家族社会学	2・3後		2			○		1							
		産業社会学	2・3前		2			○		1							
		伝統社会学	2・3前		2			○		1							
		教育社会学	2・3後		2			○		1							
		国際社会学	2・3後		2			○		2							
		社会保障論	2・3前		2			○									
		社会問題論	2・3後		2			○		1							
		日本思想史	2・3前		2			○		1							
		社会文化論	2・3後		2			○		1	1						
		大衆文化論	2・3後		2			○									
		サブカルチャー論	2・3後		2			○									
		ジェンダー論	2・3後		2			○									
		最先端学論	2・3後		2			○									

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	数	准数	講師	助教	助手	
専門教育科目	メディア社会学分野	メディア社会学概論	2前	2		○			2					
		メディア図説論	2・3後	2		○			1					
		メディア文化論	2・3前	2		○			1					
		メディアの法と倫理	2・3後	2		○			1					
		マス・コミュニケーション論	2・3前	2		○			1					
		ジャーナリズム論	2・3前	2		○			1					
		活字メディア論	2・3後	2		○			1					
		新聞論	2・3後	2		○			1					
		広告論	2・3後	2		○			1					
		インターネットコミュニケーション論	2・3後	2		○			1					
		マルチメディア論	2・3後	2		○			1					
		ネット報道論	2・3前	2		○			1					
		放送メディア論	2・3後	2		○			1					
		映像コミュニケーション論	2・3前	2		○			1					数1 数1
		メディア創作実習	2・3後	2			○		1					
	社会心理学分野	社会心理学概論	2前	2		○			1	1				
		社会と個人	2・3後	2		○			1					
		動機づけの心理	2・3前	2		○			2					
		認知心理学	2・3前	2		○			2					
		知覚心理学	2・3前	2		○			1					
		生体心理学	2・3前	2		○				1				
		対人関係論	2・3後	2		○			1	1				
		コミュニケーション論	2・3前	2		○			1					
		知覚心理学	2・3後	2		○								数1
		社会と集団	2・3後	2		○			1	1				
		意思決定の心理学	2・3後	2		○								
		行動科学	2・3後	2		○			1					
		経済心理学	2・3後	2		○			1					
		人間と文化	2・3前	2		○			1					
	関連科目	人間と音楽	2・3後	2		○				1				
		宗教と社会	2・3前	2		○			1					
		グローバル化と国際論	1・2・3後	2		○			2					
		日本の地域文化	2・3前	2		○			1					
		社会と子ども	2・3前	2		○				1				
		人間と暮らし	2・3後	2		○			1					
		地域研究	2・3前	2		○			1					
		資源論	1・2・3前	2		○			1					
		都市と空間	1・2・3後	2		○			1	1				
		まちと農村論	1・2・3後	2		○				1				
		生涯学習概論	1・2・3前	2		○								数1 数1
		文化人類学	1・2・3後	2		○								
		御道の現場	1・2・3後	2		○			1					
		国際報道論	1・2・3後	2		○			1					
		スポーツ報道論	1・2・3後	2		○			1					
		オリンピック論	1・2・3後	2		○			1					
		伝える文化	1・2・3前	2		○			1					
		広告史	1・2・3前	2		○			1					
		PR論	1・2・3前	2		○			1					
	基礎・専門 演習科目	基礎演習	1通	2			○		5	2				
		専門演習Ⅰ	2通	2			○		5	2				
		専門演習Ⅱ	3通	2			○		6	1				
		卒業研究	4通	4			○		14	4				
	小計100(科目)		—	50	150	0	—	—	15	6	0	0	0	数8
自由 選択科目	中等教科教育法(社会)Ⅰ	2前			2	○								数1
	中等教科教育法(社会)Ⅱ	2前			2	○								数1
	中等教科教育法(地理)	2後			2	○								数1
	中等教科教育法(公民)	2後			2	○								数1
	教育学概論	2前			2	○			1					
	教育基礎論	2前			2	○				1				
	教師論	2前			2	○								
	教育心理学	2後			2	○			1					
	教育制度論	3前			2	○								数1
	教育課程論	2後			2	○								数1
	特別支援教育	4前			1	○								数1
	道徳理論と指導法	4前			2	○								数1
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3前			2	○			1					
	教育の方法技術	3後			2	○								数2
	生徒・進路指導論	4前			2	○			1					
	教育相談	2後			2	○			1					
	学級経営	2前			1	○				1				
	中等教育実習事前事後指導	4前			2		○		2	1				共同
	中等教育実習Ⅰ	4後			2			○	2	2				
	中等教育実習Ⅱ	4後			2			○	2	1				
	教員実務演習(中・高)	4後			2			○	3	2				共同
	学校経営と学校図書館	4前			2	○								数1
	学校図書館メディアの構成	4前			2	○								数1
	学習指導と学校図書館	4前			2	○								数1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					授業形態					専任教員等の配置					備考			
			必修 修	選択 択	自由 由	講義 義	演習 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手								
自由 選択 科目	芸術と豊かな人間性	3後			2	0	0	0									兼1				
	情報メディアの活用	3後			2	0	0	0									兼1				
	図書館概論	3前			2	0	0	0									兼1				
	図書館情報技術論	3前			2	0	0	0									兼1				
	図書館制度・経営論	3前			2	0	0	0									兼1				
	図書館サービス概論	3後			2	0	0	0									兼1				
	情報サービス論	3後			2	0	0	0									兼1				
	児童サービス論	3後			2	0	0	0									兼1				
	情報サービス演習	3後			2	0	0	0									兼1				
	図書館情報資源概論	3前			2	0	0	0									兼1				
	情報資源総論	3後			2	0	0	0									兼1				
	情報資源総論演習	3後			2	0	0	0									兼1				
	図書・図書館史	4前			1	0	0	0									兼1				
	図書館施設論	4後			1	0	0	0									兼1				
	博物館概論	3前			2	0	0	0									兼1				
	博物館経営論	3前			2	0	0	0									兼1				
	博物館資料論	3後			2	0	0	0									兼1				
	博物館資料保存論	3後			2	0	0	0									兼1				
	博物館展示論	4前			2	0	0	0									兼1				
	博物館教育論	4前			2	0	0	0									兼1				
	博物館情報・メディア論	4後			2	0	0	0									兼1				
	博物館実習	4通			3	0	0	0									兼1				
小計45 (科目)		—	0	0	89	—	—	—	—	—	—	—	4	3	0	0	0	兼25			
合計 (171科目)		—	70	174	89	—	—	—	—	—	—	—	15	6	0	0	0	兼25			
学位又は称号			学士 (社会学)			学位又は学科の分野			社会学・社会学関係												
卒業要件及び履修方法			授業期間等																		
以下に掲げる基準を見だし、合計124単位以上修得することを卒業要件とする。 <共通基礎科目> ・必修科目20単位を修得すること。 ・合計28単位以上修得すること。 <専門教育科目> (基礎科目) ・必修科目32単位を修得すること。 ・合計38単位以上修得すること。 (専門科目) ・必修科目6単位を修得すること。 ・所属コースの専門分野の選択科目から20単位以上修得すること。 ・合計38単位以上修得すること。 (関連科目) ・必修科目2単位を修得すること。 ・選択必修科目1科目2単位を修得すること。 ・合計10単位以上修得すること。 (基礎・専門演習科目) ・6単位修得すること。 (卒業研究) ・4単位修得すること。																		1 学年の学期区分		2期	
																		1 学期の授業期間		15週	
																		1 時限の授業時間		90分	
※ 履修科目の登録の上限は、年間45単位を上限とする。 ただし、免許・資格取得のために自由選択科目を履修する場合はこの限りでない。																					
※ 自由選択科目の修得単位数は卒業要件に含まない。																					

(新旧対照表) 教育課程等の概要

旧

補正前

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	単位 修 得	授業形態	英 訳・ 実習	専任教員等の配置	備考					
(社会学部社会学科)	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
共通基礎科目	視野形成科目	哲学入門	1後	2			○						兼1	
		倫理学入門	1前	2			○						兼1	
		心理学入門	1後		2		○						兼1	
		日本人論	1後		2		○							
		伝統と文化	1前		2		○							
		ことばと文学	1前		2		○							
		法学入門	1後	2			○						兼1	
		日本国憲法	1前		2		○						兼1	
		人間関係論	1後		2		○							
		教養入門	1前		2		○						兼1	
		物理学入門	1後		2		○						兼1	
		化学入門	1前		2		○						兼1	
		コンピュータ入門	1前		2		○						兼2	
		統計学入門	1後	2			○						兼2	
	外国語科目	英語Ⅰ	1前	1			○							
		英語Ⅱ	1後	1			○							
		英語Ⅲ	2前		1		○							
		英語Ⅳ	2後		1		○							
		英語演習Ⅰ	3前		1		○							
		英語演習Ⅱ	3後		1		○							
	保健体育科目	スポーツ	1通		2			○					兼1	
	キャリアデザイン科目	キャリアデザインⅠ	1通	2			○			3	3			
		キャリアデザインⅡ	2通	2			○			2	2			
		キャリアデザインⅢ	3通	2			○			3	2			
		キャリアデザインⅣ	4通	2			○			3	2			
	小計25 (科目)	—	—	20	24	0	—	—	8	4	0	0	0	兼10
専門教育科目	基盤科目	社会学入門Ⅰ	1前	2			○			2				オムニバス オムニバス
		社会学入門Ⅱ	1後	2			○			2				
		現代と社会	1前	2			○			1				
		社会とメディア	1前	2			○			2				
		社会と心理	1前	2			○			1				
		社会調査入門	1前	2			○			3				
		データ分析	1前		2		○			1				
		社会調査方法論	1前		2		○			2				
		社会統計学	1後				○				1			
		量的調査法	1後		1			○		1				
		質的調査法	1後		1			○		1				
		社会調査実習	2通		2			○		2				
		人文地理学概論	2前	2			○			1				
		自然地理学概論	2前	2			○			1				
		地誌学概論	2前	2			○			1				
		日本史概論	2前	2			○			1				
		外国史概論	2前	2			○			1				
		政治学概論	2前	2			○			1				
		経済学概論	2前	2			○			1				
		人文地理学	2・3後		2		○			1				
		自然地理学	2・3後		2		○			1				
		地誌学	2・3後		2		○			1				
		日本史	2・3後		2		○			1				
		外国史	2・3前		2		○			1				
		政治学	2・3前		2		○			1				
		経済学原論	2・3後		2		○			1				
	現代社会学分野	現代社会学概論	2前	2			○			1	1			
		地域社会学	2・3前		2		○			1	1			
		家族社会学	2・3後		2		○			1				
		産業社会学	2・3前		2		○			1				
		環境社会学	2・3前		2		○			1				
		教育社会学	2・3後		2		○			1				
		国際社会学	2・3後		2		○			2				
		社会保障論	2・3前		2		○			1				
		社会問題論	2・3後		2		○			1				
		日本思想史	2・3前		2		○			1				
		社会文化論	2・3後		2		○			1		1		
		大衆文化論	2・3後		2		○							
		サブカルチャー論	2・3後		2		○							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	メディア社会学分野	メディア社会学概論	2前	2		○			2					
		メディア概論	2・3後	2		○			1					
		メディア文化論	2・3前	2		○			1					
		メディアの法と倫理	2・3後	2		○			1					
		マス・コミュニケーション論	2・3前	2		○			1					
		ジャーナリズム論	2・3前	2		○			1					
		活字メディア論	2・3後	2		○			1					
		新聞論	2・3後	2		○			1					
		広告論	2・3後	2		○			1					
		インターネットコミュニケーション論	2・3後	2		○			1					
		マルチメディア論	2・3後	2		○			1					
		ネット報道論	2・3前	2		○			1					
		映像コミュニケーション論	2・3前	2		○								兼1
		メディア制作演習	2・3後	2			○							兼1
	社会心理学分野	社会心理学概論	2前	2		○			2					
		人間と暮らし	2・3後	2		○			1	1				
		コミュニティ心理	2・3前	2		○				1				
		コミュニケーション論	2・3前	2		○			1					
		対人関係論	2・3後	2		○			1					
		行動科学	2・3後	2		○			1					
		経済心理学	2・3前	2		○			1					
		犯罪心理学	2・3後	2		○								
		人間と文化	2・3前	2		○			1					
		人間と音楽	2・3後	2		○				1				
	関連科目	認知心理学	2・3前	2		○			2					
		知覚心理学	2・3前	2		○			2					
		生理心理学	2・3前	2		○				1				
		資源論	1・2・3前	2		○			1					オムニバス
		都市と空間	1・2・3後	2		○			1	1				
		グローバル化と地域	1・2・3後	2		○			1					
		まちと美術	1・2・3後	2		○				1				
		生涯学習概論	1・2・3前	2		○								兼1
		文化人類学	1・2・3後	2		○								兼1
		報道の現場	1・2・3後	2		○			1					
		国際報道論	1・2・3後	2		○			1					
		スポーツ報道論	1・2・3後	2		○			1					
		オリンピック論	1・2・3後	2		○			1					
		伝える文化	1・2・3前	2		○			1					
		広域史	1・2・3前	2		○			1					
		PR論	1・2・3前	2		○			1					
		動機づけの心理	1・2・3前	2		○			2					オムニバス
		日本の地域文化	2・3前	2		○			1					
		社会と子ども	2・3前	2		○			1					
		宗教と社会	2・3前	2		○			1					
		地域研究	2・3前	2		○			1					
		心理測定法	2・3前	2		○			1	1				兼1
		心理学実験 I	2・3前	2		○			1	1				兼1
		心理学実験 II	2・3後	2		○			1	1				
基礎・専門 演習科目	基礎演習	1通	2			○			3	1				
	専門演習 I	2通	2			○			3	1				
	専門演習 II	3通	2			○			4					
卒業研究	卒業研究	4通	4			○			13	2				
	小計91 (科目)	—	42	140	0	—	—	—	14	4	0	0	0	兼6
自由選択科目	中等教科教育法 (社会) I	2前			2	○								兼1
	中等教科教育法 (社会) II	2前			2	○								兼1
	中等教科教育法 (地理)	2後			2	○								兼1
	中等教科教育法 (公民)	2後			2	○								
	教育学概論	2前			2	○			1					
	教育基礎論	2前			2	○			1					
	教師論	2前			2	○			1					
	教育心理学	2後			2	○			1					
	教育制度論	3前			2	○								兼1
	教育課程論	2後			2	○								兼1
	特別支援教育	4前			1	○								兼1
	道徳理論と指導法	4前			2	○								兼1
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3前			2	○			1					兼2
	教育の方法技術	3後			2	○								オムニバス
	生徒・進路指導論	4前			2	○			1					
	教育相談	2後			2	○			1					
	学級経営	2前			2	○			1					
	中等教育実習事前事後指導	4前			1		○			1				共同
	中等教育実習 I	4後			2			○	3	1				
	中等教育実習 II	4後			2			○	2	1				
	教育実習演習 (中・高)	4後			2			○	4	1				共同
	学校経営と学校図書館	4前			2	○								兼1
	学校図書館メディアの構成	4前			2	○								兼1
	学習指導と学校図書館	4前			2	○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					授業形態						専任教員等の配置					備考											
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																	
自由 選択 科目	経営と豊かな人間性	3後			2	○											※1													
	情報メディアの活用	3後			2	○											※1													
	図書館概論	3前			2	○											※1													
	図書館情報技術論	3前			2	○											※1													
	図書館制度・経営論	3前			2	○											※1													
	図書館サービス概論	3後			2	○											※1													
	情報サービス論	3後			2	○											※1													
	児童サービス論	3後			2	○											※1													
	情報サービス実習	3後			2		○										※1													
	図書館情報資源概論	3前			2	○											※1													
	情報資源組織論	3後			2	○											※1													
	情報資源組織実習	3後			2		○										※1													
	図書・図書館史	4前			1	○											※1													
	図書館施設論	4後			1	○											※1													
	博物館概論	3前			2	○											※1													
	博物館経営論	3前			2	○											※1													
	博物館資料論	3後			2	○											※1													
	博物館資料保存論	3後			2	○											※1													
	博物館展示論	4前			2	○											※1													
	博物館教育論	4前			2	○											※1													
	博物館情報・メディア論	4後			2	○											※1													
	博物館実習	4通			3		○		1	1							※1													
	小計46 (科目)		—	0	0	89	—	—	5	2	0	0	0	0	0	0	0	※9												
合計 (162科目)		—	62	164	89	—	—	14	4	0	0	0	0	0	0	0	※23													
学位又は称号		学士 (社会学)		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係																						
卒業要件及び履修方法																		授業期間等												
以下に掲げる基準を見たとし、合計124単位以上修得することを卒業要件とする。 <共通基礎科目> ・必修科目20単位を修得すること。 ・合計28単位以上修得すること。 <専門教育科目> (基礎科目) ・必修科目26単位を修得すること。 ・合計38単位以上修得すること。 (専門科目) ・必修科目6単位を修得すること。 ・所属コースの専門分野の選択科目から20単位以上修得すること。 ・合計38単位以上修得すること。 (関連科目) ・合計10単位以上修得すること。 (基礎・専門演習科目) ・6単位修得すること。 (卒業研究) ・4単位修得すること。																		1学年の学期区分					2期							
																		1学期の授業期間					15週							
																		1時限の授業時間					90分							
※ 履修科目の登録の上限は、年間45単位を上限とする。 ただし、免許・資格取得のために自由選択科目を履修する場合はこの限りでない。																														
※ 自由選択科目の修得単位数は卒業要件に含まない。																														

- 1 11年次 学科共通で、基礎となる視野・教養や、社会学を学ぶうえで基礎となる知識・能力を身につける。
- 1 22・3年次 現代社会学・メディア社会学・社会心理学から所属コースを選択し、専門分野を中心に、幅広い知識・能力を身につける。
- 1 4年次 身につけた専門的知識・能力を活かし、専門分野の卒業研究に取り組み、問題解決能力を身につける。

1	◎ 符号	全	目
1	◎ 符号	全	目
1	◎ 符号	全	目
1	◎ 符号	全	目

- 1 1年次 学科共通で、基礎となる視野・教養や、社会学を学ぶうえでの基礎となる知識・能力を身につける。
- 1 現代社会学・メディア社会学・社会心理学から所屬コースを選択し、専門分野を中心に、幅広い知識・能力を身につける。
- 1 身につけた専門的知識・能力を活かし、専門分野の卒業研究に取り組み、問題解決能力を身につける。

[illegible]

49

赤字：全学生必修科目
橙字：全学生選択必修科目

自由選択科目

課題解決にあたる能力・姿勢の修得

100

赤字：全学生必修科目
橙字：全学生選択必修科目

[illegible]

専門の学びの 基礎となる知識・教養 の修得	キャリア意識・ 知識・能力の修得	学科共通の 専門基礎の修得	所屬コース分野を中心とした幅広い「社会学」の知識・能力の修得	問題解決に必要な 能力・姿勢の修得
現世形成科目 外国語科目 保健体育科目	キャリアデザイン 科目	基礎科目	現代社会分野 メディア社会に関する 社会心理分野 国際科目	政治・経済・倫理 科目
共通教育科目	専門教育科目			

52

カリキュラムマップ (社会学科 メディア社会学コース)

赤字：全学生必修科目

4年	合計22単位以上	卒業研究	4単位修得	自由選択科目
	キャリアデザインⅣ		選択科目20単位以上	合計6単位修得
3年	キャリアデザインⅢ		合計14単位以上	合計10単位以上
2年	キャリアデザインⅡ		合計8単位以上	合計6単位以上
1年	キャリアデザインⅠ		合計2単位以上	合計4単位以上

専門の基盤となる基礎・教養の修得	キャリア意識・知識・能力の修得	専門共通の専門基礎の修得	所属コース分野を中心とした幅広い「社会学」の知識・能力の修得	専門修得にあたる能力・技能の修得
------------------	-----------------	--------------	--------------------------------	------------------

基礎科目

キャリアデザイン

共通基盤科目

専門科目

メディア社会学

社会学

選択科目

社会学分野

社会学

自由選択科目

社会学

社会学

カリキュラムマップ (社会学科 社会心理学コース)

単位：全学必修科目

4年	合計20単位以上	卒業研究	合計40単位以上	合計60単位以上	合計80単位以上	合計100単位以上	合計120単位以上
	キャリアデザインⅣ		卒業研究	合計40単位以上	合計60単位以上	合計80単位以上	合計100単位以上
3年	キャリアデザインⅢ						
2年	キャリアデザインⅡ						
1年	キャリアデザインⅠ						

専門の学びの基礎となる分野・教養の修得	キャリア意識・知識・能力の修得	学域共通の専門基礎の修得	所属コース分野を中心とした幅広い「社会学」の知識・能力の修得	課題解決にあたる能力・姿勢の修得
基礎形成科目 外国語科目 保健体育科目	キャリアデザイン 科目	基礎科目	現代社会分野 メディア社会分野 社会心理分野 関連科目	基礎・専門両方 科目

自由選択科目

55

[illegible]

[illegible][illegible]

57

[illegible]

【後期】割間時史想 船井金花

[illegible]

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (16～21ページ)

新	旧
(2) 教育課程の編成 ① 科目区分の設定 設置の趣旨、養成する人材像、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）をふまえ、以下の「共通基礎科目」「専門教育科目」「自由選択科目」の3つの大区分及び各区分からなる教育課程を編成する。 ○ 共通基礎科目 共通基礎科目は、「社会学」に関する専門的な学び展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力や、アカデミックスキル、心身の健康の増進、キャリア意識の養成を図ることを目的に設定する。 ○ 専門教育科目 専門教育科目は、「基盤科目」において、「社会学」に関する基礎的な知識、現代社会学、メディア社会学、社会心理学の専門の学び、及び「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識、視野の学びの導入、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識を養成し、「専門科目」において、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各コースの専門分野に関する知識技能や、関連隣接する知識能力を養成し、「基礎・専門演習科目」において、社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や社会に貢献する意欲を養成し、「卒業研究」において、各学生が研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識を養成することを目的に設定する。 ○ 自由選択科目 自由選択科目には、免許・資格取得に必要な選択科目を配置する。取得単位は、本学部社会科学の卒業要件に含まない。 ② 科目区分の科目構成 ○ 共通基礎科目 共通基礎科目は、さらに「視野形成科目」「外国語科目」「保健体育科目」「キャリアデザイン科目」の4つの区分によって構成され、それぞれ	(2) 教育課程の編成 ① 科目区分の設定 設置の趣旨、養成する人材像、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）をふまえ、以下の「共通基礎科目」「専門教育科目」「自由選択科目」の3つの大区分及び各区分からなる教育課程を編成する。 ○ 共通基礎科目 共通基礎科目は、「社会学」に関する専門的な学び展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力や、アカデミックスキル、心身の健康の増進、キャリア意識の養成を図ることを目的に設定する。 ○ 専門教育科目 専門教育科目は、「基盤科目」において、社会学に関する基礎的な知識、及び現代社会学、メディア社会学、社会心理学の基礎的知識、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識を養成し、「専門科目」において、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各コースの専門分野に関する知識技能や、関連隣接する知識能力を養成し、「基礎・専門演習科目」において、社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や社会に貢献する意欲を養成し、「卒業研究」において、各学生が研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識を養成することを目的に設定する。 ○ 自由選択科目 自由選択科目には、免許・資格取得に必要な選択科目を配置する。取得単位は、本学部社会科学の卒業要件に含まない。 ② 科目区分の科目構成 ○ 共通基礎科目 共通基礎科目は、さらに「視野形成科目」「外国語科目」「保健体育科目」「キャリアデザイン科目」の4つの区分によって構成され、それぞれ以下の授業科目を開設する。

以下の授業科目を開設する。

(視野形成科目)

視野形成科目は、本学部学科の学生が、「社会学」を学ぶうえで基礎となる視野、教養を身につけることを目的としており、「哲学入門」「倫理学入門」「日本人論」「伝統と文化」「ことばと文学」「心理学入門」「法学入門」「日本国憲法」「人間関係論」「数学入門」「物理学入門」「化学入門」「コンピュータ入門」「統計学入門」の授業科目を1年次または1・2年次配当で各2単位開設し、専門の学びの基礎となる「哲学入門」「倫理学入門」「法学入門」「コンピュータ入門」「統計学入門」の計10単位は全学生必修とする。

(外国語科目、保健体育科目)

外国語科目には、「英語Ⅰ・Ⅱ(1年次配当)」「英語Ⅲ・Ⅳ(2年次配当)」「英語演習Ⅰ・Ⅱ(3年次配当)」を各1単位で開設し、「保健体育科目」には、「スポーツ(1年次配当)」を2単位で開設する。

基本的な英語力を養成する目的から、「英語Ⅰ・Ⅱ(1年次配当)」の計2単位は全学生必修とする。

(キャリアデザイン科目)

キャリアデザイン科目には、「キャリアデザインⅠ(1年次配当)」「キャリアデザインⅡ(2年次配当)」「キャリアデザインⅢ(3年次配当)」「キャリアデザインⅣ

(4年次配当)」を各2単位で開設する。

大学での学びを知り、キャリア意識、知識、能力を養成し、進路決定につなげる目的から全科目計8単位、全学生必修とする。

○ 専門教育科目

専門教育科目は、さらに「基盤科目」「専門科目」「基礎・専門演習科目」「卒業研究」の4つの区分によって構成されており、「専門科目」は、さらに「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」に区分され、それぞれ以下の授業科目を開設する。

(基盤科目)

基盤科目は、「社会学」に関する基礎的知識、現代社会学、メディア社会学、社会心理学の学びの導入知識、及び「社会学」を学ぶうえで基礎となる知識、視野の学びの導入知識、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぶうえで基

(視野形成科目)

視野形成科目は、本学部学科の学生が、「社会学」を学ぶうえで基礎となる視野、教養を身につけることを目的としており、「哲学入門」「倫理学入門」「日本人論」「伝統と文化」「ことばと文学」「心理学入門」「法学入門」「日本国憲法」「人間関係論」「数学入門」「物理学入門」「化学入門」「コンピュータ入門」「統計学入門」の授業科目を1年次配当各2単位で開設し、専門の学びの基礎となる「哲学入門」「倫理学入門」「法学入門」「コンピュータ入門」「統計学入門」の計10単位は全学生必修とする。

(外国語科目、保健体育科目)

外国語科目には、「英語Ⅰ・Ⅱ(1年次配当)」「英語Ⅲ・Ⅳ(2年次配当)」「英語演習Ⅰ・Ⅱ(3年次配当)」を各1単位で開設し、「保健体育科目」には、「スポーツ(1年次配当)」を2単位で開設する。

基本的な英語力を養成する目的から、「英語Ⅰ・Ⅱ(1年次配当)」の計2単位は全学生必修とする。

(キャリアデザイン科目)

キャリアデザイン科目には、「キャリアデザインⅠ(1年次配当)」「キャリアデザインⅡ(2年次配当)」「キャリアデザインⅢ(3年次配当)」「キャリアデザインⅣ(4年次配当)」を各2単位で開設する。大学での学びを知り、キャリア意識、知識、能力を養成し、進路決定につなげる目的から全科目計8単位、全学生必修とする。

○ 専門教育科目

専門教育科目は、さらに「基盤科目」「専門科目」「基礎・専門演習科目」「卒業研究」の4つの区分によって構成されており、「専門科目」は、さらに「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」に区分され、それぞれ以下の授業科目を開設する。

(基盤科目)

基盤科目は、社会学に関する基礎的知識、及び現代社会学、メディア社会学、社会心理学の基礎的知識、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぶうえで基礎となる知識の養成を目的としている。

「社会学に関する基礎的な知識」を養成する科目として「社会学入門Ⅰ・Ⅱ」の授業科目を1年次に各2単位で開設し、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各専門分野の基

盤となる知識、視野の養成を目的に、「社会学」に関する基礎的な知識を養成する科目として「社会学入門Ⅰ・Ⅱ」の授業科目を1年次に各2単位で開設し、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各専門分野の学びの導入科目として「現代と社会」「社会とメディア」「社会と心理」の授業科目、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識、視野の学びの導入科目として「社会と歴史」「社会と文化」「社会と環境」の授業科目を1年次に各2単位で開設する。

また、調査・分析の知識方法や技術を養成する科目として、「社会調査入門」「データ分析」「社会調査方法論」「社会統計学」「量的調査法」「質的調査法」「社会調査実習」の授業科目を、「量的調査法」「質的調査法」は各1単位、その他は2単位で、2年次からの各専門分野の学び、専門演習を念頭に、1、2年次に段階的に開設する。

また、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識、視野を養成する科目として、「人文地理学概論」「自然地理学概論」「地誌学概論」「日本史概論」「外国史概論」「政治学概論」「経済学概論」を2年次に各2単位で、「人文地理学」「自然地理学」「地誌学」「日本史」「外国史」「政治学」「経済学原論」を2、3年次に各2単位で開設する。

また、全学生が、「社会学」に関する基礎的知識、現代社会学、メディア社会学、社会心理学の専門の学びへの導入知識、基盤となる知識、視野の学びの導入知識、社会調査に関する基礎的な知識、能力、「社会学」を学ぶうえで基盤となる概論知識を身につけることができるよう、1年次開設の「社会学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代と社会」「社会とメディア」「社会と心理」「社会と歴史」「社会と文化」「社会と環境」「社会調査入門」、2年次開設の「人文地理学概論」「自然地理学概論」「地誌学概論」「日本史概論」「外国史概論」「政治学概論」「経済学概論」の16科目32単位を全学生必修とする。

(専門科目)

専門科目は、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各コースの専門分野に関する知識技能や、関連隣接する知識能力を養成することを目的としている。

配当年次は、個々の学生の学びの目的に応じた履修計画に対応できるよう、「関連科目」の学びが2年次からのコース選択の検討材料となるよう、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」の3分野の授業科目は、2～3年次の間に、「関連科目」の授業科目は、1～3年次の間に、それぞれの目的に応じて配当する。

また、全学生が「現代社会学」「メディア社会学」

基礎的知識を養成する科目として「現代と社会」「社会とメディア」「社会と心理」の授業科目を1年次に各2単位で開設する。

また、調査・分析の知識方法や技術を養成する科目として、「社会調査入門」「データ分析」「社会調査方法論」「社会統計学」「量的調査法」「質的調査法」「社会調査実習」の授業科目を、「量的調査法」「質的調査法」は各1単位、その他は2単位で、2年次からの各専門分野の学び、専門演習を念頭に、1、2年次に段階的に開設する。

また、「社会学」を学ぶうえで基盤となる基礎的な知識を養成する科目として、「人文地理学概論」「自然地理学概論」「地誌学概論」「日本史概論」「外国史概論」「政治学概論」「経済学概論」を2年次に各2単位で、「人文地理学」「自然地理学」「地誌学」「日本史」「外国史」「政治学」「経済学原論」を2、3年次に各2単位で開設する。また、社会学科の全学生が、「社会学」に関する基礎的知識、現代社会学、メディア社会学、社会心理学に関する基礎的知識、社会調査に関する基礎的な知識、能力、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識を身につけることができるよう、1年次開設の「社会学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代と社会」「社会とメディア」「社会と心理」「社会調査入門」、2年次開設の「人文地理学概論」「自然地理学概論」「地誌学概論」「日本史概論」「外国史概論」「政治学概論」「経済学概論」の13科目26単位を全学生必修とする。

(専門科目)

専門科目は、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各コースの専門分野に関する知識技能や、関連隣接する知識能力を養成することを目的としている。

配当年次は、個々の学生の学びの目的に応じた履修計画に対応できるよう、また、「関連科目」の学びが、2年次からのコース選択の検討材料となるよう、また、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」の3分野の授業科目は、2～3年次の間に、「関連科目」の授業科目は、1～3年次の間に、それぞれの目的に応じて配当する。

また、全学生が「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の概論知識を身につけることができるよう、「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」の合計6単位は、全学生必修とする。

また、学生が、各所属コースの学びを中心に専門の学びを深めることができるよう、所属コースの専門科目分野の選択科目から20単位以上修得するとともに、他コースの学びや、関連科目の学びを通じて「社会」を幅広い視野でとらえ、また、専門の学びの深化や、学びの融合、展開を図ることができるよう、「現代社会学分野」「メディア社

「社会心理学」の概論知識を身につけることができるよう、「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」の合計6単位は、全学生必修とする。

また、学生が、各所属コースの学びを中心に専門の学びを深めることができるよう、所属コースの専門科目分野の選択科目から20単位以上修得するとともに、他コースの学びや、関連科目の学びを通じて「社会」を幅広い視野でとらえ、また、専門の学びの深化や、学びの融合、展開を図ることができるよう、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」の3分野から合計38単位以上、「関連科目」に配する授業科目から必修科目の「グローバリゼーション論」2単位、必修選択科目の「日本の地域文化」「社会と子ども」のいずれか2単位を含む計10単位以上修得することを卒業要件に定める。

各区分の開設科目は、以下の通りである。

現代社会学分野

現代社会学概論、地域社会学、家族社会学、産業社会学、環境社会学、教育社会学、国際社会学、社会保障論、社会問題論、日本思想史、社会文化論、大衆文化論、サブカルチャー論、ジェンダー論、観光学概論

メディア社会学分野

メディア社会学概論、メディア環境論、メディア文化論、メディアの法と倫理、マス・コミュニケーション論、ジャーナリズム論、活字メディア論、新聞論、広告論、インターネットコミュニケーション論、マルチメディア論、ネット報道論、放送メディア論、映像コミュニケーション論、メディア制作演習

社会心理学分野

社会心理学概論、社会と個人、動機づけの心理、認知心理学、知覚心理学、生理心理学、対人関係論、コミュニケーション論、犯罪心理学、社会と集団、意思決定の心理学、行動科学、経済心理学、人間と文化、人間と音楽、宗教と社会

関連科目

グローバリゼーション論、日本の地域文化、社会と子ども、人間と暮らし、地域研究、資源論、都市と空間、まちと美術館、生涯学習論、文化人類学、報道の現場、国際報道論、スポーツ報道論、オリンピック論、伝える文化、広告史、PR論、コミュニティ心理、心理測定法、心理学実験Ⅰ、心理学実験Ⅱ

会学分野」「社会心理学分野」の3分野から合計38単位以上、「関連科目」に配する授業科目から10単位以上修得することを卒業要件に定める。各区分の開設科目は、以下の通りである。

現代社会学分野

現代社会学概論、地域社会学、家族社会学、産業社会学、環境社会学、教育社会学、国際社会学、社会保障論、社会問題論、日本思想史、社会文化論、大衆文化論、サブカルチャー論

メディア社会学分野

メディア社会学概論、メディア環境論、メディア文化論、メディアの法と倫理、マス・コミュニケーション論、ジャーナリズム論、活字メディア論、新聞論、広告論、インターネットコミュニケーション論、マルチメディア論、ネット報道論、映像コミュニケーション論、メディア制作演習

社会心理学分野

社会心理学概論、人間と暮らし、コミュニティ心理、コミュニケーション論、対人関係論、行動科学、経済心理学、犯罪心理学、人間と文化、人間と音楽、認知心理学、知覚心理学、生理心理学

関連科目

資源論、都市と空間、グローバリゼーション論、まちと美術館、生涯学習論、文化人類学、報道の現場、国際報道論、スポーツ報道論、オリンピック論、伝える文化、広告史、PR論、動機づけの心理、日本の地域文化、社会と子ども、宗教と社会、地域研究、心理測定法、心理学実験Ⅰ、心理学実験Ⅱ

新	旧
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (1) 授業の方法・学生数・配当年次 授業の方法は、「講義形式」「演習形式」「実験・実習形式」とし、養成する人材像に掲げる「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する」、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編制の方針（カリキュラム・ポリシー）をふまえ、授業の方法、学生数、配当年次を以下の通り設定する。 ○ 共通基礎科目 「共通基礎科目」は、「視野形成科目」「外国語科目」「保健体育科目」「キャリアデザイン科目」によって構成され、「社会学」に関する専門的な学びを展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力や、アカデミックスキル、心身の健康の維持・増進、キャリア意識の養成を図ることを目的とする科目を配置する。 (視野形成科目・保健体育科目) 「コンピュータ入門」(演習形式)「スポーツ」(実験・実習形式)は、50～60名の規模で実施し、その他の「講義形式」で実施する授業は社会学科の入学定員の200名を原則超えない規模で、1年次または1・2年次配当とし、専門の学びの基礎となる知識修得や視野形成を図るため、「哲学入門」「倫理学入門」「法律学入門」「コンピュータ入門」「統計学入門」は全学生必修とする。 (外国語科目) 「英語Ⅰ～Ⅳ」「英語演習Ⅰ・Ⅱ」は、いずれも「演習形式」により50～60名の規模で実施する。全学生必修の「英語Ⅰ・Ⅱ」は1年次、選択科目の「英語Ⅲ・Ⅳ」は2年次、「英語演習Ⅰ・Ⅱ」は3年次に配当する。 (キャリアデザイン科目) 「キャリアデザイン科目」は、アカデミックスキルの養成、キャリア意識の形成から進路決定に至るまで段階的、系統的な演習指導を要するため、「演習形式」で50～60名の規模で実施し、1年次から4年次まで通年開設の全学生必修とする。	6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (1) 授業の方法・学生数・配当年次 授業の方法は、「講義形式」「演習形式」「実験・実習形式」とし、養成する人材像に掲げる「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する」、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編制の方針（カリキュラム・ポリシー）をふまえ、授業の方法、学生数、配当年次を以下の通り設定する。 ○ 共通基礎科目 「共通基礎科目」は、「視野形成科目」「外国語科目」「保健体育科目」「キャリアデザイン科目」によって構成され、「社会学」に関する専門的な学びを展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力や、アカデミックスキル、心身の健康の維持・増進、キャリア意識の養成を図ることを目的とする科目を配置する。 (視野形成科目・保健体育科目) 「コンピュータ入門」(演習形式)「スポーツ」(実験・実習形式)は、50～60名の規模で実施し、その他の「講義形式」で実施する授業科目は、社会学科の入学定員の200名を原則超えない規模でいずれも1年次配当とし、専門の学びの基礎となる知識修得や視野形成を図るため、「哲学入門」「倫理学入門」「法律学入門」「コンピュータ入門」「統計学入門」は全学生必修とする。 (外国語科目) 「英語Ⅰ～Ⅳ」「英語演習Ⅰ・Ⅱ」は、いずれも「演習形式」により50～60名の規模で実施する。全学生必修の「英語Ⅰ・Ⅱ」は1年次、選択科目の「英語Ⅲ・Ⅳ」は2年次、「英語演習Ⅰ・Ⅱ」は3年次に配当する。 (キャリアデザイン科目) 「キャリアデザイン科目」は、アカデミックスキルの養成、キャリア意識の形成から進路決定に至るまで段階的、系統的な演習指導を要するため、「演習形式」で50～60名の規模で実施し、1年次から4年次まで通年開設の全学生必修とする。

○ 専門教育科目

「専門教育科目」は、「基盤科目」「専門科目」「基礎・専門演習科目」「卒業研究」によって構成され、「専門科目」は、さらに「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」に区分される。

「基盤科目」は、「社会学」及び「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の専門の学び、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識、視野の学びの導入知識、また、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識を、「専門科目」は、各コースの専門分野に関する知識技能や、関連する知識能力を、「基礎・専門演習科目」は、社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や、社会に貢献する意欲の養成を、「卒業研究」は、各学生が研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識の養成を図ることを目的に科目を配置する。

(基盤科目)

基盤科目配当の「社会学」及び「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の専門の学び、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識、視野の学びの導入知識の養成を目的とする授業科目は、「講義形式」で社会学科の入学定員の200名を原則超えない規模で実施し、全学生必修とする。

また、調査・分析の知識方法や技術の養成を目的とする授業科目の「社会調査入門」「社会調査方法論」は、「講義形式」で原則200名を超えない規模で、「データ分析」は、「講義形式」で50名程度の規模で、「社会統計学」は、「講義形式」で原則100名を超えない規模で、「量的調査法」「質的調査法」は、「演習形式」で原則100名を超えない規模で、「社会調査実習」は、「実験・実習形式」で原則100名を超えない規模で複数教員によるグループ指導を展開し、「社会調査入門」は全学生必修とする。

また、基盤となる基礎的な知識を養成する授業科目は、いずれも「講義形式」で原則100名を超えない規模で実施し、「人文地理学概論」「自然地理学概論」「地誌学概論」「日本史概論」「外国史概論」「政治学概論」「経済学概論」は全学生必修とする。

各授業科目の配当年次は、基礎から発展への学びの展開、2年次からのコース分属を念頭に以下の通りとする。

1年次配当

社会学入門Ⅰ、社会学入門Ⅱ、現代と社会、社

○ 専門教育科目

「専門教育科目」は、「基盤科目」「専門科目」「基礎・専門演習科目」「卒業研究」によって構成され、「専門科目」は、さらに「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」に区分される。

「基盤科目」は、「社会学」及び「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の入門導入知識、また、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識を、「専門科目」は、各コースの専門分野に関する知識技能や、関連する知識能力を、「基礎・専門演習科目」は、社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や、社会に貢献する意欲の養成を、「卒業研究」は、各学生が研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識の養成を図ることを目的に科目を配置する。

(基盤科目)

基盤科目配当の「社会学」及び「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の入門導入知識の養成を目的とする授業科目は、「講義形式」で社会学科の入学定員の200名を原則超えない規模で実施し、全学生必修とする。

また、調査・分析の知識方法や技術の養成を目的とする授業科目の「社会調査入門」「社会調査方法論」は、「講義形式」で原則200名を超えない規模で、「データ分析」は、「講義形式」で50名程度の規模で、「社会統計学」は、「講義形式」で原則100名を超えない規模で、「量的調査法」「質的調査法」は、「演習形式」で原則100名を超えない規模で、「社会調査実習」は、「実験・実習形式」で原則100名を超えない規模で複数教員によるグループ指導を展開し、「社会調査入門」は全学生必修とする。

また、基盤となる基礎的な知識を養成する授業科目は、いずれも「講義形式」で原則100名を超えない規模で実施し、「人文地理学概論」「自然地理学概論」「地誌学概論」「日本史概論」「外国史概論」「政治学概論」「経済学概論」は全学生必修とする。

各授業科目の配当年次は、基礎から発展への学びの展開、2年次からのコース分属を念頭に以下の通りとする。

1年次配当

社会学入門Ⅰ、社会学入門Ⅱ、現代と社会、社会とメディア、社会と心理、社会調査入門、データ分析、社会調査方法論、社会統計学、量的調査法、質的調査法

会とメディア、社会と心理、社会と歴史、社会と文化、社会と環境、社会調査入門、データ分析、社会調査方法論、社会統計学、量的調査法、質的調査法 2年次配当 社会調査実習、人文地理学概論、自然地理学概論、地誌学概論、日本史概論、外国史概論、政治学概論、経済学概論 2・3年次配当 人文地理学、自然地理学、地誌学、日本史、外国史、政治学、経済学原論 (専門科目) 「専門科目」は、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」の区分からなり、各コースの専門分野に関する知識技能や、専門分野に関連隣接する知識能力を養成することを目的としている。 各コースの専門分野科目については、設置の趣旨、養成する人材像をふまえ、「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」の各コースの概論科目は全学生必修とし、原則200名を超えない規模で「講義形式」で実施し、その他の各分野の専門科目は、原則50名を超えない規模で「演習形式」で実施する「メディア制作演習」以外の授業科目については、原則100名を超えない規模で「講義形式」で実施し、3コースの専門分野科目から38単位を修得し、かつ、所属コース分野の選択科目から20単位以上を修得することを卒業要件とすることで、所属コースの専門の学びを中心とした幅広い知識、能力の養成を図る。 また、「関連科目」は、原則50名を超えない規模で「実験・実習形式」で実施する「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」以外、原則100名を超えない規模で「講義形式」で実施する。 各授業科目の配当年次については、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」科目は、全学生が3分野の基礎的な知識や視野を身につけたうえで、専門の学びを深めることができるよう、概論科目は2年次配当とし、その他の授業科目は、所属するコースの専門科目を中心に、他分野の授業科目を段階的に履修することができるよう、2・3年次に配当する。また、「関連科目」は、2年次からのコース選択検討の学びとしての目的、専門の学びを深める目的、また、学びの幅を広げる目的から、1・2・3年次、または2・3年次に配当する。 (現代社会学分野)	2年次配当 社会調査実習、人文地理学概論、自然地理学概論、地誌学概論、日本史概論、外国史概論、政治学概論、経済学概論 2・3年次配当 人文地理学、自然地理学、地誌学、日本史、外国史、政治学、経済学原論 (専門科目) 「専門科目」は、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」の区分からなり、各コースの専門分野に関する知識技能や、専門分野に関連隣接する知識能力を養成することを目的としている。 各コースの専門分野科目については、設置の趣旨、養成する人材像をふまえ、「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」の各コースの概論科目は全学生必修とし、原則200名を超えない規模で「講義形式」で実施し、その他の各分野の専門科目は、原則50名を超えない規模で「演習形式」で実施する「メディア制作演習」以外の授業科目については、原則100名を超えない規模で「講義形式」で実施し、3コースの専門分野科目から38単位を修得し、かつ、所属コース分野の選択科目から20単位以上を修得することを卒業要件とすることで、所属コースの専門の学びを中心とした幅広い知識、能力の養成を図る。 また、「関連科目」は、原則50名を超えない規模で「実験・実習形式」で実施する「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」以外、原則100名を超えない規模で「講義形式」で実施する。 各授業科目の配当年次については、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」科目は、全学生が3分野の基礎的な知識や視野を身につけたうえで、専門の学びを深めることができるよう、概論科目は2年次配当とし、その他の授業科目は、所属するコースの専門科目を中心に、他分野の授業科目を段階的に履修することができるよう、2・3年次に配当する。また、「関連科目」は、2年次からのコース選択検討の学びとしての目的、専門の学びを深める目的、学ぶの幅を広げる目的から、1・2・3年次、または2・3年次に配当する。 (現代社会学分野) 2年次配当 現代社会学概論 2・3年次配当
---	---

2 年次配当 現代社会学概論 2・3 年次配当 地域社会学、家族社会学、産業社会学、環境社会学、教育社会学、国際社会学、社会保障論、社会問題論、日本思想史、社会文化論、大衆文化論、サブカルチャー論、ジェンダー論、観光学概論 (メディア社会学分野) 2 年次配当 メディア社会学概論 2・3 年次配当 メディア環境論、メディア文化論、メディアの法と倫理、マス・コミュニケーション論、ジャーナリズム論、活字メディア論、新聞論、広告論、インターネットコミュニケーション論、マルチメディア論、ネット報道論、放送メディア論、映像コミュニケーション論、メディア制作演習 (社会心理学分野) 2 年次配当 社会心理学概論 2・3 年次配当 社会と個人、動機づけの心理、認知心理学、知覚心理学、生理心理学、対人関係論、コミュニケーション論、犯罪心理学、社会と集団、意思決定の心理学、行動科学、経済心理学、人間と文化、人間と音楽、宗教と社会 (関連科目) 1・2・3 年次配当 グローバリゼーション論、資源論、都市と空間、まちと美術館、生涯学習概論、文化人類学、報道の現場、国際報道論、スポーツ報道論、オリンピック論、伝える文化、広告史、PR 論 2・3 年次配当 日本の地域文化、社会と子ども、人間と暮らし、地域研究、心理測定法、心理学実験Ⅰ、心理学実験Ⅱ (基礎・専門演習科目、卒業研究) 「基礎・専門演習科目」は、社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や、社会に貢献する意欲の養成を、「卒業研究」では、各学生が研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識の養成	地域社会学、家族社会学、産業社会学、環境社会学、教育社会学、国際社会学、社会保障論、社会問題論、日本思想史、社会文化論、大衆文化論、サブカルチャー論 (メディア社会学分野) 2 年次配当 メディア社会学概論 2・3 年次配当 メディア環境論、メディア文化論、メディアの法と倫理、マス・コミュニケーション論、ジャーナリズム論、活字メディア論、新聞論、広告論、インターネットコミュニケーション論、マルチメディア論、ネット報道論、映像コミュニケーション論、メディア制作演習 (社会心理学分野) 2 年次配当 社会心理学概論 2・3 年次配当 人間と暮らし、コミュニティ心理、コミュニケーション論、対人関係論、行動科学、経済心理学、犯罪心理学、人間と文化、人間と音楽、認知心理学、知覚心理学、生理心理学 (関連科目) 1・2・3 年次配当 資源論、都市と空間、グローバリゼーション論、まちと美術館、生涯学習概論、文化人類学、報道の現場、国際報道論、スポーツ報道論、オリンピック論、伝える文化、広告史、PR 論、動機づけの心理 2・3 年次配当 日本の地域文化、社会と子ども、宗教と社会、地域研究、心理測定法、心理学実験Ⅰ、心理学実験Ⅱ (基礎・専門演習科目、卒業研究) 「基礎・専門演習科目」は、社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や、社会に貢献する意欲の養成を、「卒業研究」では、各学生が研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識の養成を図ることを目的に配置する。 1 年次配当の「基礎演習」は、2 年次から展開
---	---

を図ることを目的に配置する。

1 年次配当の「基礎演習」は、2 年次から展開される「専門科目」の学びの意義の理解、調査の方法やプレゼンテーションの方法の修得を図ることを目的に、複数の指導教員のもと 20 名程度のグループを編成し、共通のテーマについて調査研究、発表する取り組みを展開する。「専門演習Ⅰ・Ⅱ」は、複数の指導教員のもと、所属コース毎に 20 名程度のグループを編成し、研究テーマを掲げ、調査研究、ディスカッション、プレゼンテーションを行う PBL 型演習の展開を通して、専門に研究を進める分野、テーマについて検討する意識の醸成、また、研究テーマを掲げ、調査研究、課題解決の方法を研究成果としてまとめる力を身につけ、4 年次の卒業研究につなげることを目的に、「専門演習Ⅰ」は 2 年次、「専門演習Ⅱ」は 3 年次に配当する。4 年次配当の「卒業研究」は、各コースの指導教員が 10 名程度の学生を担当し、個々の学生が研究テーマを掲げ、調査研究結果を成果物としてまとめ報告する取り組みを「演習形式」で展開する。

○ 自由選択科目

自由選択科目には、主に免許資格取得に必要な授業科目を配する。授業科目の配当年次は、「共通基礎科目」「専門教育科目」の学び、各免許資格の学びの段階的な展開を考慮し、3、4 年次を中心に配当する。自由選択科目の修得単位数は、卒業要件に含まない。

(2) 履修指導方法

① オリエンテーション・履修ガイダンス

履修に関する学生の理解を深めるために、入学時に、学生便覧を配付して、オリエンテーションを実施し、学部目標、養成する人材像、教育課程の編成、単位数の考え方、卒業要件、大学生活等について説明を行うとともに、各学年の学期当初に履修ガイダンスを実施し、適切な履修計画策定に向けて履修指導を行う。

また、本学部では、担任制をとっており（1 クラス 50～60 名）、各学年の担任教員が、大学生活、履修の進め方、コース選択、留学、進学等の全般に関する相談、指導にあたり、学部会議、教授会を通じて、学部内での情報共有、連携を図るとともに、必要に応じて、関係部署との連携協力のもと、適切な学生指導を展開する。

また、本学では、学生への円滑な情報伝達、授受を図るため、「学生情報システム」を導入し、大学の内外を問わず、インターネットによりシステムにアクセスし、ポータルサイト上から履修登録、授業時間割、シラバス、単位取得に関

される「専門科目」の学びの意義の理解、調査の方法やプレゼンテーションの方法の修得を図ることを目的に、複数の指導教員のもと 20 名程度のグループを編成し、共通のテーマについて調査研究、発表する取り組みを展開する。「専門演習Ⅰ・Ⅱ」は、複数の指導教員のもと、所属コース毎に 20 名程度のグループを編成し、研究テーマを掲げ、調査研究、ディスカッション、プレゼンテーションを行う PBL 型演習の展開を通して、専門に研究を進める分野、テーマについて検討する意識の醸成、また、研究テーマを掲げ、調査研究、課題解決の方法を研究成果としてまとめる力を身につけ、4 年次の卒業研究につなげることを目的に、「専門演習Ⅰ」は 2 年次、「専門演習Ⅱ」は 3 年次に配当する。4 年次配当の「卒業研究」は、各コースの指導教員が 10 名程度の学生を担当し、個々の学生が研究テーマを掲げ、調査研究結果を成果物としてまとめ報告する取り組みを「演習形式」で展開する。

○ 自由選択科目

自由選択科目には、主に免許資格取得に必要な授業科目を配する。授業科目の配当年次は、「共通基礎科目」「専門教育科目」の学び、各免許資格の学びの段階的な展開を考慮し、3、4 年次を中心に配当する。自由選択科目の修得単位数は、卒業要件に含まない。

(2) 履修指導方法

① オリエンテーション・履修ガイダンス

履修に関する学生の理解を深めるために、入学時に、学生便覧を配付して、オリエンテーションを実施し、学部目標、養成する人材像、教育課程の編成、単位数の考え方、卒業要件、大学生活等について説明を行うとともに、各学年の学期当初に履修ガイダンスを実施し、適切な履修計画策定に向けて履修指導を行う。

また、本学部では、担任制をとっており（1 クラス 50～60 名）、各学年の担任教員が、大学生活、履修の進め方、コース選択、留学、進学等の全般に関する相談、指導にあたり、学部会議、教授会を通じて、学部内での情報共有、連携を図るとともに、必要に応じて、関係部署との連携協力のもと、適切な学生指導を展開する。

また、本学では、学生への円滑な情報伝達、授受を図るため、「学生情報システム」を導入し、大学の内外を問わず、インターネットによりシステムにアクセスし、ポータルサイト上から履修登録、授業時間割、シラバス、単位取得に関する情報を照会することが可能な体制を整備

する情報を照会することが可能な体制を整備している。

(3) 卒業要件

○ 共通基礎科目

「共通基礎科目」は、「視野形成科目」「外国語科目」「保健体育科目」「保健体育科目」「キャリアデザイン科目」の区分で構成され、「社会学」に関する専門の学びを展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力や、アカデミックスキル、キャリア意識の養成を図ることを目的としている。

「視野形成科目」は、専門の学びの基礎となる知識修得や視野形成を図る目的から、「哲学入門」「倫理学入門」「法学入門」「コンピュータ入門」「統計学入門」の計10単位を全学生必修とし、「外国語科目」は、基本的な英語力を養成する目的から、「英語Ⅰ・Ⅱ」の計2単位を全学生必修とし、「キャリアデザイン科目」は、大学での学びを知り、キャリア意識、知識、能力を養成し、進路決定を図る目的から、全科目計8単位を全学生必修とし、「共通基礎科目」全体から28単位以上の修得を卒業要件とする。

○ 専門教育科目

「専門教育科目」は、「基盤科目」「専門科目」「基礎・専門演習科目」「卒業研究」の4つの区分によって構成されており、「専門科目」は、さらに「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」に区分される。

「基盤科目」は、「社会学」に関する基礎的知識、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」に関する専門の学びの導入知識、及び「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識、視野の学びの導入知識、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識、視野の養成を目的としており、「社会学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代と社会」「社会とメディア」「社会と心理」「社会と歴史」「社会と文化」「社会と環境」「社会調査入門」「人文地理学概論」「自然地理学概論」「地誌学概論」「日本史概論」「外国史概論」「政治学概論」「経済学概論」の16科目32単位を全学生必修とし、「基盤科目」全体から38単位以上の修得を卒業要件とする。

「専門科目」は、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各コースの専門分野に関する知識技能や、関連隣接する知識能力の養成を目的としており、各コースの概論の学びを基礎に専門の学びが展開されるよう、「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」

している。

(3) 卒業要件

○ 共通基礎科目

「共通基礎科目」は、「視野形成科目」「外国語科目」「保健体育科目」「保健体育科目」「キャリアデザイン科目」の区分で構成され、「社会学」に関する専門的な学び展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力や、アカデミックスキル、キャリア意識の養成を図ることを目的としている。

「視野形成科目」は、専門の学びの基礎となる知識修得や視野形成を図る目的から、「哲学入門」「倫理学入門」「法学入門」「コンピュータ入門」「統計学入門」の計10単位を全学生必修とし、「外国語科目」は、基本的な英語力を養成する目的から、「英語Ⅰ・Ⅱ」の計2単位を全学生必修とし、「キャリアデザイン科目」は、大学での学びを知り、キャリア意識、知識、能力を養成し、進路決定を図る目的から、全科目計8単位を全学生必修とし、「共通基礎科目」全体から28単位以上の修得を卒業要件とする。

○ 専門教育科目

「専門教育科目」は、「基盤科目」「専門科目」「基礎・専門演習科目」「卒業研究」の4つの区分によって構成されており、「専門科目」は、さらに「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」「関連科目」に区分される。

「基盤科目」は、「社会学」に関する基礎的知識、及び「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」に関する基礎的知識、また、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識の養成を目的としており、「社会学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代と社会」「社会とメディア」「社会と心理」「社会調査入門」「人文地理学概論」「自然地理学概論」「地誌学概論」「日本史概論」「外国史概論」「政治学概論」「経済学概論」の13科目26単位を全学生必修とし、「基盤科目」全体から38単位以上の修得を卒業要件とする。

「専門科目」は、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各コースの専門分野に関する知識技能や、関連隣接する知識能力の養成を目的としており、各コースの概論の学びを基礎に専門の学びが展開されるよう、「現代社会学概論」「メディア社会学概論」「社会心理学概論」の計6単位を全学生必修とするとともに、所属コースの専門の学びを中心に幅広い知識、能力、視野を身につける目的から、所属コースの

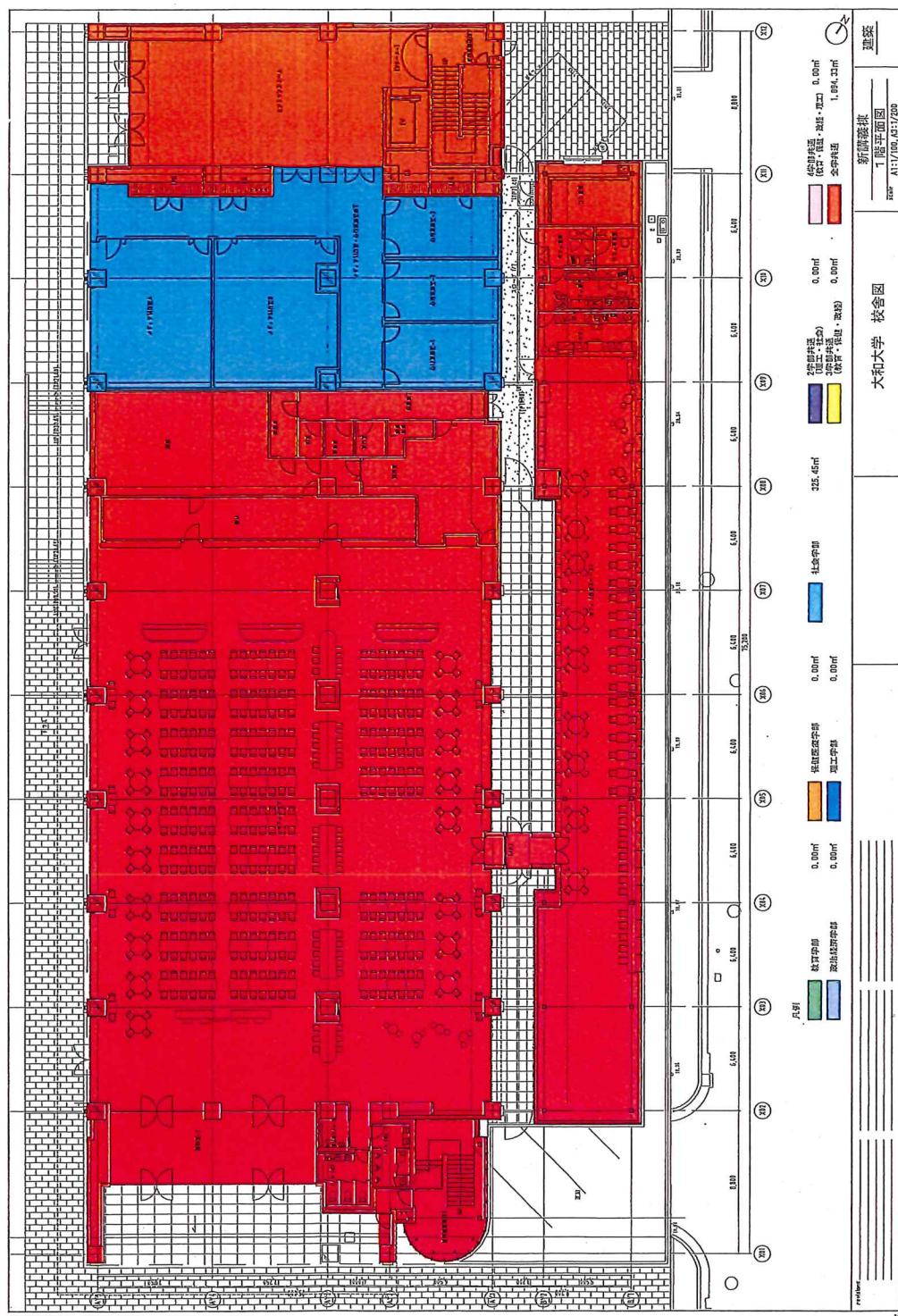
の計6単位を全学生必修とするとともに、所属コースの専門の学びを中心に幅広い知識、能力、視野を身につける目的から、所属コースの専門分野科目の選択科目から20単位以上、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」の3分野の授業科目から計38単位以上、「関連科目」から、必修科目の「グローバル化論」2単位、必修選択科目の「日本の地域文化」「社会と子ども」のいずれか2単位を含む計10単位以上の修得を卒業要件とする。 「基礎・専門演習科目」は、社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や、社会に貢献する意欲の養成を、「卒業研究」は、各学生が研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識の醸成を図ることを目的としており、週1回の指導教官による指導を含め、計60時間の調査研究、プレゼンテーションを研究活動時間とし、「基礎・専門演習科目」計6単位、「卒業研究」4単位の修得を卒業要件とする。	専門分野科目の選択科目から20単位以上、「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」の3分野の授業科目から計38単位以上、「関連科目」から10単位以上の修得を卒業要件とする。 「基礎・専門演習科目」は、社会の諸問題、課題をテーマに、調査研究、議論、発表する取り組みを通じ、課題解決の方法や、社会に貢献する意欲の養成を、「卒業研究」は、各学生が研究テーマを掲げ、研究を深めることによって、課題解決能力や、将来進路に対する意識の醸成を図ることを目的としており、週1回の指導教官による指導を含め、計60時間の調査研究、プレゼンテーションを研究活動時間とし、「基礎・専門演習科目」計6単位、「卒業研究」4単位の修得を卒業要件とする。
--	---

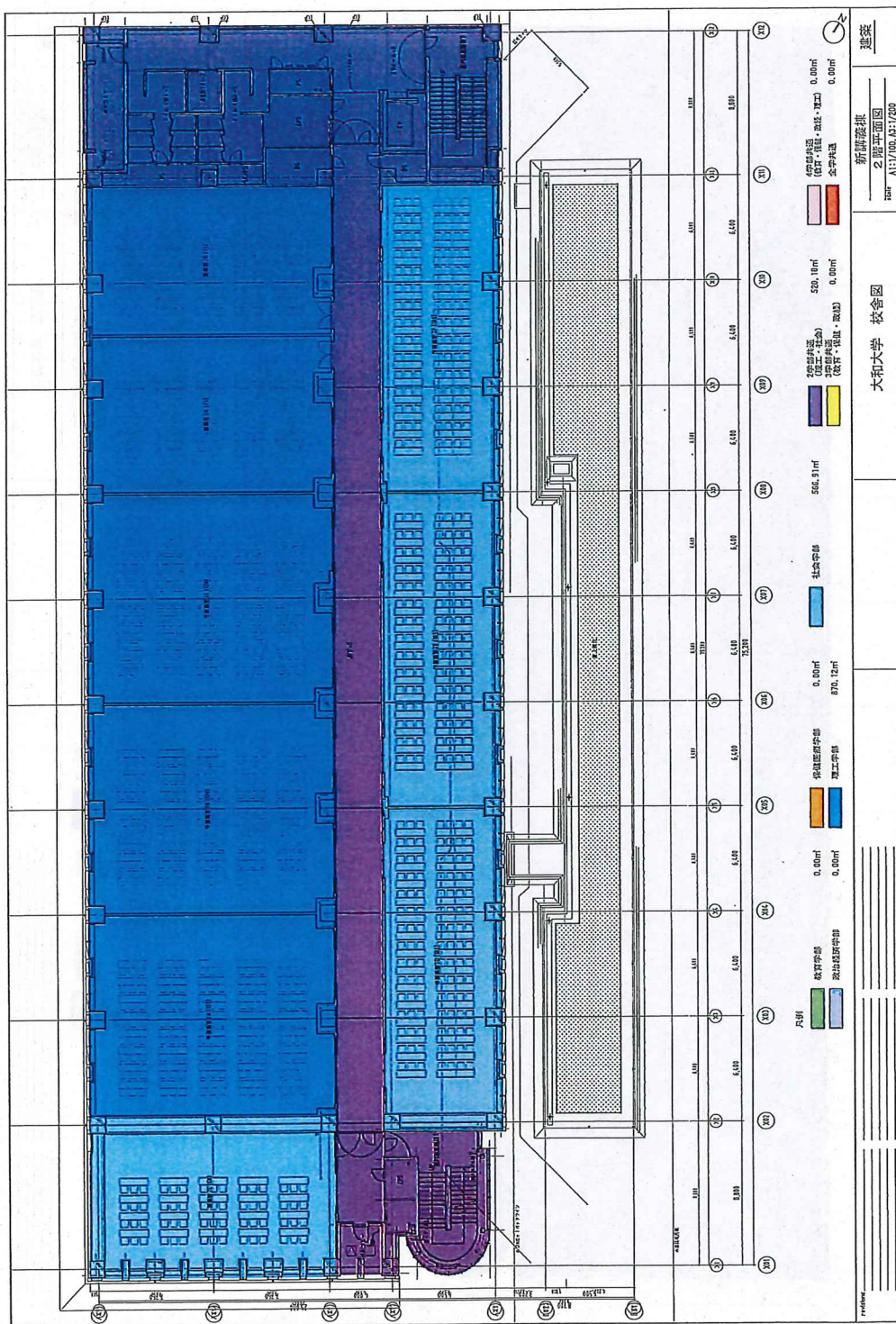
(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (35ページ)

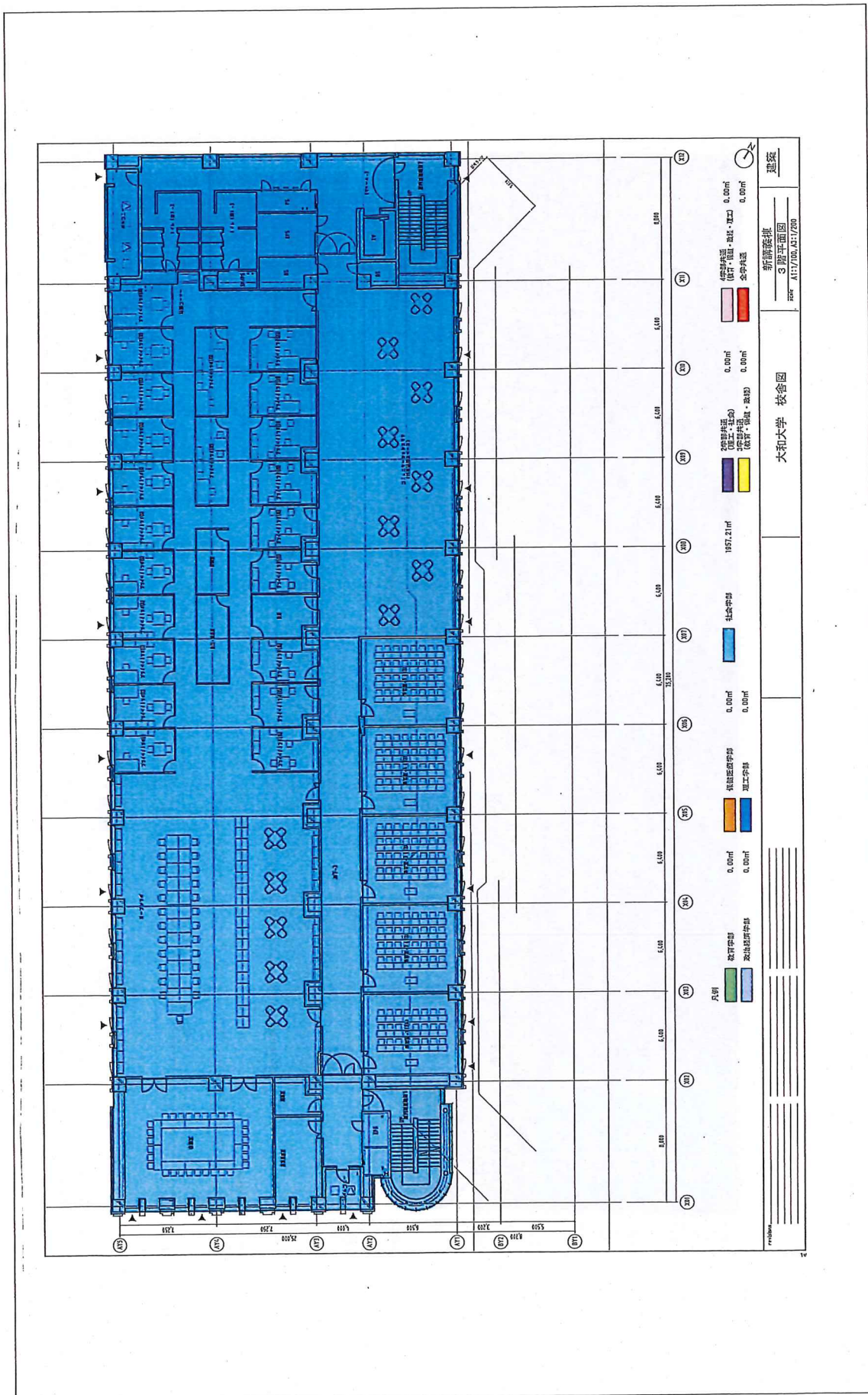
新	旧
(2) 校舎等施設の整備計画 この度の社会学部社会学科の設置にあたり、述の教育課程を展開する4F建の社会学部棟 (8,111.31 m²) を新たに建設する (令和3年2月竣工予定)。 同校舎は、1Fに、全学共用のカフェテリア (897.25 m²)、カフェ (自習スペース) (310.08 m²) とともに、「メディア制作室A・B」(各室約15～30名収容可能)、「心理実験室1・2・3」(各室約10～20名収容可能)を整備するとともに、「メディア制作室」には、映像撮影機材、編集機器、PC等、「心理実験室」には、心理測定機材、PC等を配備し、「メディア社会学コース」の「メディア制作演習」の授業科目や、「社会心理学コース」の「認知心理学」「知覚心理学」「生理心理学」「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「基礎・専門演習」「卒業研究」等の授業科目において制作、演習、実験の教育研究活動が展開できる施設を整備する。 また、2Fには、「中講義室」3室 (各室最大105名収容可能)、及び理工学部において使用する「中講義室」3室 (各室最大120名収容可能)、「講義室」3室 (60～75名収容可能)を整備する。 また、3Fには、「教員フロア」(約1,000 m²)を設け、プライベートラボ22室 (約15 m²/人)、及び教員相互の教育研究の連携、情報交換を目的としたオープンラボ (501.24 m²)の2つの機能からなる研究空間を整備する。プライベートラボには、机椅子、棚、ロッカー、ミーティングデスク、ノートパソコンを配し、施錠可能な完全個室とし、オープンラボには、全専任教員の机・椅子、複合機等を配備する。 また、同フロアには、学部長室、会議室、非常勤控室、教材・機具庫、印刷室、及び、学生指導、相談を展開するコミュニケーションエリア、プライバシー保持を要する個別相談を展開する相談室、「演習室」5室 (33名収容可能)を整備する。 情報インフラ体制については、全棟フリーアクセスのネット環境を整備し、学内ネットワーク、ファイルサーバに厳格なセキュリティシステムを導入するとともに、教職員、学生に「個人情報等の取り扱いに関するガイドライン」の周知徹底を図ることにより、厳重なデータセキュリティ体制を整備している。 また、4Fには、「大講義室」1室 (最大240名収容可能)、「中講義室」2室 (最大120名収容可能)、「中講義室」3室 (最大105名収容可能)、「講義室」1室 (60名収容可能)、「情報処理室」1室 (最大96名収容可能)を整備し、	(2) 校舎等施設の整備計画 この度の社会学部社会学科の設置にあたり、前述の教育課程を展開する4F建の社会学部棟 (8,117.05 m²) を新たに建設する (令和3年2月竣工予定)。 同校舎は、1Fに、全学共用のカフェテリア (946.63 m²)、自習スペース (275.26 m²) とともに、「メディア制作室A・B」(各室約15～30名収容可能)、「心理実験室1・2・3」(各室約10～20名収容可能)を整備するとともに、「メディア制作室」には、映像撮影機材、編集機器、PC等、「心理実験室」には、心理測定機材、PC等を配備し、「メディア社会学コース」の「メディア制作演習」の授業科目や、「社会心理学コース」の「認知心理学」「知覚心理学」「生理心理学」「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「基礎・専門演習」「卒業研究」等の授業科目において制作、演習、実験の教育研究活動が展開できる施設を整備する。 また、2Fには、「中講義室」3室 (各室最大105名収容可能)、及び理工学部において使用する「中講義室」3室 (各室最大120名収容可能)、「講義室」2室 (各室最大75名収容可能)を整備する。 また、3Fには、「教員フロア」(約835 m²)を設け、プライベートラボ19室 (約15 m²/人)、及び教員相互の教育研究の連携、情報交換を目的としたオープンラボ (393.07 m²)の2つの機能からなる研究空間を整備する。プライベートラボには、机椅子、棚、ロッカー、ミーティングデスク、ノートパソコンを配し、施錠可能な完全個室とし、オープンラボには、全専任教員の机・椅子、複合機等を配備する。 また、同フロアには、学部長室、会議室、非常勤控室、教材・機具庫、印刷室、及び、学生指導、相談を展開するコミュニケーションエリア、プライバシー保持を要する個別相談を展開する面談コーナー、「講義室」2室 (各室最大70名収容可能)、「演習室」5室 (24～32名収容)を整備する。 情報インフラ体制については、全棟フリーアクセスのネット環境を整備し、学内ネットワーク、ファイルサーバに厳格なセキュリティシステムを導入するとともに、教職員、学生に「個人情報等の取り扱いに関するガイドライン」の周知徹底を図ることにより、厳重なデータセキュリティ体制を整備している。 また、4Fには、「大講義室」1室 (最大240名収容可能)、「中講義室」2室 (最大120名収容可能)、「中講義室」3室 (最大105名収容可能)、「情報処理室」1室 (最大96名収容可能)を整備し、

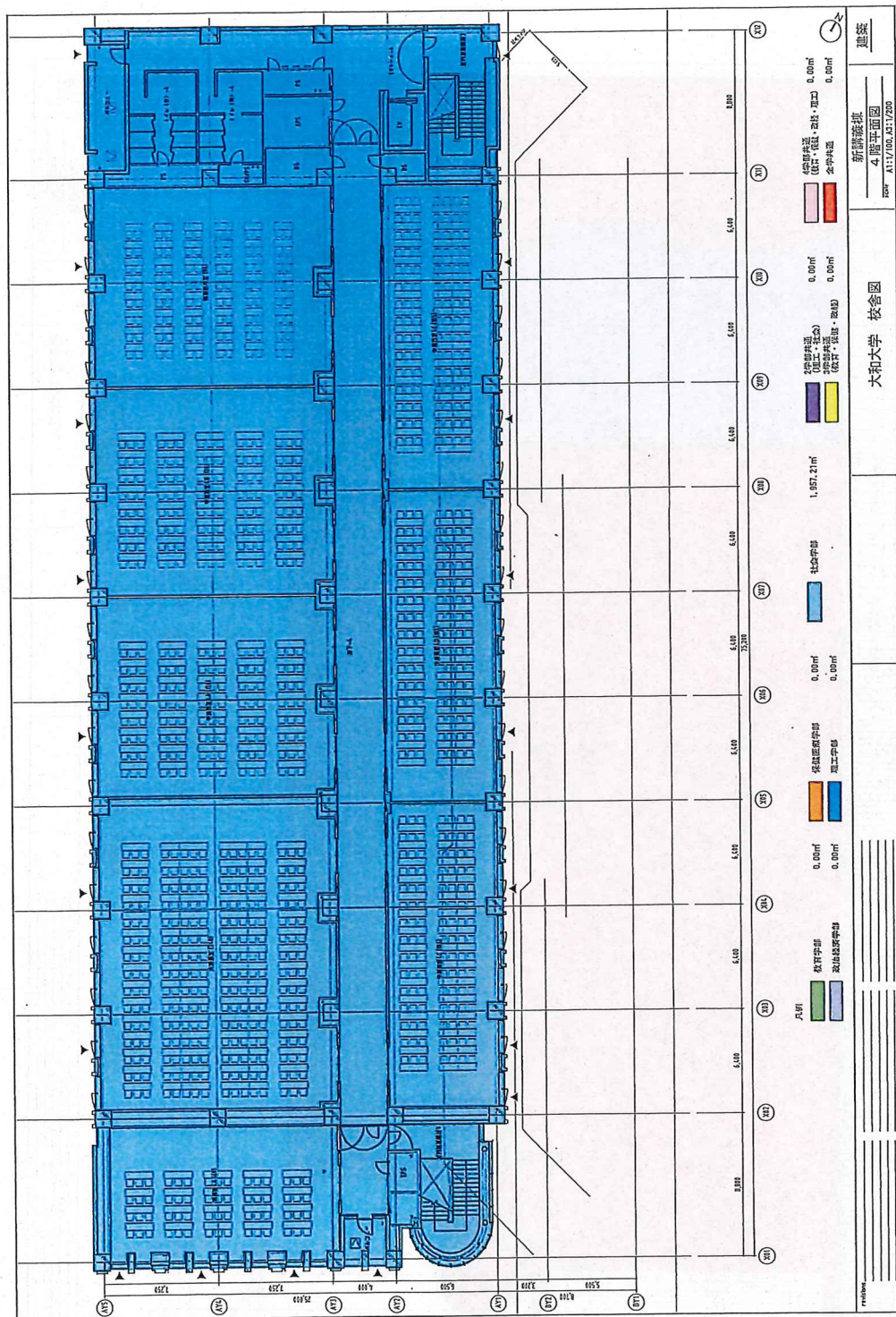
「情報処理室」にはPC96 台を配備する。

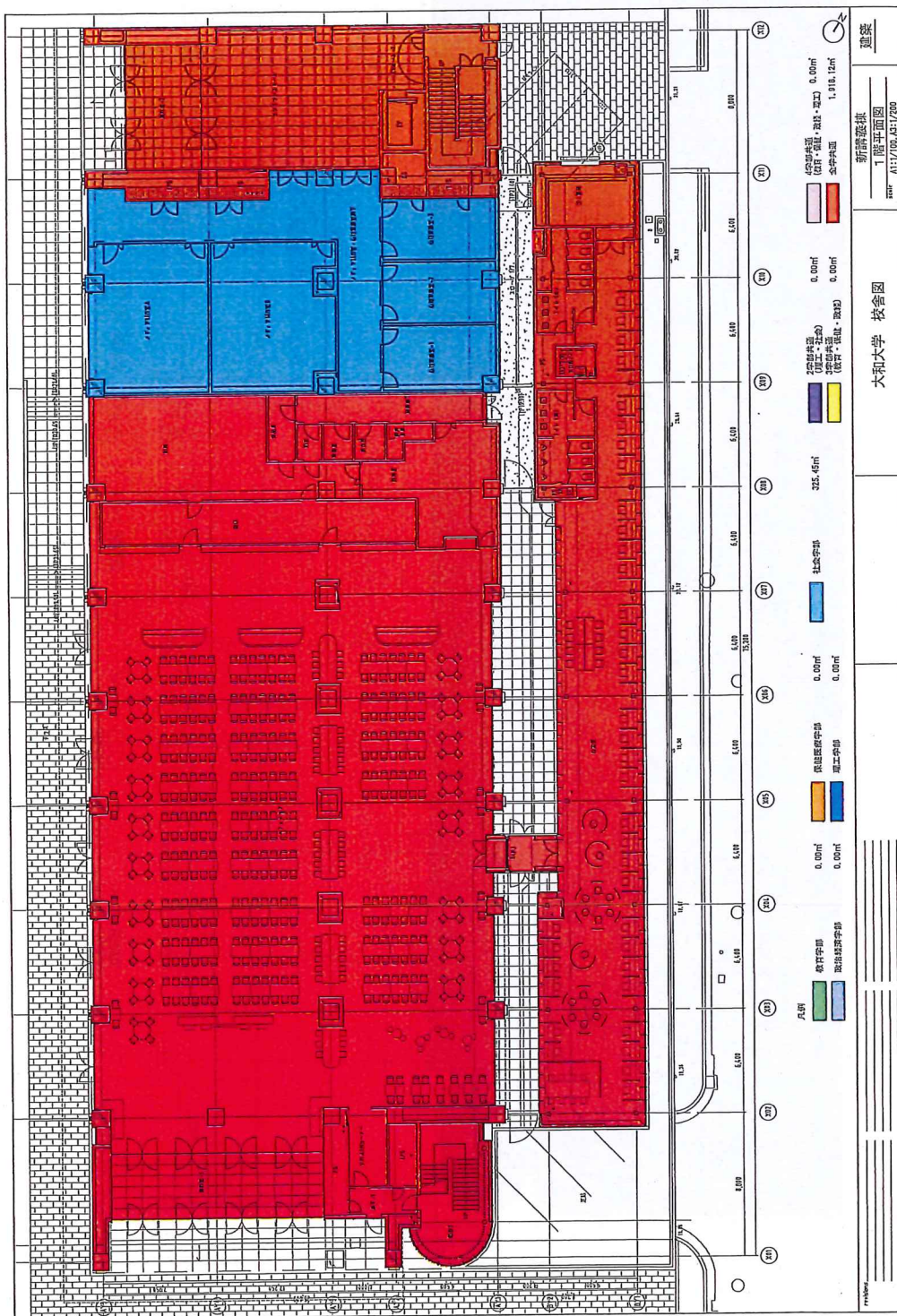
可能)を整備し、「情報処理室」にはPC96 台を配備する。

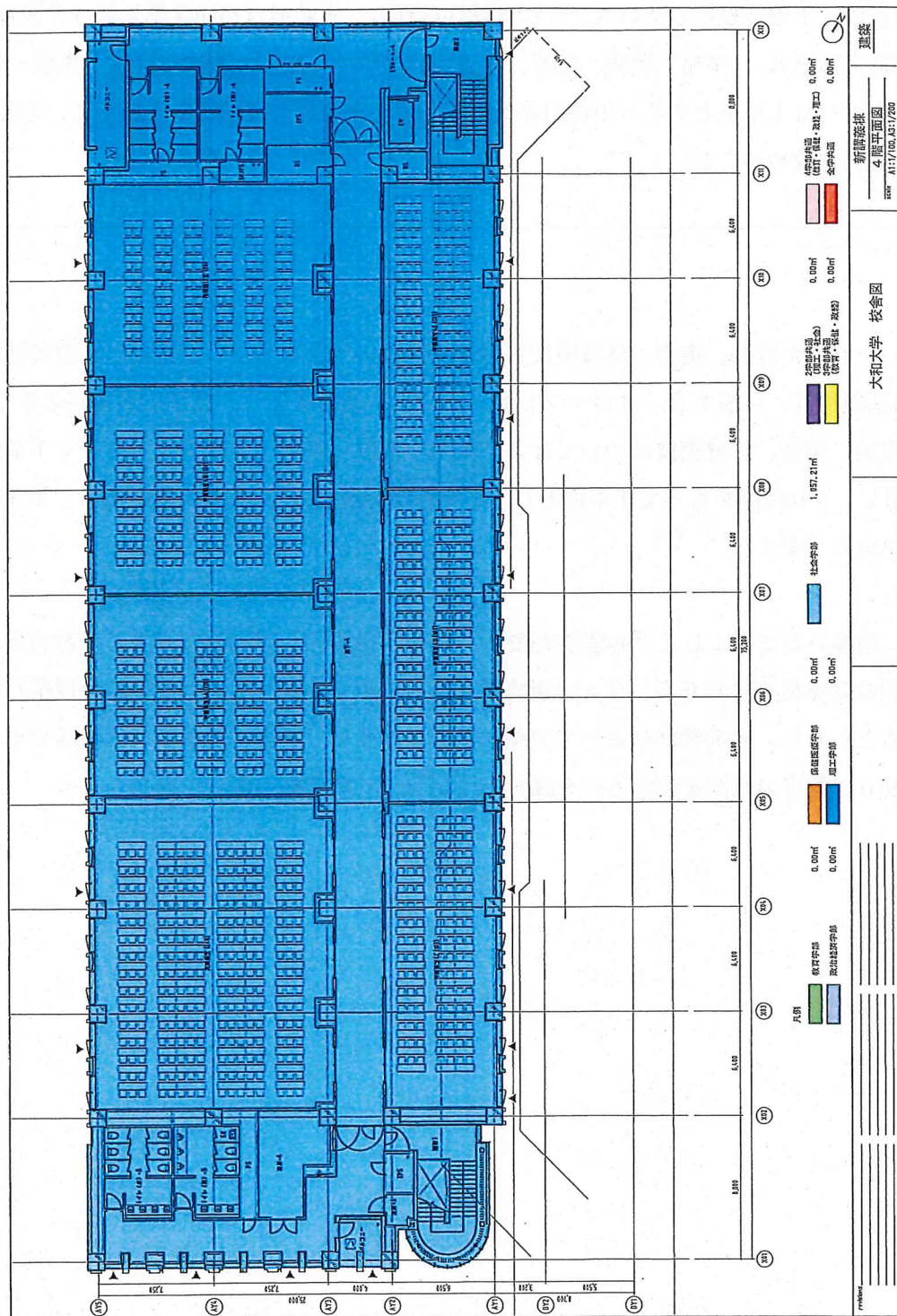












＜実験科目における単位数と授業計画の整合性が不明確＞

5. 学則第27条第3号に「実験、実習、体育実技については、45時間をもって1単位とする」旨記載があるが、例えば「心理学実験Ⅰ」や「心理学実験Ⅱ」について、単位数及び授業計画と不整合が生じているように見受けられる。当該科目が同条第4号の「教育上必要があるときは、(中略) 実験、実習、体育実技については30時間の実験・実習・体育実技をもって1単位とする」の適用を受けるか否かも含めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ご指摘いただいた実験、実習、体育実技科目の単位数につきまして、教育目的、教育効果を鑑み、「共通基礎科目」に配する「スポーツ」は、学則27条第4号の「教育上必要があるときは、(中略) 実験、実習、体育実技については30時間の実験・実習・体育実技をもって1単位とする」を適用し、30時間をもって1単位とし、その他の実験、実習、体育実技科目は、45時間をもって1単位とします。

また、ご指摘いただきました「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」につきましては、教育効果、及び授業展開の効率化を図るため、2コマ連続開設で半期計30コマ（1コマ90分授業）の授業を展開するとともに、事前学修において実験計画書の作成を、事後学修において実験レポートの作成（各90分程度の時間を要する）を課す旨、シラバスに記載します。

新

(科目名) 心理学実験Ⅰ	配当年次: 2・3年次 前期	単位数: 2単位	担当教員名: 黒岩督、安田恭子、廣井いずみ
授業の到達目標及びテーマ 心理実験の実施方法、実験計画の立て方、実験データの整理方法などについて体験的に理解するとともに、数量的なデータを読み取る分析力および統計的検定（差の検定）を身につける。また、実際に得られたデータをもとに心理学の実験レポートの書き方を学び、文章力、論理的な思考力、情報収集能力を養うことを本授業の到達目標とする。			
授業概要・方法等 本授業では、心理学における実験的な研究の技法や心理実験の実施に必要な基礎的知識を学ぶ。また、数量的なデータの整理・分析方法を学び、実験レポートの作成に必要な基礎力を養成することを目的とする。そのため、授業計画に示す5つのテーマについて、受講生が相互に実験者および実験参加者となることで授業内に実験を実施し、実験によって得られたデータを用いて、データの整理、統計分析およびレポートの作成をする。各回とも授業の事前学習として実験計画の作成が指示され、同じく事後学習として「標準的レポート」の執筆以前に、「方法」「結果」の2つについて課題が提示される。その課題については、受講生相互にポイントを押さえた執筆ができているかを確認し合い、不備があればその指摘に基づき、レポート提出までに修正をする。第7回の実験3以降は、受講生を（a）から（c）までの3つのグループに割り当て、鏡映描写、触二点閾、単純接触効果の3つのテーマについて、3週ごとにローテーションさせることで、第7回から第15回にかけて、3種類のテーマの実験の実施とそのレポートに取り組む。なお、この授業は毎回2時限（2コマ）連続で行う。			
授業計画 第1回 ガイダンス（演習の進め方について、求められるレポートについての概説） 実験1-①：印象形成（実験の実施、データの入力、データの整理、実験の解説） 第2回 実験1-②：印象形成（統計分析の実施） 第3回 実験1-③：印象形成（心理実験のレポートの書き方、ポイントの解説） （「方法」、統計分析の「結果」の確認・相互チェック、修正） 第4回 実験2-①：ミュラー・リヤー錯視（実験の実施、データの入力、データの整理） 第5回 実験2-②：ミュラー・リヤー錯視（統計分析の実施、実験の解説） 第6回 実験2-③：ミュラー・リヤー錯視（レポートの書き方についての解説） 「方法」「結果」の確認・相互チェック、修正 第7回 実験3-①：（a）鏡映描写、（b）触二点閾、（c）単純接触効果のうち該当するテーマについて 第8回 実験3-②：（a）鏡映描写、（b）触二点閾、（c）単純接触効果のうち該当するテーマについて 第9回 実験3-③：（a）鏡映描写、（b）触二点閾、（c）単純接触効果のうち該当するテーマについて 第10回 実験4-①：（a）触二点閾、（b）単純接触効果、（c）鏡映描写のうち該当するテーマについて			

- 第11回 実験4-②: (a) 触二点閾, (b) 単純接触効果, (c) 鏡映描写のうち該当するテーマについて
- 第12回 実験4-③: (a) 触二点閾, (b) 単純接触効果, (c) 鏡映描写のうち該当するテーマについて
- 第13回 実験5-①: (a) 単純接触効果, (b) 鏡映描写, (c) 触二点閾のうち該当するテーマについて
- 第14回 実験5-②: (a) 単純接触効果, (b) 鏡映描写, (c) 触二点閾のうち該当するテーマについて
- 第15回 実験5-③: (a) 単純接触効果, (b) 鏡映描写, (c) 触二点閾のうち該当するテーマについて

評価方法

5つの実験に対するレポートの評価(75%)および実験への取り組み・参加態度(25%)により評価する。レポートは5つの「標準的レポート」の評価を平均する。実験への取り組み・参加態度は、積極性・主体性・関心・意欲の観点から評価する。

テキスト

・特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・「心理学研究のためのレポート・論文の書き方マニュアルー執筆のキーポイントと例文」ナカニシヤ出版 2020年 ISBN-13: 978-4779514548 瀬谷安弘・天野成昭(著)
- ・「心理学実験演習 図表作成マニュアル Excel活用のポイント」ナカニシヤ出版 2019年 ISBN978-4-7795-1390-9 安田恭子・林大輔・中村紘子・金谷英俊・天野成昭(著)
- ・「使えるシーンが見えるーゼロからの統計学ー」くろしお出版 2019年 ISBN978-4-87424-471-5 竹田茂生・藤木清(著)
- ・「教材心理学ー心の世界を実験する[新装版]」ナカニシヤ出版 2020年 木下冨雄他(編) ISBN978-4779514760
- ・「認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎」金子書房 2015年 ISBN: 978-4760830312 日本心理学会 認定心理士資格認定委員会(編)
- ・「認知心理学ラボラトリー」弘文堂 2012年 ISBN: 978-4335651533 西本武彦(編)
- ・「基礎心理学実験法ハンドブック」朝倉書店 2018年 ISBN978-4-254-52023-1 日本基礎心理学会(監) 坂上貴之・河原潤一郎・木村英司・三浦佳世・行場次朗・石金浩史(編)

その他、授業時に適宜紹介する。

(科目名) 心理学実験Ⅱ	配当年次： 2・3年次 後期	単位数： 2単位	担当教員名：黒岩督、安田恭子、廣井いずみ
授業の到達目標及びテーマ 自らが実験を計画、準備した心理実験を体験することで、実験の実施方法、実験計画の立て方、実験データの整理・分析方法などの心理実験の基礎的な技法についての理解をさらに深める。また、数量的なデータに対する統計分析のスキルについてもより一層高め、科学論文にふさわしい文章力、論理的な思考力、情報収集能力を高めることが本授業の到達目標である。			
授業概要・方法等 本授業では、心理学実験Ⅰで学習した心理実験に関する基礎的な知識をさらに深めるとともに、実践的な理解を深める。また、数量的なデータの分析に必要な統計的手法のスキル、実験レポートの作成に必要な分析力、論理的思考力をさらに高めることを目的とする。そのため、授業計画に示す実験3から実験5までの3つのテーマについては、受講生を(a)から(c)までの3つのグループに分けて、ストループ効果、社会的促進、パーソナルスペースの3つのテーマのいずれかに割り当て、3週ごとにテーマをローテーションさせるとともに、(a)から(c)までのグループの中でさらに受講生を複数の小グループに分けて、小グループ単位で実験計画者として実験を計画・準備する。また一方で、受講生相互に実験者と実験参加者となることで授業内に実験を実施し、自分たちが計画した実験によって得られたデータを用いて、データの整理、統計分析およびレポートの作成をする。各回とも授業の事前学習として実験計画の作成が指示され、同じく事後学習として「標準的レポート」の執筆以前に、「方法」「結果」の2つについて課題が提示される。なお、この授業は毎回2時限(2コマ)連続で行う。			
授業計画 第1回 ガイダンス(演習の進め方および差の検定(t検定および分散分析)についての確認・復習) 実験1-①：空書(実験の実施、データの整理、実験の解説) 第2回 実験1-②：空書(統計分析、レポートの書き方についての解説) (「方法」、統計分析の「結果」の確認・相互チェック、修正) 第3回 実験2-①：パーソナリティテスト(新性格検査とBig Five：テストの実施①、採点) (第4回の調査内容および行動観察内容の相談・決定) 第4回 実験2-②：パーソナリティテスト(新性格検査とBig Five：テストの実施②、採点) (類型論と特性論の解説) (第5回の調査内容および行動観察内容の相談・決定) 第5回 実験2-③：パーソナリティテスト(新性格検査とBig Five：テストの実施③、採点) (統計分析)(「方法」の書き方についての概説) 第6回 実験2-④：パーソナリティテスト(新しい尺度の考案)(レポートの書き方についての解説) 第7回 実験3-①：(a)ストループ効果、(b)社会的促進、(c)パーソナルスペースのうち該当するテーマについて(実験の実施、データの入力・データの整理、実験の解説) 第8回 実験3-②：(a)ストループ効果、(b)社会的促進、(c)パーソナルスペースのうち該当するテーマについて(小グループごとに実験の計画、刺激の準備、実験の手順書の作成) 第9回 実験3-③：(a)ストループ効果、(b)社会的促進、(c)パーソナルスペースのうち該当するテーマについて(実験の実施、統計分析)			

第10回	実験4-①: (a) 社会的促進, (b) パーソナルスペース, (c) ストループ効果のうち該当するテーマについて (実験の実施, データの入力・データの整理, 実験の解説)
第11回	実験4-②: (a) 社会的促進, (b) パーソナルスペース, (c) ストループ効果のうち該当するテーマについて (小グループごとに実験の計画, 刺激の準備, 実験の手順書の作成)
第12回	実験4-③: (a) 社会的促進, (b) パーソナルスペース, (c) ストループ効果のうち該当するテーマについて (実験の実施, 統計分析)
第13回	実験5-①: (a) パーソナルスペース, (b) ストループ効果, (c) 社会的促進のうち該当するテーマについて (実験の実施, データの入力・データの整理, 実験の解説)
第14回	実験5-② (a) パーソナルスペース, (b) ストループ効果, (c) 社会的促進のうち該当するテーマについて (小グループごとに実験の計画, 刺激の準備, 実験の手順書の作成)
第15回	実験5-③: (a) パーソナルスペース, (b) ストループ効果, (c) 社会的促進のうち該当するテーマについて (実験の実施, 統計分析)
評価方法	
5つの実験に対するレポートの評価 (75%) および実験への取り組み・参加態度 (25%) により評価する。レポートは5つの「標準的レポート」の評価を平均する。実験への取り組み・参加態度は、積極性・主体性・関心・意欲の観点から評価する。	
テキスト	
・特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。	
参考書・参考資料等	
・「心理学研究のためのレポート・論文の書き方マニュアルー執筆のキーポイントと例文」ナカニシヤ出版 2020年 ISBN-13: 978-4779514548 瀬谷安弘・天野成昭 (著) ・「心理学実験演習 図表作成マニュアル Excel活用のポイント」ナカニシヤ出版 2019年 ISBN978-4-7795-1390-9 安田恭子・林大輔・中村紘子・金谷英俊・天野成昭 (著) ・「使えるシーンが見える ーゼロからの統計学ー」くろしお出版 2019年 ISBN978-4-87424-471-5 竹田茂生・藤木清 (著) ・「基礎心理学実験法ハンドブック」朝倉書店 2018年 ISBN978-4-254-52023-1 日本基礎心理学会 (監) 坂上貴之・河原潤一郎・木村英司・三浦佳世・行場次朗・石金浩史 (編) ・「認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎」金子書房 2015年 ISBN: 978-4760830312 日本心理学会 認定心理士資格認定委員会 (編) ・「心理・教育のための統計法<第3版>」サイエンス社 2010年 ISBN978-4-7819-1235-6 山内光哉 (著) ・「質問紙調査と心理測定尺度ー計画から実施・解析までー」サイエンス社 2014年 ISBN978-4-7819-1341-4 宮本聡介・宇井美代子 (著)	
その他, 授業時に適宜紹介する。	

(新旧対照表) 心理学実験Ⅰ・Ⅱ シラバス

旧

(科目名)	配当年次:	単位数:	担当教員名:
心理学実験Ⅰ	2・3年次 前期	2単位	黒岩督、安田恭子ほか
授業の到達目標及びテーマ 心理実験の実施方法、実験計画の立て方、実験データの整理方法などについて体験的に理解し、数量的なデータを読み取る分析力を身につける。また、実際に得られたデータをもとに心理学の実験レポートの書き方を学び、文章力、論理的な思考力、情報収集能力を養うことを本授業の到達目標とする。			
授業概要・方法等 本授業では、心理学における実験的な研究の技法や心理実験の実施に必要な基礎的知識を学ぶ。また、数量的なデータの整理方法を学び、実験レポートの作成に必要な基礎力を養成することを目的とする。そのため、授業計画に示す3つのテーマについて、相互に実験者と実験参加者になることで授業内に実験を実施し、実験によって得られたデータを用いて、データの整理、分析およびレポートの作成をする。なお、本授業を履修するまでに「量的調査」「質的調査」「心理測定法」の授業科目を修得しておくことを強く推奨する。			
授業計画 第1回 ガイダンス（演習の進め方および心理実験とは） 第2回 実験1：ミュラー・リヤー錯視（実験の実施） 第3回 実験1：ミュラー・リヤー錯視（データの整理、結果の読み取り） 第4回 実験1：ミュラー・リヤー錯視（Excelを用いたグラフの作成法） 第5回 実験1：ミュラー・リヤー錯視（実験計画および実験方法についての解説） 第6回 実験1：ミュラー・リヤー錯視（レポートの作成） 第7回 実験2：パーソナル・スペース（実験の実施） 第8回 実験2：パーソナル・スペース（データの整理、結果の読み取り） 第9回 実験2：パーソナル・スペース（実験計画および実験方法についての解説） 第10回 実験2：パーソナル・スペース（レポートの作成） 第11回 実験3：系列位置効果（実験の実施） 第12回 実験3：系列位置効果（データの整理、結果の読み取り） 第13回 実験3：系列位置効果（実験計画および実験方法についての解説） 第14回 実験3：系列位置効果（レポートの作成） 第15回 本授業のまとめ・講評 定期試験は行わない			
評価方法 3つの実験に対するレポートの評価（90%）および実験への取り組み・参加態度（10%）により評価する。レポートは3つの実験すべてについて提出されなければ単位を認めることができない。実験への取り組み・参加態度は、積極性・主体性・関心・意欲の観点から評価する。			
テキスト ・特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

- ・「心理学実験演習 図表作成マニュアル Excel活用のポイント」ナカニシヤ出版 2019年
ISBN978-4-7795-1390-9 安田恭子・林大輔・中村紘子・金谷英俊・天野成昭（著）
- ・「使えるシーンが見える ―ゼロからの統計学―」くろしお出版 2019年
ISBN978-4-87424-471-5 竹田茂生・藤木清（著）
- ・「基礎心理学実験法ハンドブック」朝倉書店 2018年 ISBN978-4-254-52023-1 日本基礎心理
学会（監）坂上貴之・河原潤一郎・木村英司・三浦佳世・行場次朗・石金浩史（編）

その他、授業時に適宜紹介する。

(科目名) 心理学実験Ⅱ	配当年次： 2・3年次 後期	単位数： 2単位	担当教員名：黒岩 督、安田恭子ほか
授業の到達目標及びテーマ 実際に心理実験を体験することで、実験の実施方法、実験計画の立て方、実験データの整理・分析方法などの心理実験の基礎的な技法を理解する。また、実験によって得られた数量的なデータに対して推測統計を用いた分析のスキルを身につける。加えて、心理学の実験レポートの作成を通して、文章力、論理的な思考力、情報収集能力を高めることが本授業の到達目標である。			
授業概要・方法等 本授業では、心理学実験Ⅰで学習した心理実験に関する基礎的な知識をさらに深めるとともに、数量的なデータの分析に必要な統計的手法を学び、実験レポートの作成に必要な分析力、論理的思考力をさらに高めることを目的とする。また、授業計画に示す3つのテーマについて実験を実施し、実験によって得られたデータをもとにレポートの作成をする。なお、本授業を履修するまでに「量的調査」「質的調査」「心理測定法」の授業科目を修得しておくことを強く推奨する。			
授業計画 第1回 ガイダンス（演習の進め方および推測統計とは） 第2回 実験1：印象形成（実験の実施） 第3回 実験1：印象形成（データの統計分析、結果の読み取り） 第4回 実験1：印象形成（実験計画および実験方法について） 第5回 実験1：印象形成（レポートの作成） 第6回 実験2：鏡映描写（実験の実施） 第7回 実験2：鏡映描写 第8回 実験2：鏡映描写（実験計画および実験方法について） 第9回 実験2：鏡映描写（レポートの作成） 第10回 実験3：単純接触効果（実験の実施1） 第11回 実験3：単純接触効果（実験の実施2） 第12回 実験3：ストループ効果（データの統計分析、結果の読み取り） 第13回 実験3：ストループ効果（実験計画および実験方法について） 第14回 実験3：ストループ効果（レポートの作成） 第15回 本授業のまとめ・講評 定期試験は行わない			
評価方法 3つの課題に対するレポートの評価（90%）および実験への取り組み・参加態度（10%）により評価する。レポートは3つの実験すべてについて提出されなければ単位を認めることができない。実験への取り組み・参加態度は、積極性・主体性・関心・意欲の観点から評価する。			
テキスト ・特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

- ・「心理学実験演習 図表作成マニュアル Excel活用のポイント」 ナカニシヤ出版 2019年
ISBN978-4-7795-1390-9 安田恭子・林大輔・中村紘子・金谷英俊・天野成昭（著）
- ・「使えるシーンが見える ―ゼロからの統計学―」 くろしお出版 2019年
ISBN978-4-87424-471-5 竹田茂生・藤木清（著）
- ・「基礎心理学実験法ハンドブック」 朝倉書店 2018年 ISBN978-4-254-52023-1 日本基礎心理学会（監） 坂上貴之・河原潤一郎・木村英司・三浦佳世・行場次朗・石金浩史（編）
- ・「心理・教育のための統計法＜第3版＞」 サイエンス社 2010年 ISBN978-4-7819-1235-6 山内光哉（著）
- ・「質問紙調査と心理測定尺度―計画から実施・解析まで―」 サイエンス社 2014年
ISBN978-4-7819-1341-4 宮本聡介・宇井美代子（著）

その他、授業時に適宜紹介する。

<学生の学修効果や負担等に配慮された教育課程が不明確>

6. 履修モデルを見ると、2年次前期の取得単位数が非常に多いため、学生の学修効果や負担等も踏まえた、体系的な教育課程が編成されているか不明確であることから、明確に説明すること。

(対応)

ご指摘いただきました点について、学生の学修効果や負担等、また、教育課程の体系性、審査意見4、8のご指摘、養成する人材像、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）をふまえ、学びの体系性を念頭に教育課程の修正を図るとともに、「社会学」に関する専門的な学びを展開する基礎となる視野を養成する「視野形成科目」に配する授業科目の配当年次を1・2年次とすることにより、学生の履修機会の拡大を図り、履修モデルを別紙の通り修正します。

※必修科目 → 科目名の頭に○を付した。

[illegible]

※必修科目 → 科目名の頭に○を付した。

91

※必修科目 → 科目名の頭に○を付した。

92

■ 履修モデル 社会科学科 <現代社会学コース>

※ 必修科目 → 赤字

卒業要件単位数	1年次				2年次				3年次				4年次				単位数
	前期		後期	履修科目名	前期		後期	履修科目名	前期		後期	履修科目名	前期		後期	履修科目名	
	履修科目名	単位数	履修科目名		単位数	履修科目名	単位数		履修科目名	単位数	履修科目名		単位数	履修科目名	単位数		
共通基盤科目	視野形成科目	必修10単位 25単位以上															4
																	4
																	4
																	12
外国語科目																	0
																	0
																	28
																	6
体育・健康科目																	2
																	2
																	6
																	2
キャリアデザイン科目																	1
																	8
																	6
																	2
専門教育科目																	12
																	6
																	5
																	5
現代社会学分野																	38
																	4
																	2
																	2
メディア社会学分野																	0
																	4
																	2
																	8
社会心理学分野																	0
																	8
																	2
																	10
人間文化																	0
																	0
																	0
																	0
国際社会学																	8
																	2
																	2
																	10
グローバル化・国際化																	0
																	0
																	0
																	0
卒業研究																	6
																	6
																	4
																	4
合計単位数																	124

■履修モデル 社会学科 <メディア社会学コース>

※ 必修科目 一 赤字

卒業要件単位数		1年次				2年次				3年次				4年次				単位数
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
		履修科目名	単位数	履修科目名	単位数	履修科目名	単位数	履修科目名	単位数	履修科目名	単位数	履修科目名	単位数	履修科目名	単位数	履修科目名	単位数	
共通基盤科目	必修10単位 28単位以上	英語入門	2	数学入門	2	英語Ⅱ	1	英語Ⅲ	1	キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	1	キャリアデザインⅣ	1	4
		経済学入門	2	現代学入門	2	スポーツ	1											4
		コンピュータ入門	2	人間関係論	2													4
			統計学入門	2														14
外国語科目	必修2単位																	2
																		2
																		2
																		28
専門教育科目	必修38単位	基礎科目	必修20単位 38単位以上	キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	1	キャリアデザインⅣ	1	キャリアデザインⅤ	1	キャリアデザインⅥ	1	キャリアデザインⅦ	1	8
			社会学入門Ⅰ	2	社会学入門Ⅱ	2	社会学入門Ⅲ	2	社会学入門Ⅳ	2	社会学入門Ⅴ	2	社会学入門Ⅵ	2	社会学入門Ⅶ	2	社会学入門Ⅷ	12
			現代社会学	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	社会学の発展	8
			社会学とメディア	2	社会学とメディア	2	社会学とメディア	2	社会学とメディア	2	社会学とメディア	2	社会学とメディア	2	社会学とメディア	2	社会学とメディア	5
			社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	5
			社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	2	社会学と心	38
			社会学入門	2	社会学入門	2	社会学入門	2	社会学入門	2	社会学入門	2	社会学入門	2	社会学入門	2	社会学入門	4
																	2	
																	2	
																	6	
																	0	
																	0	
関連科目	10単位以上	社会学と文化	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	社会学の発展	2	8
																	2	
																	0	
																	10	
																	10	
																	0	
																	0	
																	0	
																	0	
																	6	
																	6	
																	12	
卒業研究	必修5単位	基礎科目	必修5単位	キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	1	キャリアデザインⅣ	1	キャリアデザインⅤ	1	キャリアデザインⅥ	1	キャリアデザインⅦ	1	0
																	6	
																	6	
																	4	
合計単位数		22	18	29	44	15	18	34	124	3	3	6	3	3	6	3	124	

※必修科目 ↑赤字

95

<GPA制度の内容が不明確>

7. GPA制度による成績評価を実施する旨説明されているが、各評価における評価点（GP）が明示されていないなど、制度の具体的な内容が不明確であることから、明確に説明すること。

(対応)

ご指摘いただいた「GPA制度」について、各評価における評価点（GP）を明示し、制度の具体的な内容を「設置の趣旨」に追加記載します。

GPA制度による成績評価

○ 成績評価基準

- ・履修した授業科目の成績評価は、原則として試験（筆記試験・論文・レポート等）により行う。
- ・成績評価基準、成績証明書等の成績表記は、下記の通りとする。

判定	評価点	成績原簿表記	成績証明書表記	GP	成績評価内容
合格	100～90点	秀	秀	4	到達目標を十分に達し、非常に優れた成果を修めた。
	89～80点	優	優	3	到達目標を十分に達している。
	79～70点	良	良	2	到達目標を達している。
	69～60点	可	可	1	到達目標を最低限達している。
不合格	59点以下	不可	表示せず	0	到達目標に達していない。

○ GPA制度

- ・本学では、学生の履修行動や学修意欲を高めることを目的にGPA制度を導入している。

○ GPAの算出方法

- ・ (各科目の単位数×GP) の合計／履修登録科目の単位数の合計
- ・ 小数点第二位四捨五入
- ・ 分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む。

○ GPAの通知方法

- ・ 各学期に交付する成績表に記載する。

○ GPAの「総合評価」

- ・ GPAの総合評価について、学生共用ポータルサイトに以下の通り記載する。

GPA	総合評価
3.5～4.0	大変優秀な成績です。
3.2～3.4	優秀な成績です。
1.6～3.1	平均的な成績です。
1.0～1.5	努力を擁する成績です。
0～0.9	より一層努力を要する成績です。

新	旧
(2) 履修指導方法 ① オリエンテーション・履修ガイダンス 履修に関する学生の理解を深めるために、入学時に、学生便覧を配付して、オリエンテーションを実施し、学部目標、養成する人材像、教育課程の編成、単位数の考え方、卒業要件、大学生活等について説明を行うとともに、各学年の学期当初に履修ガイダンスを実施し、適切な履修計画策定に向けて履修指導を行う。 また、本学部では、担任制をとっており（1クラス 50～60 名）、各学年の担任教員が、大学生活、履修の進め方、コース選択、留学、進学等の全般に関する相談、指導にあたり、学部会議、教授会を通じて、学部内での情報共有、連携を図るとともに、必要に応じて、関係部署との連携協力のもと、適切な学生指導を展開する。 また、本学では、学生への円滑な情報伝達、授受を図るため、「学生情報システム」を導入し、大学の内外を問わず、インターネットによりシステムにアクセスし、ポータルサイト上から履修登録、授業時間割、シラバス、単位取得に関する情報を照会することが可能な体制を整備している。 ② シラバス 本学部で開設する全ての授業について、授業の目的と内容、到達目標、各回の授業内容、使用する教科書・参考書、評価方法等を記載したシラバスを作成し、前述のポータルサイトで公開することにより、学生が円滑に履修計画を策定できる体制を整備している。 ③ GPA 制度による成績評価 ○ 成績評価基準 ・履修した授業科目の成績評価は、原則として試験（筆記試験・論文・レポート等）により行う。 ・成績評価基準、成績証明書等の成績表記は、下記の通りとする。 判定 評価点 成績原簿表記 合格 100～90 点 秀 89～80 点 優 79～70 点 良 69～60 点 可 不合格 59 点以下 不可	(2) 履修指導方法 ① オリエンテーション・履修ガイダンス 履修に関する学生の理解を深めるために、入学時に、学生便覧を配付して、オリエンテーションを実施し、学部目標、養成する人材像、教育課程の編成、単位数の考え方、卒業要件、大学生活等について説明を行うとともに、各学年の学期当初に履修ガイダンスを実施し、適切な履修計画策定に向けて履修指導を行う。 また、本学部では、担任制をとっており（1クラス 50～60 名）、各学年の担任教員が、大学生活、履修の進め方、コース選択、留学、進学等の全般に関する相談、指導にあたり、学部会議、教授会を通じて、学部内での情報共有、連携を図るとともに、必要に応じて、関係部署との連携協力のもと、適切な学生指導を展開する。 また、本学では、学生への円滑な情報伝達、授受を図るため、「学生情報システム」を導入し、大学の内外を問わず、インターネットによりシステムにアクセスし、ポータルサイト上から履修登録、授業時間割、シラバス、単位取得に関する情報を照会することが可能な体制を整備している。 ② シラバス 本学部で開設する全ての授業について、授業の目的と内容、到達目標、各回の授業内容、使用する教科書・参考書、評価方法等を記載したシラバスを作成し、前述のポータルサイトで公開することにより、学生が円滑に履修計画を策定できる体制を整備している。 ③ GPA 制度による厳格な成績評価 学生の学ぶ意欲を高め、適切な学修指導を図るため、GPA (Grade Point Average) 制度を導入する。成績評価は、秀、優、良及び可は合格とし、不可は不合格とする。 秀 (P) 100 点から 90 点まで 優 (A) 89 点から 80 点まで 良 (B) 79 点から 70 点まで 可 (C) 69 点から 60 点まで 不可 (D) 59 点以下

○ GPA制度 ・本学では、学生の履修行動や学修意欲を高めることを目的にGPA制度を導入している。 ○ GPAの算出方法 ・(各科目の単位数×GP)の合計／履修登録科目の単位数の合計 ・小数点第二位四捨五入 ・分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む。 ○ GPAの通知方法 ・各学期に交付する成績表に記載する。 ○ GPAの「総合評価」 ・GPAの総合評価について、学生共用ポータルサイトに以下の通り記載する。 GPA 総合評価 3.5～4.0 大変優秀な成績です。 3.2～3.4 優秀な成績です。 1.6～3.1 平均的な成績です。 1.0～1.5 努力を擁する成績です。 0～0.9 より一層努力を要する成績です。	
---	--

＜教員組織の適正性が不明確＞

8. 教育課程に対応した適切な教員組織が編制されているか疑義があるため、審査意見1及び2、4の対応も踏まえ、明確に説明すること。

(対応)

ご指摘いただきました教員組織の適正性について、審査意見1及び2、4の対応による教育課程変更をふまえ、教員を追加配置するとともに、教員組織の編制体制について検証のうえ、教育課程に対応した教員組織の編成について以下の通り説明します。

1. 審査意見1及び2、4の対応に伴う教員の追加配置について

審査意見1及び2、4の対応に関連し、専任教員3名、兼任教員2名を以下の通り追加配置します。

＜現代社会学分野＞

- 兼任教員1名 (担当科目) 「ジェンダー論」
- 兼任教員1名 (担当科目) 「観光学概論」

＜メディア社会学分野＞

- 専任教員(教授)／文学士 1名
映像情報メディア学会に所属し、放送局勤務の経歴、及び放送、報道、映像に関する研究業績を有する。
(担当科目) 「放送メディア論」「メディア制作演習」「映像コミュニケーション論」等

＜社会心理学分野＞

- 専任教員(教授)／博士(心理学) 1名
日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び集団と個人、動機づけの心理、経済心理に関する研究業績を有する。
(担当科目) 「社会心理学概論」「社会と集団」「意思決定の心理学」「動機づけの心理」

「経済心理学」等

○ 専任教員（准教授）／修士（教育学）1名

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び集団と個人、対人関係論に関する研究業績を有する。

（担当科目） 「社会心理学概論」「社会と集団」「社会と個人」「対人関係論」等

2. 教育課程に対応した教員組織の編成について

本社会学部社会学科の専任教員組織は、教授16名、准教授6名の計22名で編成する（うち1名は令和5年度で定年退職）。

また、養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、及びカリキュラム・ポリシーに照らし、「共通基礎科目」、及び「専門教育科目」の「基盤科目」「現代社会学分野」「メディア社会学分野」「社会心理学分野」の各区分の授業担当者に、以下の専任教員を配置する。

※ 重複記載者は再掲と表記。

■ 共通基礎科目 （専任教員12名配置）

「共通基礎科目」の科目を担当する専任教員には、「社会学」に関する専門的な学びを展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力、アカデミックスキル、キャリア意識を養成する目的に照らし、「共通基礎科目」に配する授業科目に関する研究業績を有する専任教員、英語教育を専門とする専任教員、キャリア教育を専門とする専任教員等、計12名を配置する。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／文学士

日本キャリア教育学会に所属し、キャリア教育に関する研究業績、及びキャリア教育経験を有する。

「ことばと文学」「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（准教授）／経済学士

日本キャリア教育学会に所属し、キャリア教育に関する研究業績、及びキャリア教育・指導経験を有する。

「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（准教授）／修士（教育学）

全国英語教育学会に所属し、英語教育に関する研究業績、及び英語教育経験、キャリア教育指導経験を有する。

「英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「英語演習Ⅰ・Ⅱ」「キャリアデザインⅠ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（准教授）／教職修士（専門職）

日本教育方法学会に所属し、教育実践に関する研究業績、及び教員経験を有する。

「キャリアデザインⅡ・Ⅲ・Ⅳ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／博士（国際協力学）

日本環境学会に所属し、新聞社勤務の経歴、及び主に環境社会学に関する研究業績を有する。

「キャリアデザインⅠ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／博士（文学）

日本社会学会に所属し、大学における学生指導、教育歴、及び社会問題、社会文化に関する研究業績を有する。

「キャリアデザインⅠ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（准教授）／博士（環境人間学）

日本NPO学会に所属し、大学における地域公共人材・政策開発リサーチセンターでの経歴、及び主に都市空間に関する研究業績を有する。

「キャリアデザインⅠ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／修士（経済学）

日本危機管理学会に所属し、新聞社勤務の経歴、及び新聞、活字、経済学に関する研究業績を有する。

「キャリアデザインⅢ・Ⅳ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／文学士

映像情報メディア学会に所属し、放送局勤務の経歴、及び放送、報道、映像に関する研究業績を有する。

「キャリアデザインⅠ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／博士（心理学）

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び集団と個人、動機づけの心理、経済心理に関する研究業績を有する。

「心理学入門」「統計学入門」「キャリアデザインⅠ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（准教授）／修士（教育学）

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び集団と個人、対人関係論に関する研究業績を有する。

「心理学入門」「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（准教授）／修士（学術）

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び生理心理学、心理学実験、社会文化論に関する研究業績を有する。

「キャリアデザインⅡ・Ⅲ・Ⅳ」を担当。

■ 専門教育科目 基盤科目 （専任教員14名配置）

「専門教育科目」の「基盤科目」を担当する専任教員には、「社会学」に関する基礎的な知識、及び現代社会学、メディア社会学、社会心理学の専門の学び、及び「社会学」を学ぼうえで基盤となる知識、視野の導入、調査・分析の知識方法や技術、「社会学」を学ぼうえで基盤となる知識を養成する目的に照らし、各コースの専門分野科目を主に担当する専任教員、基盤科目に配する科目分野を専門とする専任教員等、計14名を配置する。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／博士（文学）

<再掲>

日本社会学会に所属し、大学における学生指導、教育歴、及び社会問題、社会文化に関する研究業績を有する。

「現代と社会」「社会調査入門」「社会調査方法論」「社会調査実習」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／博士（文学）

日本社会学会に所属し、大学における学生指導、教育歴、及び社会文化論等に関する研究業績を有する。

「社会学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代と社会」「社会と歴史」「社会調査入門」「社会調査方法論」「質的調査法」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／修士（社会学）

日本社会学会に所属し、大学における教育歴、及び主に国際社会学、外国史に関する研究業績を有する。

「外国史概論」「外国史」を担当。

- 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／博士（国際協力学） <再掲>

日本環境学会に所属し、新聞社勤務の経歴、及び主に環境社会学に関する研究業績を有する。

「社会と環境」「社会調査入門」「社会調査方法論」「社会調査実習」を担当。

- 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／博士（文学）

日本地理学会に所属し、地理学に関する教育歴、及び産業社会学、地理学に関する研究業績を有する。

「人文地理学概論」「自然地理学概論」「地誌学概論」「人文地理学」「自然地理学」「地誌学」を担当。

- 共通基礎科目・基盤科目担当（准教授）／博士（環境人間学） <再掲>

日本 NPO 学会に所属し、大学における地域公共人材・政策開発リサーチセンターでの経歴、及び主に都市空間に関する研究業績を有する。

「現代と社会」「社会統計学」「質的調査法」を担当。

- 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／修士（コミュニケーション学）

日本社会学会、日本マス・コミュニケーション学会に所属し、大学での教育歴、及びマルチメディア論、コミュニケーション論に関する研究業績を有する。

「社会学入門Ⅰ」を担当。

- 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／修士（経済学） <再掲>

日本危機管理学会に所属し、新聞社勤務の経歴、新聞、活字、経済学に関する研究業績を有する。

「社会調査実習」「経済学概論」「経済学原論」を担当。

- 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／学士（言語・地域文化）

情報コミュニケーション学会に所属し、新聞社勤務の経歴、及びマスコミュニケーション、ジャーナリズム、報道に関する研究業績を有する。

「社会学入門Ⅱ」「社会とメディア」「社会調査入門」を担当。

- 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／文学士 <再掲>

映像情報メディア学会に所属し、放送局勤務の経験、放送、報道、映像に関する研究業績を有する。

「社会とメディア」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／博士（心理学） <再掲>

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び集団と個人、動機づけの心理、経済心理に関する研究業績を有する。

「社会と心理」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／文学修士

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び認知心理学、動機づけの心理学に関する研究業績を有する。

「データ分析」「量的調査法」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（准教授）／修士（教育学） <再掲>

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び集団と個人、対人関係論に関する研究業績を有する。

「社会と心理」を担当。

○ 共通基礎科目・基盤科目担当（教授）／修士（学校教育学）

関西教育学会、日本史資料研究会に所属し、大学における教育歴、及び日本思想史、日本史に関する研究業績を有する。

「社会と文化」「日本史概論」「日本史」を担当。

■ 専門科目 「現代社会学分野」（専任教員7名配置）

「専門科目」の「現代社会学分野」科目の専任教員には、主たる授業科目の地域社会、家族社会、産業社会、環境社会、教育社会、国際社会、社会問題、社会文化等に関する研究業績を有する専任教員、計7名を配置する。

○ 現代社会学コース専門科目主担当（教授）／博士（文学） <再掲>

日本社会学会に所属し、大学における学生指導、教育歴、及び社会問題、社会文化に関する研究業績を有する。 ※ 令和5年をもって定年退職

「現代社会学概論」「社会問題論」「社会文化論」「大衆文化論」を担当。

○ 現代社会学コース専門科目主担当（教授）／博士（文学） <再掲>

日本社会学会に所属し、大学における学生指導、教育歴、及び社会文化論等に関する研究業績を有する。

「現代社会学概論」「社会文化論」を担当。

○ 現代社会学コース専門科目主担当（教授）／博士（国際協力学） <再掲>

日本環境学会に所属し、新聞社勤務の経歴、及び主に環境社会学に関する研究業績を有する。

「環境社会学」「国際社会学」「社会問題論」を担当。

○ 現代社会学コース専門科目主担当（教授）／文学修士

日本教育社会学会に所属し、大学における教育歴、及び家族社会学、教育社会学に関する研究業績を有する。

「家族社会学」「教育社会学」を担当。

○ 現代社会学コース専門科目主担当（教授）／博士（文学） <再掲>

日本地理学会に所属し、地理学に関する教育歴、及び産業社会学、地理学に関する研究業績を有する。

「産業社会学」を担当。

○ 現代社会学コース専門科目主担当（教授）／修士（社会学） <再掲>

日本社会学会に所属し、大学における教育歴、及び主に国際社会学、外国史に関する研究業績を有する。

「国際社会学」を担当。

○ 現代社会学コース専門科目主担当（准教授）／博士（環境人間学） <再掲>

日本 NPO 学会に所属し、大学における地域公共人材・政策開発リサーチセンターでの経歴、及び主に都市空間に関する研究業績を有する。

「現代社会学概論」「地域社会学」を担当。

■ 専門科目 「メディア社会学分野」（専任教員 5 名配置）

「専門科目」の「メディア社会学分野」科目の専任教員には、主たる授業科目のメディア環境論、メディア文化論、マス・コミュニケーション論、ジャーナリズム論、活字メディア論、広告論、マルチメディア論、放送メディア論等に関する研究業績を有する専任教員、計 5 名配置する。

- メディア社会学コース専門科目担当（教授）／修士（コミュニケーション学）＜再掲＞
日本社会学会、日本マス・コミュニケーション学会に所属し、大学での教育歴、及びマルチメディア論、コミュニケーション論に関する研究業績を有する。
「メディア社会学概論」「インターネットコミュニケーション論」「マルチメディア論」「メディア環境論」を担当。

- メディア社会学コース専門科目担当（教授）／修士（経済学）＜再掲＞
日本危機管理学会に所属し、新聞社勤務の経歴、及び新聞、活字、経済学に関する研究業績を有する。
「活字メディア論」「新聞論」「ネット報道論」を担当。

- メディア社会学コース専門科目担当（教授）／学士（言語・地域文化）＜再掲＞
情報コミュニケーション学会に所属し、新聞社勤務の経歴、及びマスコミュニケーション、ジャーナリズム、報道に関する研究業績を有する。
「メディア社会学概論」「マス・コミュニケーション論」「ジャーナリズム論」を担当。

- メディア社会学コース専門科目担当（教授）／法学士
日本広告学会に所属し、新聞社勤務の経歴、及び広告論、メディア文化論に関する研究業績を有する。
「メディアの法と倫理」「メディア文化論」を担当。

- メディア社会学コース専門科目担当（教授）／文学士＜再掲＞
映像情報メディア学会に所属し、放送局勤務の経験、放送、報道、映像に関する研究業績を有する。
「映像コミュニケーション論」「放送メディア論」「メディア制作演習」を担当。

■ 専門科目 「社会心理学分野」（専任教員5名配置）

「専門科目」の「社会心理学分野」科目の専任教員には、主たる授業科目の「個人」「対人」「集団」「社会文化」分野に関する研究業績を有する専任教員、計5名を配置する。

- 社会心理学コース専門科目担当（教授）／博士（心理学）＜再掲＞

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び集団と個人、動機づけの心理、経済心理に関する研究業績を有する。

「社会心理学概論」「動機づけの心理」「意思決定の心理学」「社会と集団」「経済心理学」を担当。

○ 社会心理学コース専門科目担当（教授）／修士（教育学）

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び対人関係論、認知心理学、知覚心理学に関する研究業績を有する。

「認知心理学」「知覚心理学」「対人関係論」「行動科学」を担当。

○ 社会心理学コース専門科目担当（教授）／文学修士

<再掲>

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び認知心理学、動機づけの心理学に関する研究業績を有する。

「認知心理学」「動機づけの心理」を担当。

○ 社会心理学コース専門科目担当（准教授）／修士（教育学）

<再掲>

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び集団と個人、対人関係論に関する研究業績を有する。

「社会心理学概論」「社会と個人」「社会と集団」「対人関係論」を担当。

○ 社会心理学コース専門科目担当（准教授）／修士（学術）

<再掲>

日本心理学会に所属し、大学における教育歴、及び生理心理学、社会文化論に関する研究業績を有する。

「社会文化論」「人間と音楽」「生理心理学」を担当。

(新旧対照表) 教員名簿

新

補正後

別記様式第3号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(社会学部社会学科)												
四 番 号	専 任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基 本 給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 講 義 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事す る週当たり平均日 数
1	専	教授 (学部長)	ニシダ ショウタ 西田 宗作 ＜令和3年4月＞		文学士		ことばと文学 キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 中等教育実習事前事後指導 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高)	1・2前 1選 2選 3選 4選 4前 4後 4後	4 2 2 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1	大和大学教育 学部長 (平成30年4 月)	5日
2	専	教授	ウイ キョウミツ 油井 清光 ＜令和3年4月＞		博士(文 学)		キャリアデザインⅠ 現代と社会 社会調査入門 社会調査方法論 社会調査実習 現代社会学概論 社会問題論 社会文化論 大衆文化論 グローバルイノベーション論 基礎演習 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	1選 1前 1前 1前 2選 2前 2・3後 2・3後 2・3後 1・2・3後 1選 2選 3選	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	神戸大学客員 教授 (平成31年4 月)	5日
①	専	教授	カワノ マサ 黒岩 将 ＜令和3年4月＞		文学修士		データ分析 量的調査法 認知心理学 睡眠・つめの心理学 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 卒業研究 教育心理学	1前 1後 2・3前 2・3前 2・3前 2・3後 4選	8 2 2 1 2 2 4	4 2 2 1 1 1 1	兵庫教育大学 大学院教授 (平成24年4 月)	4日
②	専	教授	ハリス マサキ 長須 正明 ＜令和4年4月＞		文学修士 ※		家族社会学 教育社会学 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 卒業研究 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 生涯・進路指導 教育実践 教職実践演習(中・高)	2・3後 2・3後 2選 3選 4選 3前 4前 4後 4後	4 4 2 2 4 4 4 2	2 2 1 1 1 2 2 2	名古屋国立大 学大学院教授 (平成31年4 月)	5日
③	専	教授	ワタナベ シンヂ 渡辺 信三 ＜令和3年4月＞		博士(文 学)		基礎演習 社会学入門Ⅰ※ 現代と社会 社会調査入門 社会調査方法論 社会学入門Ⅱ※ 質的調査法 都市と空間※ 社会文化論 現代社会学概論 卒業研究	1選 1前 1前 1前 1前 1後 1後 1・2・3後 2・3後 2前 1後	2 1 2 2 2 1 1 1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 2 2 2	上智大学総合 グローバル学 部教授 (平成26年4 月)	3日
④	専	教授	カサハラ ナオ 加藤 直也 ＜令和3年4月＞		文学士		キャリアデザインⅠ 社会とメディア 映像コミュニケーション論 放送メディア論 メディア制作演習 基礎演習 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 卒業研究	1選 1前 2・3前 2・3後 2・3後 1選 2選 3選 4選	2 2 3 2 2 2 2 4	1 1 2 2 2 1 1 1	東京大学経営 企画部国際戦 略課特任職員 (令和元年5 月)	5日
⑤	専	教授	トカノ マサユキ 得能 弘一 ＜令和3年4月＞		修士(学 校教育 学)		日本人論 伝統と文化 日本史概論 日本思想史 日本文化 卒業研究 中等教育実習事前事後指導 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高) 福祉経済学 社会と文化	1・2後 1・2前 2前 2・3前 2・3後 4選 4前 4前 4後 4後 4後 4選	4 4 4 4 4 4 1 2 2 2 2 3	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1	神戸大学非常 勤講師 (平成30年3 月)	5日
⑥	専	教授	リ イ 李 龍 ＜令和3年4月＞		博士(心 理学)		キャリアデザインⅠ 心理学入門 統計学入門 社会と心理 社会心理学概論 睡眠・つめの心理学 意思決定の心理学 社会と集団 経済心理学 基礎演習 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 卒業研究	1選 1後 1後 1後 1前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 1選 2選 3選 4選	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	豊原大学人間 学部教授(平 成19年4月)	4日
7	専	教授	イシハシ ナツヲ 岩本 一穂 ＜令和3年4月＞		修士(コ ミュニ ケーション 学)※		人間関係論 社会学入門Ⅰ※ メディア社会学概論 インターネットコミュニケーション論 マルチメディア論 メディア実践論 コミュニケーション論 専門演習Ⅱ 卒業研究	1・2後 1前 1前 2・3後 2・3後 2・3後 2・3前 3選 4選	4 1 2 4 4 4 4 2 4	2 1 1 2 2 2 2 2 1	大和大学政治 経済学部教授 (平成30年4 月)	5日
8	専	教授	カワノ ナツ 木原 勝也 ＜令和3年4月＞		法学士		社会とメディア 広告論 メディアの法と倫理 メディア文化論 伝える文化 広告史 PR論 基礎演習 卒業研究	1前 2・3後 2・3後 2・3前 1・2・3前 1・2・3前 1選 1選 4選	2 4 4 4 2 2 2 2 4	1 2 2 2 1 1 1 1 1	神戸大学特命 顧問員 (平成31年4 月)	4日

職 号	専任等 区分	職 位	氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	記 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の原簿に従事 する 通 当 た り 平 均 日 数
9	専	教授	ヒロシ 村井 廣瀬 直哉 <令和4年4月>		修士(教 育学)※		認知心理学 知覚心理学 対人関係論 行動科学 人間と暮らし 人間と文化 心理測定法 卒後研究	2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 2・3後 2・3前 2・3前 4通	2 2 4 2 2 2 2 4	1 1 2 2 1 2 1 1	京都ノートル ダム女子大学 現代人間学部 教授 (平成29年4 月)	3日
10	専	教授	トシタ ヒロシ 徳安 雅明 <令和4年4月>		博士(文 学)		人文地理学概論 自然地理学概論 地誌学概論 経済社会学 日本の地域文化 人文地理学 自然地理学 地誌学 卒後研究	2前 2前 2前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 2・3後 4通	4 4 2 2 2 4 4 4	2 2 2 1 1 2 2 2	グリアートル 学園高等学校 高等学級教授 (平成4年4 月)	5日
11	専	教授	ササキ マサキ 佐々木 正明 <令和3年4月>		学士(産 品・地域 文化)		社会学入門Ⅱ※ 社会とメディア 社会学入門 メディア社会学概論 マス・コミュニケーション論 ジャーナリズム論 報道の現場 国際報道論 スポーツ報道論 オリンピック論 基礎演習 卒後研究	1後 1前 1前 2前 2・3前 2・3前 1・2・3後 1・2・3後 1・2・3後 1・2・3後 1通 1通 4通	1.1 2 2 2 4 4 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1	基経新聞社社 会部次長 (令和元年8 月)	6日
13	専	教授	マツモト 林 松林 薫 <令和4年4月>		修士(経 済学)		キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 社会学概論 経済学概論 経営学概論 活字メディア論 新聞論 ネット報道論 卒後研究	3通 4通 2通 2前 2後 2・3後 2・3後 2・3前 4通	2 2 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 2 2 2 2 2 2 1	朝日イノベー ション研究所 (平成31年11 月)	5日
①	専	教授	アノ ノボ 天野 健作 <令和3年4月>		博士(国 語協力 学)		キャリアデザインⅠ 社会学入門 社会学方法論 社会学史概論 国語社会学 国語社会学 社会学概論 演習Ⅰ 演習Ⅱ 卒後研究	1通 1前 1前 2通 2・3前 2・3前 2・3後 1・2・3前 1・2・3前 2通 2通 4通	2 2 2 2 4 4 2 2 2 2 4	1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1	産経新聞社記 者 (平成11年4 月)	5日
15	専	教授	カサハタ 久子 加藤 久子 <令和4年4月>		修士(社 会学)※		外国史概論 国際社会学 外国史 宗教と社会 地域研究 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 卒後研究	2前 2・3後 2・3前 2・3前 2・3前 2通 3通 4通	4 4 2 2 2 2 2 4	2 2 2 1 2 1 1 1	北海道大学文化 社会学部非常 勤講師 (平成28年4 月)	5日
16	専	准教授	カサハタ 尚 梅本 尚 <令和3年4月>		経済学士		キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 中等教育実習事前事後指導 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高)	1通 2通 3通 4通 4前 4後 4後 4後	2 2 2 2 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	大和大学教育 学部准教授 (平成31年4 月)	5日
17	専	准教授	フナハシ マサキ 福崎 雅直 <令和3年4月>		修士(教 育学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 英語演習Ⅰ 英語演習Ⅱ キャリアデザインⅠ	1前 1後 2前 2後 3前 3後 1通	3 3 3 3 3 3 2	3 3 3 3 3 3 1	西大和学園中 学校・高等学 校教授 (平成26年4 月)	5日
②	専	准教授	カサハタ 広示 岡田 広示 <令和4年4月>		教職修士 (専門 職)		キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 社会と子ども 卒業研究 教育基礎論 教師論 卒後研究 中等教育実習Ⅰ 教職実践演習(中・高)	2通 3通 4通 2・3前 4通 2前 2前 2前 4後 4後 4後	2 2 2 4 4 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1	上越教育大学 大学院准教授 (平成31年4 月)	5日
③	専	准教授	フナハシ 美紀 福田(赤間) 美紀 <令和3年4月>		修士(教 育学)※		キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ 心理学入門 社会心理学概論 社会と個人 社会と集団 対人関係論 基礎演習Ⅰ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 卒後研究	1通 2通 1後 1前 2前 2・3後 2・3後 2・3後 1通 2通 3通 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	同志社大学心 理学部准教授 (平成27年4 月)	3日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	記 号 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
9	専	准教授	安田 恭子 <令和4年4月>	1	修士(学 術)※		キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 社会文化論 人間と音楽 生涯心理学 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 専門演習Ⅰ 卒業研究	2通 3通 4通 2・3後 2・3後 2・3前 2・3前 2・3後 2通 4通	2 2 2 2 2 4 2 2 2 4	1 1 1 1 1 2 1 1 1 1	名古屋大学情 報学部非常勤 講師 (平成31年4 月)	5日
19	専	准教授	ヤナセ アキラ (ヤナセ アキラ) 立花 晃 (JANSEN AKIRA) <令和3年4月>		博士(国 際人間 学)		キャリアデザインⅠ 現代と社会 社会統計学 質的調査法 現代社会学概論 地域社会学 人間と暮らし コミュニケーション心理 都市と空間 まちと美術館 基礎演習 卒業研究 博物館実習	1通 1前 1後 1後 2前 2・3前 2・3後 2・3前 1・2・3後 1・2・3後 1通 4通 4通	2 2 4 1 2 4 4 4 1.1 2 2 4 3	1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1 1	仙台大学研究 員 (平成28年4 月)	5日
20	兼担	講師	シオタ マチ子 西岡 和晃 <令和3年9月>		博士(法 学)		法律学入門	1・2後	4	2	大和大学政治 経済学部講師 (令和2年4 月)	
21	兼担	講師	シゲタ ジュンコ 宮北 純宏 <令和3年4月>		教育学修 士		教育学入門	1・2前	4	2	大和大学教育 学部講師 (令和2年4 月)	
22	兼担	准教授	ノダ ヒロシ 田中 秀幸 <令和3年9月>		学士(農 学)		物理学入門	1・2後	4	2	大和大学キャ リアセンター 准教授 (令和2年4 月)	
23	兼担	教授	コシノ ケイコ 浦上 啓次朗 <令和3年4月>		教育学修 士		化学入門	1・2前	4	2	大和大学保健 福祉学部教授 (平成28年4 月)	
24	兼担	准教授	コシノ マチ子 西浦 将芳 <令和3年4月>		体育学士		スポーツ	1通	6	3	大和大学理工 学部准教授 (令和2年4 月)	
25	兼担	准教授	オオタ マチ子 大村 和正 <令和4年4月>		博士(学 術)		政治学概論 社会学概論 政治学	3前 2・3前 2・3前	4 4 4	2 2 2	大和大学政治 経済学部准教 授 (令和元年10 月)	
26	兼担	教授	ケンマ トモキ 岡嶋 智行 <令和6年4月>		文学士		道徳理論と指導法	4前	4	2	大和大学教育 学部教授 (平成30年4 月)	
27	兼担	准教授	ノダ シノブ 登越 善法 <令和4年9月>		修士(教 育学)		教育制度論 教育実践論 教育の方法技術※	3前 2後 3後	4 4 2.1	2 2 2	大和大学教育 学部准教授 (平成30年4 月)	
28	兼担	教授	ワタ マチ子 松本 素久 <令和5年9月>		修士(教 育学)		教育の方法技術※	3後	1.9	2	大和大学教育 学部教授 (平成26年4 月)	
29	兼任	講師	トモキ 戸谷 祥志 <令和3年4月>		博士(文 学)		哲学入門 倫理学入門	1・2後 1・2前	4 4	2 2	大阪大学国際 公共大学院学 位プログラム 推進部長兼任 助教 (平成31年4 月)	
30	兼任	講師	ムサシ 武蔵 勝宏 <令和3年4月>		博士(国 際公共教 育)		日本国憲法	1・2前	4	2	同志社大学教 育学部教授 (平成22年4 月)	
31	兼任	講師	ワタ マチ子 若杉 祥太 <令和3年4月>		修士(教 育学)		コンピュータ入門 統計学入門	1・2前 1後	4 2	2 1	戸塚大学経営 教育学部専任 講師 (平成26年4 月)	
32	兼任	講師	ワタ マチ子 岩田 一男 <令和3年4月>		修士(部 門ビジネ ス)		コンピュータ入門 統計学入門	1・2前 1後	4 2	2 1	関西学院大学 経済教育セン ター教授 (平成31年4 月)	
33	兼任	講師	ヒラ イミ 廣井 いずみ <令和3年9月>		博士(学 術)		心理学入門 認知心理学 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ	1後 2・3後 2・3前 2・3後	4 4 2 2	2 2 1 1	奈良大学社会 学部教授 (平成27年4 月)	
34	兼任	講師	ミヤマ トモ 米山 知子 <令和3年9月>		博士(文 学)		文化人類学	1・2・3後	2	1	立命館大学証 書社会学部非 常勤講師 (平成30年9 月)	

氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	担当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 平均日 数
カズチ ナツ 谷口 卓 <令和6年4月>		社会福祉 学修士		特別支援教育	4前	2	2	東亜大学人間 科学部准教授 (平成29年4 月)	
フミナ ナコ 藤掛 久美子 <令和3年4月>		修士(国 書学・情 報学)		生涯学習概論 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 図書館概論 図書館情報技術概論 図書館制度・経営論 情報サービス論 児童サービス論 情報サービス概論 図書館情報資源概論	1・2・3前 3後 3後 3前 3前 3前 3後 3後 3後 3前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪成徳学園 専任職員大学 図書館司書 長 (平成27年4 月)	
ナツミ シノブ 竹田 芳則 <令和5年9月>		文学士		学校経営と学校図書館 学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館 図書館サービス概論 情報資源概論 情報資源組織概論 図書館・図書館史 図書館施設論	4前 4前 4前 3後 3後 3後 1 4後	2 2 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	堺市職員中央 図書館司書 (昭和58年4 月)	
マサヲ ナツ 前川 志織 <令和5年4月>		修士(書 画学)		博物館経営論 博物館資料論 博物館展示論 博物館教育論 博物館情報・メディア論	3前 3後 4前 4前 4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	同志社女子大 学文学部附属 図書館 (平成30年4 月)	
マサト ナツ 増本 真士 <令和4年4月>		修士(情 報学)		映像コミュニケーション論 メディア制作概論	2・3前 2・3後	4 4	2 2	奈良県立大学 COC/COC推進 センター准教授 (平成28年4 月)	
ナツタ シノブ 秋岡 祥介 <令和4年4月>		学校教育 学修士		中等教科教育法(社会)Ⅰ 中等教科教育法(社会)Ⅱ 中等教科教育法(地理) 中等教科教育法(公民)	2前 2前 2後 2後	4 4 4 4	2 2 2 2	大阪府立大鶴 中学校再任用 教諭 (平成31年4 月)	
ナカゴシ シノブ 塚腰 実 <令和5年4月>		理学修士		博物館概論 博物館資料保存論 博物館実習	3前 3後 4選	2 2 3	1 1 1	大阪府立自然 史博物館外来 研究員 (平成31年4 月)	
ナツキ ナコ 尾崎 智子 <令和4年4月>		修士(文 学)		大食文化論 サブカルチャー論	2・3後 2・3後	2 4	1 2	関西福祉大学 非常勤講師 (平成30年4 月)	
イサ ナミ 岩田 千奈美 <令和4年4月>		博士(国 語文化学)		ジェンダー論	2・3後	2	1	大阪府立大学 女性研究支援 推進特任助教 (平成29年10 月)	
カズチ トシ 谷口 知司 <令和4年4月>		博士(文 化政策学)		観光学概論	2・3後	2	1	京都府立大学 大学院文化政策 研究科教授 (平成19年4 月)	

(新旧対照表) 教員名簿

旧

補正前

別記様式第3号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(社会学部社会学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授 (学部長)	ニシダ ショウタ 西田 宗作 <令和3年4月>		文学士		ことばと文学 キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 中等教育実習事前事後指導 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高)	1前 1通 2通 3通 4通 4前 4後 4後	4 2 2 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1	大和大学教育 学部教授 (平成30年4 月)	5日
2	専	教授	アビ ヨシキ 油井 清光 <令和3年4月>		博士(文 学)		キャリアデザインⅠ 現代と社会 社会学入門 社会学調査方法論 社会学調査実習 現代社会学概論 社会問題論 社会文化論 大衆文化論 グローバル化と人権 基礎演習 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	1通 1前 1前 1前 2通 2前 2・3後 2・3後 2・3後 1・2・3後 1通 2通 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神戸大学客員 教授 (平成31年4 月)	5日
3	専	教授	クロイ マサ 黒岩 賢 <令和3年4月>		文学修士		データ分析 統計調査法 認知心理学 知覚心理学 脳機能と心理※ 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 卒業研究 教育心理学	1前 1後 2・3前 2・3前 1・2・3前 2・3前 2・3後 4通 2後	8 2 2 2 1.1 2 2 4 4	4 2 1 1 1 1 1 1 2	兵庫教育大学 大学院教授 (平成24年4 月)	4日
4	専	教授	ハリス マサキ 長瀬 正明 <令和4年4月>		文学修士 ※		家族社会学 教育社会学 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 卒業研究 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 生徒・進路指導論 教育相談 教職実践演習(中・高)	2・3後 2・3後 2通 3通 4通 3前 4前 4前 4後	4 2 2 2 4 4 4 2	2 2 1 1 1 2 2 1	名古屋市立大 学大学院教授 (平成31年4 月)	5日
5	専	教授	アサキ シンゾウ 阿部 信三 <令和3年4月>		博士(文 学)		基礎演習 社会学入門Ⅰ※ 現代と社会 社会学入門 社会学調査方法論 社会学入門Ⅱ※ 統計調査法 都市と空間※ 社会文化論 現代社会学概論 卒業研究	1通 1前 1前 1前 1前 1後 1後 1・2・3後 2・3後 2前 4通	2 1.1 2 2 2 1 1 1.2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	上智大学総合 グローバル学 部教授 (平成28年4 月)	3日
6	専	教授	トナリ コリ子 得能 弘一 <令和3年4月>		修士(学 校教育 学)		日本人論 伝統と文化 日本史概論 日本思想史 日本史 卒業研究 中等教育実習事前事後指導 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高) 博物館実習	1後 1前 2前 2・3前 4通 4前 4後 4後 4後 4通	4 2 2 2 4 1 2 2 2 3	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	神戸大学非常 勤講師 (平成30年3 月)	5日
7	専	教授	イシノ アサ 岩本 一善 <令和3年4月>		修士(コ ミュニ ケーシ ョン学)※		人間関係論 社会学入門Ⅰ※ 社会と心理 メディア社会学概論 インターネットコミュニケーション論 マルチメディア論 メディア環境論 社会心理学概論 コミュニケーション論 脳機能と心理※ 専門演習Ⅱ 卒業研究	1後 1前 1前 2前 2・3後 2・3後 2・3後 2前 2・3前 1・2・3前 3通 4通	4 1 2 2 4 4 4 2 1 2 2 4	2 1 1 2 2 2 2 2 1 1 1 1	大和大学政治 経済学部教授 (平成30年4 月)	5日
8	専	教授	キハラ カツ 木原 勝也 <令和3年4月>		法学士		社会とメディア 広告論 メディアの法と倫理 メディア文化論 伝える文化 広告史 基礎演習 卒業研究	1前 2・3後 2・3後 2・3前 1・2・3前 1・2・3前 1通 4通	2 4 4 4 2 2 2 4	1 2 2 1 1 1 1 1	神戸大学経済 学部 専門員 (平成31年4 月)	4日
9	専	教授	ヒロセ ナツ 廣瀬 直哉 <令和4年4月>		修士(教 育学)※		社会心理学概論 認知心理学 知覚心理学 対人関係論 行動科学 人間と暮らし 人間と文化 心理測定法 卒業研究	2前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 2・3後 2・3前 2・3前 4通	2 2 2 4 4 4 2 2 4	1 1 1 2 2 2 2 2 1	京都ノートル ダム女子大学 現代人間学部 教授 (平成29年4 月)	3日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 通年あたり平均日数
10	専	教授	トリス ヒロキ 徳安 浩明 <令和4年4月>		博士(文 学)		人文地理学概論 自然地理学概論 地誌学概論 産業社会学 日本の地域文化 人文地理学 自然地理学 地誌学 卒業研究	2前 2前 2前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 2・3後 4通	4 4 4 2 2 4 4 4 4	2 2 2 2 2 2 2 2 1	ヴィクトール 学園高等学校 高等学校教諭 (平成4年4 月)	5日
11	専	教授	サキ マサキ 佐々木 正明 <令和3年4月>		学士(音 楽・地域 文化)		社会学入門Ⅱ※ 社会とメディア 社会調査入門 メディア社会学概論 マス・コミュニケーション論 ジャーナリズム論 報道の現場 国際報道論 スポーツ報道論 オリンピック論 基礎演習 卒業研究	1後 1前 1前 2前 2・3前 2・3前 1・2・3後 1・2・3後 1・2・3後 1・2・3後 1通 1通 4通	1.1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1	産経新聞社社 会部次長 (令和元年8 月)	5日
12	専	教授	オホタ コウジ 岡田 広示 <令和4年4月>		教職修士 (専門 職)		キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 社会と子ども 卒業研究 教育実践論 教育基礎論 教師論 手帳鑑査 中等教育実習Ⅰ 教職実践演習(中・高)	2通 3通 4通 2・3前 4通 2前 2前 2前 2前 4後 4後	2 2 2 2 2 4 4 4 2 2 2	1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1	上越教育大学 大学院准教授 (平成31年4 月)	5日
13	専	教授	マツバヤ ヒロ 松林 薫 <令和4年4月>		修士(経 済学)		キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 社会調査実習 経済学概論 経済学原論 経済メディア論 新聞論 ネット報道論 経済心理學 卒業研究	3通 4通 2通 2前 2後 2・3後 2・3後 2・3前 2・3前 4通	2 2 2 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1	報道イノベー ション研究所 (平成11年11 月)	5日
14	専	教授	アノ ケンタ 天野 健作 <令和3年4月>		博士(国 際協力 学)		キャリアデザインⅠ 社会学入門 社会学方法論 社会学実習 環境社会学 国際社会学 社会学総論 資源論 グローバルゼーション論 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 卒業研究	1通 1前 1前 2通 2・3前 2・3後 2・3後 1・2・3前 1・2・3前 2通 3通 4通	2 2 2 2 4 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	産経新聞社記 者 (平成11年4 月)	6日
15	専	教授	カリ ヒロ 加藤 久子 <令和4年4月>		修士(社 会学)※		外国史概論 国際社会学 外国史 宗教と社会 地域研究 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 卒業研究	2前 2・3後 2・3前 2・3前 2・3前 2通 3通 4通	4 2 4 2 2 2 2 4	2 1 2 1 1 1 1 1	東海大学文化 社会学部非常 勤講師 (平成28年4 月)	5日
16	専	准教授	カネト ヒロシ 梅本 尚 <令和3年4月>		経済学士		キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 中等教育実習事前事後指導 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高)	1通 2通 3通 4通 4前 4後 4後 4後	2 2 2 2 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	大和大学教育 学部准教授 (平成31年4 月)	5日
17	専	准教授	フクナ マチオ 福嶋 雅直 <令和3年4月>		修士(教 育学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 英語演習Ⅰ 英語演習Ⅱ キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 社会文化論 人間と音楽 生理心理学 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 専門演習Ⅰ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 3前 3後 1通 2通 3通 4通 2・3後 2・3後 2・3前 2・3前 2・3後 2通 4通	3 3 3 3 3 3 2 2 2 2 4 4 2 2 2 2 4	3 3 3 3 3 3 1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1	西大和学園中 学校・高等学 校教諭 (平成5年4 月)	5日
18	専	准教授	キタノ ヒロ 安田 悠子 <令和4年4月>		修士(学 術)※		キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 社会文化論 人間と音楽 生理心理学 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 専門演習Ⅰ 卒業研究	2通 3通 3通 4通 2・3後 2・3後 2・3前 2・3前 2・3後 2通 4通	2 2 2 2 2 4 4 2 2 2 2 4	1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1	名古屋大学附 属学部非常勤 講師 (平成31年4 月)	6日
19	専	准教授	サハナ マチ (ヤシロ マチ) 立花 晃 (JANSSEN AKIRA) <令和3年4月>		博士(環 境人間 学)		キャリアデザインⅠ 現代と社会 社会学概論 質的研究法 現代社会学概論 地域社会学 人間と暮らし コミュニティ心理 都市と空間※ まちと美術館 基礎演習 卒業研究 物理学実習	1通 1前 1後 1後 2前 2・3前 2・3後 2・3前 1・2・3後 1・2・3後 1通 1通 4通	2 2 4 1 2 4 2 4 1.1 2 2 2 3	1 1 2 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1	龍谷大学研究 員 (平成28年4 月)	5日

講座 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 通算平均日数
20	兼担	講師	ニシカ ハナキ 西岡 和晃 <令和3年9月>		博士(法 学)		法学入門	1後	4	2	大和大学政治 経済学部講師 (令和2年4 月)	
21	兼担	講師	ミナモト ジュンコ 富北 純宏 <令和3年4月>		教育学修 士		数学入門	1前	4	2	大和大学教育 学部講師 (令和2年4 月)	
22	兼担	准教授	ノダ ヒロユキ 田中 秀幸 <令和3年9月>		学士(農 学)		物理学入門	1後	4	2	大和大学キャ リアセンター 准教授 (令和2年4 月)	
23	兼担	教授	ツカミ ケイジ 橋上 啓次朗 <令和3年4月>		教育学修 士		化学入門	1前	4	2	大和大学保健 医療学部教授 (平成28年4 月)	
24	兼担	准教授	ニシハラ マサヨシ 西浦 将芳 <令和3年4月>		体育学士		スポーツ	1通	6	3	大和大学理工 学部准教授 (令和2年4 月)	
25	兼担	准教授	オオムラ カズマ 大村 和正 <令和4年4月>		博士(学 術)		政治学概論 社会保障論 政治学	2前 2・3前	4 4	2 2	大和大学政治 経済学部准教 授 (令和元年10 月)	
26	兼担	教授	クニタニ トモキ 國嶋 智行 <令和6年4月>		文学士		道徳理論と指導法	4前	4	2	大和大学教育 学部教授 (平成30年4 月)	
27	兼担	准教授	トシノ サツ子 笠笠 善法 <令和4年9月>		修士(教 育学)		教育助産論 教育課程論 教育の方法技術※	3前 2後 3後	4 4 2.1	2 2 2	大和大学教育 学部准教授 (平成30年4 月)	
28	兼担	教授	マツモト マサキ 松本 泰久 <令和5年9月>		修士(教 育学)		教育の方法技術※	3後	1.9	2	大和大学教育 学部教授 (平成28年4 月)	
29	兼任	講師	トノダ ヒロシ 戸谷 洋志 <令和3年4月>		博士(文 学)		哲学入門 倫理学入門	1後 1前	4 4	2 2	大阪大学国際 公共大学院学 位プログラム 推進機構特任 助教 (平成31年4 月)	
30	兼任	講師	タケノカ ケイ 武蔵 勝宏 <令和3年4月>		博士(国 際公共政 策)		日本国憲法	1前	4	2	同志社大学政 経学部教授 (平成22年4 月)	
31	兼任	講師	タカハシ ショウ 高杉 祥太 <令和3年4月>		修士(教 育学)		コンピュータ入門 統計学入門	1前 1後	4 2	2 1	富山大学経済 教育学部専任 講師 (平成28年4 月)	
32	兼任	講師	イワノ ヒロオ 岩田 一男 <令和3年4月>		修士(都 市ビジネ ス)		コンピュータ入門 統計学入門	1前 1後	4 2	2 1	関西学院大学 共通教育セン ター教授 (平成31年4 月)	
33	兼任	講師	ヒロイ イクミ 廣井 いずみ <令和3年9月>		博士(学 術)		心理学入門 犯罪心理学 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ	1後 2・3後 2・3前 2・3後	4 4 2 2	2 2 1 1	奈良大学社会 学部教授 (平成27年4 月)	
34	兼任	講師	ヨシヤマ トモ 米山 知子 <令和3年9月>		博士(文 学)		文化人類学	1・2・3後	2	1	立命館大学産 業社会学部非 常勤講師 (平成30年9 月)	
35	兼任	講師	カニガチ ケン 谷口 卓 <令和6年4月>		社会福祉 学修士		特別支援教育	4前	2	2	東亜大学人間 科学部准教授 (平成29年4 月)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フシガタ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
36	兼任	講師	フシガタ クミ 勝掛 久美子 <令和3年4月>		修士(図 書館・情 報学)		生涯学習教諭 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 図書館概論 図書館情報技術論 図書館制度・経営論 情報サービス論 児童サービス論 情報サービス実習 図書館情報資源概論	1・2・3期 3後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 3後 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪成蹊学園 専任職員大学 図書館図書課 長 (平成27年4 月)	
37	兼任	講師	タケノコ 竹田 芳則 <令和5年9月>		文学士		学校図書と学校図書館 学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館 図書館サービス概論 情報資源組織論 情報資源組織実習 図書・図書館史 図書館施設論	4前 4前 4前 3後 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	堺市職員中央 図書館司書 (昭和58年4 月)	
38	兼任	講師	マカワ シチ 前川 志織 <令和5年4月>		博士(芸 術学)		博物館経営論 博物館資料論 博物館展示論 博物館教育論 博物館情報・メディア論	3前 3後 4前 4前 4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	同志社女子大 学文学部附属 託読師 (平成30年4 月)	
39	兼任	講師	マサト タカ 増本 貴士 <令和4年4月>		修士(情 報学)		映像コミュニケーション論 メディア制作実習	2・3期 2・3後	4 4	2 2	奈良県立大学 COC/COC推進 室主任准教授 (平成28年4 月)	
40	兼任	講師	アキハタ シノブ 秋岡 祥介 <令和4年4月>		学校教育 学修士		中等教科教育法(社会)Ⅰ 中等教科教育法(社会)Ⅱ 中等教科教育法(地理) 中等教科教育法(公民)	2前 2前 2後 2後	4 4 4 4	2 2 2 2	大阪府立大綱 中学校再任用 教諭 (平成31年4 月)	
41	兼任	講師	ウツミ ミナ 板腰 実 <令和5年4月>		理学修士		博物館概論 博物館資料保存論 博物館実習	3前 3後 4通	2 2 3	1 1 1	大阪府立自然 史博物館外務 研究員 (平成31年4 月)	
42	兼任	講師	オノキ トモ 尾崎 智子 <平成34年4月>		博士(文 学)		大衆文化論 サブカルチャー論	2・3後 2・3後	2 4	1 2	関西福祉大学 非常勤講師 (平成30年4 月)	

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (24ページ)

新	旧
(4) 年齢構成 本学部社会科学の専任教員の年齢構成(完成年度令和7年3月31日時点)は、40～49歳4名、50～59歳9名、60～64歳4名、65～69歳2名、70歳2名と、年齢構成のバランスを念頭においた教員配置としている。 学部開設時は、教育研究体制の構築、安定的な教育研究体制の保持、課題への即時対応の必要性から、上記の通り、経験、実績豊富な教員を中心に配置する組織体制を編成するが、定年を迎える教員の対応にあたっては、退職教員の担当分野領域の教育研究の質の維持、継続性を念頭に、後継の教員の養成、若手教員の採用を検討する。 また、教員の専門性研鑽の意識啓発、研究時間確保を図り、教員がさらに高度な学位の取得に取り組むことができるよう、教員の学会等の研究活動を推進するとともに、上位学位保有者を交えた専門分野単位の研究会を開設し、高度な学位の取得に向けた研究指導、アドバイスを展開する体制を整備する。	(4) 年齢構成 本学部社会科学の専任教員の年齢構成(完成年度令和7年3月31日時点)は、40～49歳3名、50～59歳9名、60～64歳3名、65～69歳1名、70歳2名と、年齢構成のバランスを念頭においた教員配置としている。 また、学部開設にあたり配置する専任教員のうち、学年進行中に定年退職を迎える教員1名、完成年度をもって定年退職を迎える教員2名については、教育研究水準の維持向上、継続性の担保を図るべく、後継の専任教員との共同授業担当体制をとっており、完成年度後も、教育研究水準の維持向上、また、さらなる活性化を念頭に教員組織を編成する。

<授業科目ごとの教員配置が不明確>

9. 「教育課程の概要」の専任教員等の配置、「シラバス」における担当教員名、「教員名簿」で齟齬（そご）があるため、適切に改めること。

(対応)

ご指摘いただいた点について、「教育課程の概要」の専任教員等の配置、「シラバス」にける担当教員名、「教員名簿」の記載に整合性がとれているか、また、審査意見4、8の対応による教育課程変更、教員追加の対応が適切に反映されているかを精査のうえ、関係書類を修正します。

また、「教育課程の概要等」の書類は、完成年度の専任教員等の配置状況を記載するため、完成年度までに定年を迎える調書番号2の専任教員は反映されず、教員名簿との間で相違が生じるが、当該教員が担当する「キャリアデザインⅠ」「現代と社会」「社会調査入門」「社会調査方法論」「社会調査実習」「現代社会学概論」「社会問題論」「社会文化論」「大衆文化論」「グローバルゼーション論」「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」の全授業科目に複数の教員を配置しており、当該教員退職後も教育展開に支障が生じないよう体制を整えている。また、当該教員退職後は、審査意見10をふまえ、当該教員の専門領域の教育研究の質の維持、継続性を念頭に後継教員の養成を図る。

<若手教員の積極的な採用>

10. 教員組織について、20～30歳代の専任教員がおらず、また保有する学位の修士及び学士の割合が高いことから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画やより高度な学位の取得など、教員組織の将来構想についてより具体的に説明すること。

(対応)

ご指摘いただいた点について、教員組織の将来構想を以下の通り説明します。

○ 現任教員組織の年齢構成及び学位について

現行の「現代社会学コース」「メディア社会学コース」「社会心理学コース」の主たる授業科目を担当する専任教員、及び「共通基礎科目・基盤科目」を主に担当する専任教員の年齢構成（就任時満年齢）及び学位は以下の通りである。

<現代社会学コース>

専任（准教授）	37 歳	博士（環境人間学）
専任（教授）	66 歳	博士（文学）
専任（教授）	55 歳	博士（文学）
専任（教授）	47 歳	博士（国際協力学）
専任（教授）	46 歳	修士（社会学）
専任（教授）	67 歳	博士（文学）
専任（教授）	66 歳	博士（文学）

<メディア社会学コース>

専任（教授）	49 歳	学士（言語・地域文化）
専任（教授）	48 歳	修士（経済学）
専任（教授）	55 歳	法学士
専任（教授）	61 歳	学士（文学）
専任（教授）	56 歳	修士（コミュニケーション学）

<社会心理学コース>

専任（准教授）	45 歳	教育学修士
専任（教授）	66 歳	文学修士
専任（教授）	55 歳	修士（教育学）
専任（准教授）	43 歳	修士（学術）
専任（教授）	57 歳	博士（心理学）

<共通基礎科目・基盤科目>

専任（教授）	55 歳	文学士
専任（教授）	59 歳	修士（学校教育学）
専任（准教授）	49 歳	教職修士（専門職）
専任（准教授）	56 歳	経済学士
専任（准教授）	51 歳	修士（教育学）

○ 教員組織の将来構想について

学部開設時は、教育研究体制の構築、安定的な教育研究体制の保持、課題への即時対応の必要性から、上記の通り、経験、実績豊富な教員を中心に配置する組織体制を編成するが、定年を迎える教員の対応にあたっては、退職教員の担当分野領域の教育研究の質の維持、継続性を念頭に、後継の教員の養成、若手教員の採用を検討する。

また、教員の専門性研鑽の意識啓発、研究時間確保を図り、教員がさらに高度な学位の取得に取り組むことができるよう、教員の学会等の研究活動を推進するとともに、上位学位保有者を交えた専門分野単位の研究会を開設し、高度な学位の取得に向けた研究指導、アドバイスを展開する体制を整備します。

<定年年齢年度>

現代社会学コース	専任（教授）	67 歳	博士（文学）	令和 5 年度
現代社会学コース	専任（教授）	66 歳	博士（文学）	令和 7 年度
現代社会学コース	専任（教授）	66 歳	博士（文学）	令和 7 年度
社会心理学コース	専任（教授）	66 歳	文学修士	令和 7 年度

新	旧
5. 教員組織の編成の考え方及び特色 (1) 教員配置の考え方 本学部社会学科では、「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する」を「社会学科」の養成する人材像に掲げ、この養成する人材像、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）をふまえた教育課程を編成しており、「共通基礎科目」において、専門的な学び展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力や、アカデミックスキル、キャリア意識などを養成し、「専門教育科目」において、「基盤科目」で社会学及び現代社会学、メディア社会学、社会心理学の専門の学びの導入知識や、基盤となる知識、視野の学びの導入知識、調査・分析の知識方法、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識、「専門科目」で、各コースの専門分野に関する知識能力や、関連科目の知識能力、「基礎・専門演習科目」で、課題解決の方法や、社会に貢献する意欲、「卒業研究」で、課題解決能力や、将来進路に対する意識を養成する。 この教育課程に配する授業科目を展開し、養成する人材像に掲げる人物の養成を図るべく、本学部社会学科に専任教員 22 名（教授 16 名・准教授 6 名／うち 1 名は令和 5 年度で定年退職）、兼任教員 9 名、兼任教員 16 名を配置する。各コースの専門分野科目を担当する専任教員には、「現代社会学分野」は、大学における教育歴、及び主たる科目に関する研究業績を有する教員を中心に、「メディア社会学分野」の専門科目を担当する専任教員は、実務経験を活かした教育展開を図るべく、研究業績とともに実務経験を有する教員を、「社会心理学分野」の専門科目を担当する専任教員は、大学における教育歴、及び主たる科目に関する研究業績を有する教員を配置する。 (2) 主たる授業科目への教授または准教授配置 養成する人材像、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）をふまえ、「専門科目」の「基盤科目」に配する「社会学」の入門科目、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の専門の学びの導入科目及び「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識、視野の学びの導入科目、「社会調査」の知識、方法に関する科目、また、「専門科目」の「現代社会学分野」に配する現代社会	5. 教員組織の編成の考え方及び特色 (1) 教員配置の考え方 本学部社会学科では、「社会学に関する理論、知識を活かし、社会が抱える課題の解決に意欲的に取り組み、社会の発展と幸せな暮らしの創造に貢献する人材を養成する」を「社会学科」の養成する人材像に掲げ、この養成する人材像、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）をふまえた教育課程を編成しており、「共通基礎科目」において、専門的な学び展開する基礎となる視野、教養、コミュニケーション能力や、アカデミックスキル、キャリア意識などを養成し、「専門教育科目」において、「基盤科目」で社会学及び現代社会学、メディア社会学、社会心理学の基礎的知識や、調査・分析の知識方法、「社会学」を学ぶうえで基盤となる知識、「専門科目」で、各コースの専門分野に関する知識能力や、関連科目の知識能力、「基礎・専門演習科目」で、課題解決の方法や、社会に貢献する意欲、「卒業研究」で、課題解決能力や、将来進路に対する意識を養成する。 この教育課程に配する授業科目を展開し、養成する人材像に掲げる人物の養成を図るべく、本学部社会学科に、専任教員 19 名（教授 15 名、准教授 4 名）、兼任教員 9 名、兼任教員 14 名を配置する。 特に、「社会学」の学びの基盤になる科目、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の各コースの専門分野の主たる科目には、以下の専任教員を配置する。 主に「現代社会学コース」分野の専門科目を担当する専任教員には、大学院において社会学、社会文化を専攻し、社会学理論を専門分野とする教授[博士（文学）]、日本教育社会学会に所属し、教育社会学を専門分野とする教授[文学修士]、日本社会学会に所属し、国際社会学を専門分野とする教授[博士（文学）]、大学院において人間・環境学、国際協力学を専攻し、日本環境学会に所属、環境政策を専門分野とする教授[博士（国際協力学）]、地理学を専門分野とする教授[博士（文学）]、大学院において社会学を専攻し、史学を専門分野とする教授[修士（社会学）]、大学院において環境人間学を専攻し、都市社会学、文化政策を専門分野とする准教授[博士（環境人間学）]の教授 6 名、准教授 1 名を配置する。 また、主に「メディア社会学コース」の専門科目を担当する専任教員には、産経新聞社において支局長、オリンピック報道責任者を歴任

学概論、地域社会学、家族社会学、産業社会学、環境社会学、教育社会学、国際社会学、社会問題論、社会文化論等の主たる授業科目、「メディア社会学分野」に配するメディア社会学概論、メディア環境論、メディア文化論、マス・コミュニケーション論、ジャーナリズム論、新聞論、広告論、マルチメディア論、放送メディア論等の主たる授業科目、「社会心理学分野」に配する社会心理学概論、社会と個人、動機づけの心理、対人関係論、コミュニケーション論、社会と集団、意思決定の心理学、人間と文化等の主たる授業科目、「基礎・専門演習科目」「卒業研究」に、教授または准教授の専任教員を配置する。

(3) 研究分野・研究体制

本学部社会学科の専任教員の研究分野は、主に「現代社会学コース」の授業科目を担当する専任教員は、社会学理論、社会文化学、社会教育学、社会福祉学、伝統文化、地域研究、産業論、経済政策、環境政策、国際関係論、国際社会学、都市社会学等、主に「メディア社会学コース」の授業科目を担当する専任教員は、コミュニケーション、メディア、広告、情報、放送・映像、社会問題等、主に「社会心理学コース」の授業科目を担当する専任教員は、集団と個人、動機づけの心理、対人関係論、認知心理学、社会文化論等、また、基礎教育、基盤分野の授業科目を担当する専任教員は、地理学、歴史学、教育学、キャリア教育等と、教員の研究分野は多彩である。

研究体制は、教員の研究の重要性を鑑み、担当授業科目数は1日平均1～2コマとすることで研究時間の確保を図るとともに、新たに建設する社会学部棟の3階に配する「教員フロア」には、専任教員1人1室のプライベートラボ（約15㎡/人）、及び教員相互の連携や、情報交換を図るオープンラボの2つの機能からなる研究空間を整備する。

プライベートラボには、机椅子、棚、ロッカー、ミーティングデスク、ノートパソコンを配し、施錠可能な完全個室とする。オープンラボには、各教員の机椅子とともに、複合機、教材書庫、ミーティングデスク等を配備する。

また、同フロア全域にフリーアクセスのネット環境を整備するとともに、学内ネットワーク、ファイルサーバに厳格なセキュリティシステムを導入することにより、情報管理の徹底を図るとともに、個人情報等の取り扱いに関するガイドラインの教職員、学生への周知徹底を図ることで厳格なデータセキュリティ体制を整えている。

し、地域研究、スポーツ社会学を専門分野とする教授[学士（言語・地域文化）]、朝日新聞社勤務の経歴を有し、日本広告学会に所属、消費者行動、広告、情報メディアを専門分野とする教授[法学士]、大学院において経済動態分析を専攻し、日本経済新聞社勤務の経歴を有し、社会科学、コミュニケーションを専門分野とする教授[修士（経済学）]、大学院においてコミュニケーション学を専攻し、日本社会学会、日本マス・コミュニケーション学会、日本コミュニケーション学会に所属、コミュニケーションを専門とする教授[修士（コミュニケーション）]の教授4名を配置する。

また、主に「社会心理学コース」の専門科目を担当する専任教員には、大学院において実験心理学を専攻し、日本認知科学会に所属、認知、思考、実験心理を専門分野とする教授[文学修士]、大学院においてコミュニケーション学を専攻し、日本社会学会、日本マス・コミュニケーション学会、日本コミュニケーション学会に所属、コミュニケーションを専門とする教授[修士（コミュニケーション）]、日本認知心理学会に所属し、人間環境学、認知科学を専門分野とする教授[修士（教育学）]、大学院において経済動態分析を専攻し、日本経済新聞社勤務の経歴を有し、社会科学、コミュニケーションを専門分野とする教授[修士（経済学）]、大学院においてコミュニケーション学を専攻し、日本生理学会、日本コミュニティ心理学会に所属、人間情報学、実験心理学を専門分野とする准教授[学術修士]、大学院において社会学を専攻し、史学を専門分野とする教授[修士（社会学）]、大学院において環境人間学を専攻し、都市社会学、文化政策を専門分野とする准教授[博士（環境人間学）]の教授5名、准教授2名を配置する。

(2) 主たる授業科目への教授または准教授配置

養成する人材像、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）をふまえ、「専門科目」の「基盤科目」に配する「社会学」の入門科目、「現代社会学」「メディア社会学」「社会心理学」の導入科目、「社会調査」の知識、方法に関する科目、また、「専門科目」の「現代社会学分野」に配する現代社会学概論、地域社会学、家族社会学、産業社会学、環境社会学、教育社会学、国際社会学等の主たる授業科目、「メディア社会学分野」に配するメディア社会学概論、メディア環境論、メディア文化論、マス・コミュニケーション論、ジャーナリズム論、新聞論、広告論、マルチメディア論等の主たる授業科目、「社会心理学分野」に配する社会心理学概論、人間と暮らし、コミュニティ心理、コミュニケーショ

ン論、対人関係論等の主たる授業科目、「基礎・専門演習科目」「卒業研究」に、教授または准教授の専任教員を配置する。

(3) 研究分野・研究体制

本学部社会科学の専任教員の研究分野は、主に「現代社会学コース」の授業科目を担当する専任教員は、社会学理論、社会文化学、社会教育学、社会福祉学、伝統文化、地域研究、産業論、経済政策、環境政策、国際関係論、国際社会学、都市社会論等、主に「メディア社会学コース」の授業科目を担当する専任教員は、コミュニケーション、メディア、広告、情報、社会問題等、主に「社会心理学コース」の授業科目を担当する専任教員は、人間学、人間情報学、認知心理学、生態心理学等、また、基礎教育、基盤分野の授業科目を担当する専任教員は、地理学、歴史学、教育学、キャリア教育等と、教員の研究分野は多彩である。

研究体制は、教員の研究の重要性を鑑み、担当授業科目数は1日平均1～2コマとすることで研究時間の確保を図るとともに、新たに建設する社会学部棟の3階に配する「教員フロア」には、専任教員1人1室のプライベートラボ（約15㎡/人）、及び教員相互の連携や、情報交換を図るオープンラボの2つの機能からなる研究空間を整備する。

プライベートラボには、机椅子、棚、ロッカー、ミーティングデスク、ノートパソコンを配し、施錠可能な完全個室とする。オープンラボには、各教員の机椅子とともに、複合機、教材書庫、ミーティングデスク等を配備する。

また、同フロア全域にフリーアクセスのネット環境を整備するとともに、学内ネットワーク、ファイルサーバに厳格なセキュリティシステムを導入することにより、情報管理の徹底を図るとともに、個人情報等の取り扱いに関するガイドラインの教職員、学生への周知徹底を図ることで厳重なデータセキュリティ体制を整えている。

<図書等の更なる充実>

11. 図書等の整備について、開設時に社会心理学分野の図書等を整備する計画となっているが、心理学における他分野の図書等についても一層の充実を図ることが望ましい。

(対応)

ご指摘いただいた点について、図書、学術雑誌の整備においては、別紙の通り、社会心理学分野だけでなく、心理学における他分野の図書等を念頭に選書整備を図ります。

図書目録（社会学科 社会心理学コース）総括表

分野・領域	点数
学習心理学	5
教育心理学	25
産業心理学	13
社会心理学	117
人格心理学	13
スポーツ心理学	1
生理心理学	10
認知心理学	23
発達心理学	29
犯罪心理学	2
臨床心理学	62
合計	300

図書目録（社会学科 社会心理学コース）

No.	コース	分野・領域	書名	出版社
1	社会心理	学習心理学	スタンダード学習心理学	サイエンス社
2	社会心理	学習心理学	ポテンシャル学習心理学	サイエンス社
3	社会心理	学習心理学	学習・言語心理学:支援のために知る「行動の変化」と「言葉の習得」	ミネルヴァ書房
4	社会心理	学習心理学	動物心理学:心の射影と発見	昭和堂(京都)
5	社会心理	学習心理学	学習心理学	北大路書房
6	社会心理	教育心理学	あなたと創る教育心理学:新しい教育課題にどう応えるか	ナカニシヤ出版
7	社会心理	教育心理学	自分を変えたい人のためのABCモデル:教育・福祉・医療職を目指す人の応用行動分析学(AB	ふくろう出版
8	社会心理	教育心理学	教育・学校心理学:子どもの学びを支え、学校の課題に向き合う	ミネルヴァ書房
9	社会心理	教育心理学	育ちを支える教育心理学	学文社
10	社会心理	教育心理学	特別支援教育の理論と実践:S. E. N. S養成セミナー. 1	金剛出版
11	社会心理	教育心理学	特別支援教育の理論と実践:S. E. N. S養成セミナー. 2	金剛出版
12	社会心理	教育心理学	特別支援教育の理論と実践:S. E. N. S養成セミナー. 3	金剛出版
13	社会心理	教育心理学	教育・学校心理学	建帛社
14	社会心理	教育心理学	大学で学ぶ心理学:学部生・大学院生のための専攻ガイドブック	誠信書房
15	社会心理	教育心理学	教育分野:理論と支援の展開	創元社
16	社会心理	教育心理学	高校生のいじめの心理社会的要因と防止教育実践の評価	風間書房
17	社会心理	教育心理学	ようこそ教育心理学の世界へ	北樹出版
18	社会心理	教育心理学	アクティブラーニングのための心理学:教室実践を支える構成主義と社会的学習理論	北大路書房
19	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第4巻	クレス出版
20	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第5巻	クレス出版
21	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第6巻	クレス出版
22	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第7巻	クレス出版
23	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第8巻	クレス出版
24	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第9巻	クレス出版
25	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第10巻	クレス出版
26	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第11巻	クレス出版
27	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第12巻	クレス出版
28	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第13巻	クレス出版
29	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 第14巻	クレス出版
30	社会心理	教育心理学	元良勇次郎著作集. 別巻2	クレス出版
31	社会心理	産業心理学	はじめてふれる産業・組織心理学	サイエンス社
32	社会心理	産業心理学	産業と組織の心理学	サイエンス社
33	社会心理	産業心理学	キャリア心理学ライフデザイン・ワークブック	ナカニシヤ出版
34	社会心理	産業心理学	経営・ビジネス心理学	ナカニシヤ出版
35	社会心理	産業心理学	産業・組織心理学エッセンシャルズ	ナカニシヤ出版

図書目録（社会学科 社会心理学コース）

No.	コース	分野・領域	書名	出版社
71	社会心理	社会心理学	他者と比べる自分:社会的比較の心理学	サイエンス社
72	社会心理	社会心理学	読んでわかる心理統計法	サイエンス社
73	社会心理	社会心理学	福祉の心理学:人間としての幸せの実現	サイエンス社
74	社会心理	社会心理学	紛争と葛藤の心理学:人はなぜ争い、どう和解するのか	サイエンス社
75	社会心理	社会心理学	人口の心理学へ:少子高齢社会の命と心	ちとせプレス
76	社会心理	社会心理学	やさしく学べる心理統計法入門:こころのデータ理解への扉	ナカニシヤ出版
77	社会心理	社会心理学	支えあいからつながる心:対人関係の心理学から	ナカニシヤ出版
78	社会心理	社会心理学	社会心理学のストーリー:無人島から現代社会まで	ナカニシヤ出版
79	社会心理	社会心理学	社会心理学概論	ナカニシヤ出版
80	社会心理	社会心理学	集団と集合知の心理学	ナカニシヤ出版
81	社会心理	社会心理学	心理学・社会科学研究のための構造方程式モデリング:Mplusによる実践基礎編	ナカニシヤ出版
82	社会心理	社会心理学	心理学概論:こころの理解を社会へつなげる	ナカニシヤ出版
83	社会心理	社会心理学	心理学概論:ヒューマン・サイエンスへの招待	ナカニシヤ出版
84	社会心理	社会心理学	心理学実験演習図表作成マニュアル:Excel活用のポイント	ナカニシヤ出版
85	社会心理	社会心理学	よくわかるコミュニティ心理学	ミネルヴァ書房
86	社会心理	社会心理学	絶対役立つ社会心理学:日常の中の「あるある」と「なるほど」を探す	ミネルヴァ書房
87	社会心理	社会心理学	他者と「共にある」とはどういうことか:実感としての「つながり」	ミネルヴァ書房
88	社会心理	社会心理学	こころの危機への心理学的アプローチ:個人・コミュニティ・社会の観点から	金剛出版
89	社会心理	社会心理学	インターベンション・スキルズ:チームが動く、人が育つ、介入の理論と実践	金子書房
90	社会心理	社会心理学	家族心理学ハンドブック	金子書房
91	社会心理	社会心理学	人間関係づくりトレーニング	金子書房
92	社会心理	社会心理学	心理学	弘文堂
93	社会心理	社会心理学	人間関係の社会心理学	晃洋書房
94	社会心理	社会心理学	相手も自分も大切にするコミュニケーション+社会学:学校では教えてくれない人間関係の極意	晃洋書房
95	社会心理	社会心理学	動物園の社会心理学:動物園が果たす役割と地方動物園が抱える問題	晃洋書房
96	社会心理	社会心理学	心理学レポート・論文の書き方:演習課題から卒論まで	講談社
97	社会心理	社会心理学	現代心理学の基礎と応用:人間理解と対人援助	樹村房
98	社会心理	社会心理学	家族のゆくえは金次第	春秋社
99	社会心理	社会心理学	人づきあい、なぜ7つの秘訣?:ポジティブ心理学からのヒント	新世社(渋谷区)
100	社会心理	社会心理学	入門家族社会学	新泉社
101	社会心理	社会心理学	はじめての死生心理学:現代社会において、死とともに生きる	新曜社
102	社会心理	社会心理学	メディア・オーディエンスの社会心理学	新曜社
103	社会心理	社会心理学	質的テキスト分析法:基本原理・分析技法・ソフトウェア	新曜社
104	社会心理	社会心理学	質的データ分析法:原理・方法・実践	新曜社
105	社会心理	社会心理学	質的研究法マッピング:特徴をつかみ、活用するために	新曜社

図書目録（社会学科 社会心理学コース）

No.	コース	分野・領域	書名	出版社
106	社会心理	社会心理学	質的心理学辞典	新曜社
107	社会心理	社会心理学	社会心理学・再入門:ブレイクスルーを生んだ12の研究	新曜社
108	社会心理	社会心理学	「ポリヴェーガル理論」を読む:からだ・こころ・社会	星和書店
109	社会心理	社会心理学	PRE-SUASION:影響力と説得のための革命的瞬間	誠信書房
110	社会心理	社会心理学	アニメーションの心理学	誠信書房
111	社会心理	社会心理学	心理学って何だろう? : 四千人の調査から見える期待と現実	誠信書房
112	社会心理	社会心理学	心理学をまじめに考える方法: 真実を見抜く批判的思考	誠信書房
113	社会心理	社会心理学	紛争と和解を考える: 集団の心理と行動	誠信書房
114	社会心理	社会心理学	もっと／思いやりを科学する: 向社会的行動研究の半世紀	川島書店
115	社会心理	社会心理学	ひと目でわかる心のしくみとはたらき図鑑	創元社
116	社会心理	社会心理学	福祉分野: 理論と支援の展開	創元社
117	社会心理	社会心理学	劣等感と人間関係	創元社
118	社会心理	社会心理学	基礎心理学実験法ハンドブック	朝倉書店
119	社会心理	社会心理学	現代心理学[理論]事典	朝倉書店
120	社会心理	社会心理学	心理学実験プログラミング: Python/ PsychoPyによる実験作成・デー	朝倉書店
121	社会心理	社会心理学	ウォームアップ心理統計	東京大学出版会
122	社会心理	社会心理学	現代コミュニティ心理学: 理論と展開	東京大学出版会
123	社会心理	社会心理学	社会心理学研究入門	東京大学出版会
124	社会心理	社会心理学	教養のトリセツ心理学: 現代を生きるために必要な基礎知識をコンパクトに解説	日本文芸社
125	社会心理	社会心理学	社会心理学: 人と社会との相互作用の探求	培風館
126	社会心理	社会心理学	心理学A to B	培風館
127	社会心理	社会心理学	図説現代心理学入門	培風館
128	社会心理	社会心理学	三世代の親子関係: マッチングデータによる実証研究	風間書房
129	社会心理	社会心理学	21世紀を生きる社会心理学: 人間と社会の探究入門	北樹出版
130	社会心理	社会心理学	エピソードでわかる社会心理学	北樹出版
131	社会心理	社会心理学	楽しく学んで実践できる対人コミュニケーションの心理学	北樹出版
132	社会心理	社会心理学	心と付き合うための心理学	北樹出版
133	社会心理	社会心理学	ICT・情報行動心理学	北大路書房
134	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 10	北大路書房
135	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 11	北大路書房
136	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 12	北大路書房
137	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 13	北大路書房
138	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 2	北大路書房
139	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 3	北大路書房
140	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 4	北大路書房

図書目録（社会学科 社会心理学コース）

No.	コース	分野・領域	書名	出版社
141	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 5	北大路書房
142	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 6	北大路書房
143	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 7	北大路書房
144	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 8	北大路書房
145	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 9	北大路書房
146	社会心理	社会心理学	シリーズ21世紀の社会心理学. 別巻	北大路書房
147	社会心理	社会心理学	シリーズ心理学と仕事:シリーズ心理学と仕事5. 5	北大路書房
148	社会心理	社会心理学	環境心理学	北大路書房
149	社会心理	社会心理学	交通心理学	北大路書房
150	社会心理	社会心理学	高齢者心理学	北大路書房
151	社会心理	社会心理学	社会心理学	北大路書房
152	社会心理	社会心理学	障害者心理学	北大路書房
153	社会心理	社会心理学	対人社会心理学の研究レシピ:実験実習の基礎から研究作法まで	北大路書房
154	社会心理	社会心理学	福祉心理学	北大路書房
155	社会心理	社会心理学	英語で学ぶ社会心理学	有斐閣
156	社会心理	社会心理学	心理学・入門:心理学はこんなに面白い	有斐閣
157	社会心理	社会心理学	逃避型ネット依存の社会心理	勁草書房
158	社会心理	社会心理学	影響力の武器 実践編:「イエス!」を引き出す60の秘訣	誠信書房
159	社会心理	社会心理学	社会心理学事典	丸善出版
160	社会心理	社会心理学	ヒルガードの心理学	金剛出版
161	社会心理	人格心理学	はじめてふれる性格心理学	サイエンス社
162	社会心理	人格心理学	パーソナリティと感情の心理学	サイエンス社
163	社会心理	人格心理学	アサーティブネス:その実践に役立つ心理学	ナカニシヤ出版
164	社会心理	人格心理学	パーソナリティ心理学入門:ストーリーとトピックで学ぶ心の個性	ナカニシヤ出版
165	社会心理	人格心理学	セルフ・コンパッション:あるがままの自分を受け入れる	金剛出版
166	社会心理	人格心理学	勇気づけの心理学	金子書房
167	社会心理	人格心理学	自我と無意識の関係	人文書院
168	社会心理	人格心理学	性格は変えられる	創元社
169	社会心理	人格心理学	円環モデルからみたパーソナリティと感情の心理学	福村出版
170	社会心理	人格心理学	感情心理学ハンドブック	北大路書房
171	社会心理	人格心理学	新・動機づけ研究の最前線	北大路書房
172	社会心理	人格心理学	知能・性格心理学	北大路書房
173	社会心理	人格心理学	パーソナリティの心理学	有斐閣
174	社会心理	スポーツ心理学	スポーツ心理学	北大路書房
175	社会心理	生理心理学	「人間とは何か」はすべて脳が教えてくれる:思考、記憶、知能、パーソナリティの謎に迫る最新の脳	誠文堂新光社

図書目録（社会学科 社会心理学コース）

No.	コース	分野・領域	書名	出版社
176	社会心理	生理心理学	脳に心が読めるか？:心の進化を知るための90冊	青土社
177	社会心理	生理心理学	神経・生理心理学	北大路書房
178	社会心理	生理心理学	情動はこうしてつくられる:脳の隠れた働きと構成主義的情動理論	紀伊國屋書店
179	社会心理	生理心理学	生理心理学と精神生理学. 第1巻 基礎	北大路書房
180	社会心理	生理心理学	生理心理学と精神生理学. 第2巻 応用	北大路書房
181	社会心理	生理心理学	生理心理学と精神生理学. 第3巻 展開	北大路書房
182	社会心理	生理心理学	新生理心理学. 1巻 生理心理学の基礎	北大路書房
183	社会心理	生理心理学	新生理心理学. 2巻 生理心理学の応用分野	北大路書房
184	社会心理	生理心理学	新生理心理学. 3巻 新しい生理心理学の展望	北大路書房
185	社会心理	認知心理学	ポテンシャル心理学実験	サイエンス社
186	社会心理	認知心理学	認知と思考の心理学	サイエンス社
187	社会心理	認知心理学	認知心理学の視点:頭の働きの科学	サイエンス社
188	社会心理	認知心理学	心理学概説:こころを科学する	ナカニシヤ出版
189	社会心理	認知心理学	第一印象の科学:なぜヒトは顔に惑わされてしまうのか？	みずす書房
190	社会心理	認知心理学	心の進化を語ろう:比較認知科学からの人間探究	岩波書店
191	社会心理	認知心理学	自尊心の育て方:あなたの生き方を変えるための、認知療法的戦略	金剛出版
192	社会心理	認知心理学	最新知覚・認知心理学:その現在と将来展望	金子書房
193	社会心理	認知心理学	選択と誘導の認知科学	新曜社
194	社会心理	認知心理学	夢分析. 1	人文書院
195	社会心理	認知心理学	夢分析. 2	人文書院
196	社会心理	認知心理学	無意識の心理	人文書院
197	社会心理	認知心理学	すまう:住行動の心理学	朝倉書店
198	社会心理	認知心理学	たべる:食行動の心理学	朝倉書店
199	社会心理	認知心理学	まとう:被服行動の心理学	朝倉書店
200	社会心理	認知心理学	感覚・知覚心理学	北大路書房
201	社会心理	認知心理学	神経経済学と意思決定:心理学, 神経科学, 行動経済学からの総合的展望	北大路書房
202	社会心理	認知心理学	潜在認知の次元:しなやかで頑健な社会をめざして	有斐閣
203	社会心理	認知心理学	「かわいい」のちから:実験で探るその心理	化学同人
204	社会心理	認知心理学	実験心理学:心理学の基礎知識	八千代出版
205	社会心理	認知心理学	音楽心理学入門	誠信書房
206	社会心理	認知心理学	音楽と感情の心理学	誠信書房
207	社会心理	認知心理学	心理学、認知・行動科学のための反応時間ハンドブック	勁草書房
208	社会心理	発達心理学	健康の心理学:心と身体の健康のために	サイエンス社
209	社会心理	発達心理学	読んでわかる児童心理学	サイエンス社
210	社会心理	発達心理学	発達と老いの心理学	サイエンス社

図書目録（社会学科 社会心理学コース）

No.	コース	分野・領域	書名	出版社
211	社会心理	発達心理学	子どもの発達と学校. 1	ナカニシヤ出版
212	社会心理	発達心理学	子どもの発達と学校. 2	ナカニシヤ出版
213	社会心理	発達心理学	赤ちゃんの心はどのように育つのか: 社会性とことばの発達を科学する	ミネルヴァ書房
214	社会心理	発達心理学	発達心理学	ミネルヴァ書房
215	社会心理	発達心理学	発達心理学: 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか	ミネルヴァ書房
216	社会心理	発達心理学	感情や行動をコントロールできない子どもの理解と支援: 児童自立支援施設の実践モデル	金子書房
217	社会心理	発達心理学	絵本とともに学ぶ発達と教育の心理学	晃洋書房
218	社会心理	発達心理学	子どもの見ている世界: 誕生から6歳までの「子育て・親育ち」	春秋社
219	社会心理	発達心理学	子ども・若者とともに行う研究の倫理: 研究・調査にかかわるすべての人のための実践的ガイド	新曜社
220	社会心理	発達心理学	対人関係の発達心理学: 子どもたちの世界に近づく、とらえる	新曜社
221	社会心理	発達心理学	子どもの夢. 1	人文書院
222	社会心理	発達心理学	子どもの夢. 2	人文書院
223	社会心理	発達心理学	ベーシック発達心理学	東京大学出版会
224	社会心理	発達心理学	ディスレクシア入門: 「読み書きのLD」の子どもたちを支援する	日本評論社
225	社会心理	発達心理学	家庭と仕事の心理学: 子どもの育ちとワーク・ライフ・バランス	風間書房
226	社会心理	発達心理学	傾いた図形の同一性認知の発達の研究	風間書房
227	社会心理	発達心理学	挫折と向き合う心理学: 青年期の挫折を乗り越えるための心の作業とその支援	福村出版
228	社会心理	発達心理学	腐女子の心理学: 彼女たちのジェンダー意識とフェミニズム. 2	福村出版
229	社会心理	発達心理学	成人の発達と学習	放送大学教育振興会
230	社会心理	発達心理学	ニューロダイバーシティと発達障害: 『天才はなぜ生まれるか』再考	北大路書房
231	社会心理	発達心理学	健康心理学	北大路書房
232	社会心理	発達心理学	個と関係性の発達心理学: 社会的存在としての人間の発達	北大路書房
233	社会心理	発達心理学	発達心理学ガイドブック: 子どもの発達理解のために	明石書店
234	社会心理	発達心理学	赤ちゃんの視覚と心の発達	東京大学出版会
235	社会心理	発達心理学	基礎講義アタッチメント: 子どもとかかわるすべての人のために	岩崎学術出版社
236	社会心理	発達心理学	生涯発達心理学	ナカニシヤ出版
237	社会心理	犯罪心理学	高齢者の犯罪心理学	誠信書房
238	社会心理	犯罪心理学	司法・犯罪心理学	北大路書房
239	社会心理	臨床心理学	はじめての心理学概論: 公認心理師への第一歩	ナカニシヤ出版
240	社会心理	臨床心理学	公認心理師のための説明実践の心理学	ナカニシヤ出版
241	社会心理	臨床心理学	生きづらさへの処方箋	ナカニシヤ出版
242	社会心理	臨床心理学	こころの旅	みすず書房
243	社会心理	臨床心理学	心理学の7つの大罪: 真の科学であるために私たちがすべきこと	みすず書房
244	社会心理	臨床心理学	神谷美恵子の世界	みすず書房
245	社会心理	臨床心理学	人間をみつめて	みすず書房

図書目録（社会学科 社会心理学コース）

No.	コース	分野・領域	書名	出版社
246	社会心理	臨床心理学	生きがいについて	みすず書房
247	社会心理	臨床心理学	大人から見た子ども	みすず書房
248	社会心理	臨床心理学	本、そして人	みすず書房
249	社会心理	臨床心理学	公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学:理論からアセスメント・介入の実践例まで	ミネルヴァ書房
250	社会心理	臨床心理学	支援が困難な事例に向き合う発達臨床:教育・保育・心理・福祉・医療の現場から	ミネルヴァ書房
251	社会心理	臨床心理学	臨床心理士・公認心理師まるごとガイド:資格のとり方・しごとのすべて	ミネルヴァ書房
252	社会心理	臨床心理学	中井久夫との対話:生命、こころ、世界	河出書房新社
253	社会心理	臨床心理学	カウンセリング効果の研究:エビデンスにもとづく	岩崎学術出版社
254	社会心理	臨床心理学	ひきこもり問題を講義する:専門職の相談支援技術を高めるために	岩崎学術出版社
255	社会心理	臨床心理学	フロイト技法論集	岩崎学術出版社
256	社会心理	臨床心理学	フロイト症例論集. 2	岩崎学術出版社
257	社会心理	臨床心理学	メンタライゼーション・ハンドブック:MBTの基礎と臨床	岩崎学術出版社
258	社会心理	臨床心理学	解離性障害. 続	岩崎学術出版社
259	社会心理	臨床心理学	解離性障害:多重人格の理解と治療	岩崎学術出版社
260	社会心理	臨床心理学	精神分析という営み. 続	岩崎学術出版社
261	社会心理	臨床心理学	精神分析という営み:生きた空間をもとめて	岩崎学術出版社
262	社会心理	臨床心理学	精神分析事典	岩崎学術出版社
263	社会心理	臨床心理学	精神分析的人格理論の基礎:心理療法を始める前に	岩崎学術出版社
264	社会心理	臨床心理学	精神力動的精神医学:その臨床実践	岩崎学術出版社
265	社会心理	臨床心理学	必携児童精神医学:はじめて学ぶ子どものこころの診療ハンドブック	岩崎学術出版社
266	社会心理	臨床心理学	はじめてまなぶ行動療法	金剛出版
267	社会心理	臨床心理学	ポジティブ精神医学	金剛出版
268	社会心理	臨床心理学	大学生のこころのケア・ガイドブック:精神科と学生相談からの17章	金剛出版
269	社会心理	臨床心理学	カウンセリング心理学:カウンセラーをめざす人、カウンセリングに携わるすべ	新曜社
270	社会心理	臨床心理学	黄金の華の秘密	人文書院
271	社会心理	臨床心理学	心理学と錬金術. 1	人文書院
272	社会心理	臨床心理学	心理学と錬金術. 2	人文書院
273	社会心理	臨床心理学	心の専門家が会える法律:臨床実践のために	誠信書房
274	社会心理	臨床心理学	日本のありふれた心理療法:ローカルな日常臨床のための心理学と医療人類学	誠信書房
275	社会心理	臨床心理学	ICT社会の人間関係と心理臨床:スマホ依存、ネット依存対策に関する臨床心理士らの提	川島書店
276	社会心理	臨床心理学	傾聴の心理学:PCAをまなぶ:カウンセリング/フォーカシング/エ	創元社
277	社会心理	臨床心理学	オープンダイアローグ	日本評論社
278	社会心理	臨床心理学	マンガでわかる!統合失調症	日本評論社
279	社会心理	臨床心理学	マンガでわかる!統合失調症. 家族の対応編	日本評論社
280	社会心理	臨床心理学	子どもの感情コントロールと心理臨床	日本評論社

図書目録（社会学科 社会心理学コース）

No.	コース	分野・領域	書名	出版社
281	社会心理	臨床心理学	自傷行為の理解と援助:「故意に自分の健康を害する」若者たち	日本評論社
282	社会心理	臨床心理学	人を信じられない病:信頼障害としてのアディクション	日本評論社
283	社会心理	臨床心理学	精神医学ハンドブック:医学・保健・福祉の基礎知識	日本評論社
284	社会心理	臨床心理学	ミルトン・エリクソン:魔法使いの秘密の「ことば」	法政大学出版局
285	社会心理	臨床心理学	心理学からみた食べる行動:基礎から臨床までを科学する	北大路書房
286	社会心理	臨床心理学	臨床心理アセスメントハンドブック	北大路書房
287	社会心理	臨床心理学	臨床心理学	北大路書房
288	社会心理	臨床心理学	医療・保健・福祉・心理専門職のためのアセスメント技術を高めるハンドブック:ケースレポートの方法からケース検討会議の技術まで	明石書店
289	社会心理	臨床心理学	家族心理学:家族システムの発達と臨床的援助	有斐閣
290	社会心理	臨床心理学	臨床言語心理学の可能性:公認心理師時代における心理学の基礎を再考する	晃洋書房
291	社会心理	臨床心理学	病いは物語である:文化精神医学という問い	金剛出版
292	社会心理	臨床心理学	こころを科学する:心理学と統計学のコラボレーション	共立出版
293	社会心理	臨床心理学	解決のための面接技法:ソリューション・フォーカストアプローチの手引き	金剛出版
294	社会心理	臨床心理学	心理職のためのエビデンス・ベースト・プラクティス入門:エビデンスを「まなぶ」「つくる」「つかう」	金剛出版
295	社会心理	臨床心理学	ストレスから自分を守る20の習慣:こころのセルフケア	金子書房
296	社会心理	臨床心理学	自己カウンセリングとアサーションのすすめ	金子書房
297	社会心理	臨床心理学	人が自分をだます理由:自己欺瞞の進化心理学	原書房
298	社会心理	臨床心理学	フェビナーと心理学	現代書館
299	社会心理	臨床心理学	心理学入門:こころを科学する10のアプローチ	講談社
300	社会心理	臨床心理学	ストレス学ハンドブック	創元社

